桐蔭横浜大学スポーツ科学部
設置の趣旨等を記載した書類

学校法人桐蔭学園

令和４年７月

目　次

１．設置の趣旨及び必要性 1
（１）今，求められる人材 1
（２）桐蔭横浜大学の使命 3
（３）桐蔭横浜大学の取組 4
（４）スポーツ科学部を設置する趣旨 9
（５）教育目標と養成する人材像 10
（６）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 11
（７）養成した人材が活躍する場 11
（８）中心となる学問分野 13
２．スポーツ科学部の特色 14
３．学部・学科等の名称及び学位の名称 17
（１）組織名称を当該名称とする理由 17
（２）学位の名称と当該学位とする理由 17
４．教育課程の編成の考え方及び特色 19
（１）教育課程の基本的な考え方 19
（２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 19
（３）教育課程とその特色 19
５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件 26
（１）教育課程の体系化 26
（２）卒業要件 26
（３）履修モデル 26
（４）卒業研究 26
（５）学修時間の確保 26
（６）学修支援 27
６．実習の具体的計画 28
（１）実習の目的と特徴 28
（２）実施方法と内容 28
７．入学者選抜の概要 30
（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） 30
（２）選抜方法 30
（３）入学者選抜の実施体制 31
８．教員組織の編制の考え方及び特色 32
（１）教員組織編制の基本的考え方 32
（２）教員組織 32
（３）教員組織の年齢構成 32

９．施設，設備等の整備計画.....33
（１）校地校舎等.....33
（２）図書等の資料及び図書館.....33
１０．管理運営.....34
（１）教授会.....34
（２）全学執行体制上の位置づけ.....34
１１．自己点検・評価.....35
（１）全学的実施体制.....35
（２）実施方法等.....35
１２．情報の公表.....36
１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等.....38
（１）全学的な取組.....38
（２）スポーツ科学部としての取組.....38
１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....39
（１）適切な体制の整備と全学的な取組.....39
（２）教育課程内の取組.....39
（３）教育課程外の取組.....39
資料.....40

１．設置の趣旨及び必要性

（１）今，求められる人材

デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation, DX）やグローバル化の更なる進展により，世界的規模で社会と価値観が激しく変化している。昨日不可能だったことが今日には可能となり，今日最先端である知識・技術が明日には陳腐化する。折しも，新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行により，私たちはそのことを痛感することとなった。まさに本格的なVUCA[1]の時代に突入したと言える。

（普遍的なコンピテンシー）

このように変化が激しく，予測することが困難な時代において求められるのは，自ら考え，主体的に行動し，責任を持って社会の変化に関わっていくことができる人材である。

2000年代以降，高等教育政策においては，「主体的に変化に対応し，自ら将来の課題を探求し，その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力」として課題探求能力や，「幅広い教養を身に付け，高い公共性・倫理性を保持しつつ，時代の変化に合わせて積極的に社会を支え，あるいは社会を改善していく資質を有する人材」として21 世紀型市民など，累次の政策提言の中で「陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」の育成を大学に求めてきた。しかしながら，例えば平成14年（2002年）に発表された神奈川経済同友会提言[2]にあるように，企業はそうした大学の取組に不満と疑念を持っているとし，「変化の激しい時代にあって，物事の本質を見極め，新しい発想力や旺盛な起業力といった資質により，新たなビジネスを展開する資質・能力溢れる人材」の育成を大学に改めて強く求めるなど，大学の取組は十分とは言えなかった。

そのような背景もあって，2010 年代には政策は更に踏み込み，普遍的なコンピテンシー（＝汎用的能力）の育成に必要な活動は何かという発想に基づき教育プログラムを構築するとともに，アクティブラーニングの導入など，教育方法を質的に転換すること（＝大学教育の質的転換）を求め，全学の大学における教育改革を強力に促進することとなった。

現在，高等教育政策を方向づける「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」[3]においては，これら過去の政策を総括しつつ，今後の高等教育は「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち，その知識や技能を活用でき，ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち，自律的に責任ある行動をとれる人材」を育成することを求めている。未だに課題は継続されており，大学として真摯に向き合わなければならない事柄となっている。

また産業界においても，「文系・理系であることを問わず，リテラシー（数理的推論・データ分析力，論理的文章表現力，外国語コミュニケーション力など），論理的思考力と規範

---

[1] Volatility：変動性，Uncertainty：不確実性，Complexity：複雑性，Ambiguity：曖昧性。先行きが不透明で将来予測が困難な状況。
[2] 社団法人神奈川経済同友会 2002，「大学の創造性教育に関する提言」
[3] 中央教育審議会 2018

的判断力，課題発見・解決能力，未来社会の構想・設計力，高度専門職に必要な知識・能力が求められ，これらを身に付けるためには，基盤となるリベラルアーツ教育が重要」と普遍的なコンピテンシーの育成を大学教育に期待している[4]。

（専門知識への眼差し）

イノベーションが急速に進展し，人工知能(AI)・ビッグデータ・IoT(Internet of Things)などの技術革新が，産業・社会構造を急激に変化させている。またデジタルトランスフォーメーション（DX）が進むにつれて，産業・社会は労働集約型・資本集約型から知を集め，つなぎ，活用することで新たな知を創出する知識集約型にシフトしている。知と知の組み合わせがイノベーションを創出し，新しいビジネスモデルや商品・サービスを生み出す源泉となる。またそうした経済活動にとどまらず，現代社会を取り巻く様々な社会的課題に対しても，多様な人材が知を持ち寄り，組み合わせ，最適な解を導き出すことが期待されている。本学が立地する神奈川県横浜市においても，横浜経済の維持・発展のために，技術革新の進展などを踏まえ，中小・大企業・大学等が互いの力をいかして新たな価値を生み出すことができるオープンイノベーションの推進など，新たな市場分野を開拓し，雇用やイノベーションを生み出すことに取り組んでいる[5]。

政府においては第５期科学技術基本計画にSociety 5.0を掲げ，IoTで全ての人とモノがつながり，様々な知識や情報が共有され，新たな価値を生み出すことで課題や困難を克服するなど，先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ，経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会を目指すことを提唱している。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」においても，「分野を越えた専門知の組合せが必要」とし，一般教育においては従来の組織の枠を越えた幅広い分野からなるカリキュラムを，専門教育においては従来の専攻を越えた幅広くかつ深いレベルの教育を求めている。

このように，大学教育においては，激しく変化する社会に対応するための普遍的なコンピテンシーと，知識集約型の未来社会に積極的に関わっていくための幅広く確かな専門知識の双方が獲得できる教育プログラムの構築が求められている。

（スポーツで未来社会を創る人材）

平成23年にスポーツ振興法が全部改正され，スポーツ基本法としてスポーツに関する施策の基本となる事項が定められた。世界共通の人類の文化で，国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであるスポーツの重要性に鑑み，我が国がスポーツ立国の実現を目指し，国家戦略として取り組んでいくことが謳われている。

---

[4] 日本経済団体連合会 2020 ，「採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書　Society5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」
[5] 横浜市　中期４か年計画　2018－2021

平成 29 年度から令和３年度までの第２期スポーツ基本計画においては，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでその価値を享受し，人生を豊かにしていくことに加え，共生社会や健康長寿社会，経済・地域の活性化，多様性を尊重する世界の実現など，スポーツが未来社会を創っていく可能性について言及している。令和４年度からの第３期においては，第２期で言及されたことを踏襲しつつ，次の３つの視点が加えられている。

① 社会情勢や個々の置かれた状況に応じて，既存の枠組みや考え方のみにとらわれることなく，それらを不断に柔軟に見直し・改善し，最も適切・有効な，あるいは個々の状況等に柔軟に応じた方法やルールを考え出したり，創り出したりするという視点
② 既存の区別や整理の仕方を所与の前提として固定的に捉えるのではなく，一人一人が置かれた状況や事情，特性等も踏まえ，様々な立場にある人々誰もが「ともに」活動し，「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し，機運を醸成する視点
③ 性別，年齢，障害の有無，経済的事情，地域事情等，それぞれが置かれた状況によって，スポーツに取り組むことを諦めたり，望まずに途中で離れたりすることがないよう，全ての人がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成を目指す視点

これらのことから，スポーツは，特定のアスリートや業界関係者だけのものではなく，社会全体に影響を及ぼし，そしてより良い未来社会を創るための重要な公共財として期待されていることがわかる。そのためには，スポーツを通じて，そしてスポーツを活用して社会の課題解決に挑むことができる人材が必要である。普遍的なコンピテンシーを携え，そしてスポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し，融合することで新たな知見を生み出すことができる人材，スポーツで未来社会を創る人材が求められている。

（２）桐蔭横浜大学の使命

桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）の設置者である学校法人桐蔭学園は，昭和 39 年（1964 年）に学校法人設立の認可を受け，

１ 社会連帯を基調とした，義務を実行する自由人たれ。
２ 学問に徹し，求学の精神の持ち主たれ。
３ 道義の精神を高揚し，誇り高き人格者たれ。
４ 国を愛し，民族を愛する国民たれ。

更に，創立 50 周年に際して，

５ 自然を愛し，平和を愛する国際人たれ。

を加えて建学の精神とし，幼稚園から大学院まで，幼児・児童・生徒・学生約 8,000 人を擁し，教育活動を展開する総合学園である。中期計画（令和２年度～６年度）においては，こ

の５つの建学の精神に基づいた教育を実践し，急速に進むグローバル化や ICT を中心とした技術革新，少子化時代の到来などの社会環境にたくましく対応することのできる人材の育成を行なっていくとともに，その活動を支える組織，財政基盤の整備を図ることを掲げている。

（人材育成）

これまで本学は，建学の精神を具体化した「個の充実」，「実務家養成」，「開かれた大学」，「国際交流」の４つの柱を特色とし，法学部，医用工学部，スポーツ健康政策学部という専門性の高い３つの学部を擁し，一人ひとりの「専門性を高める」ことを目標に掲げ教育研究活動を行ってきた。しかしながら，今，求められる人材に掲げた問題意識のもと，中期計画に掲げた「激しく変化する社会環境に対応できる人材」を育成するため，令和２年度より抜本的な教育改革に着手している。この改革の主眼を，

- これまで以上に学生の能力を引き出し，最大限に育成すること。
- 「なりたい自分」を見出した学生を本気で育てること。
- 変化の激しい社会においてもエージェンシー[6]を発揮し，社会を支える人材を輩出すること。

の３点に置き，建学の精神を実現する，新しい本学の社会貢献のあり方として掲げている。これまで培ってきた専門性の高い教育研究を基盤に，現代社会の変化にたくましく対応し，より良い未来社会の構築に積極的に関わっていくことのできる人材を育成することを確認している。

（３）桐蔭横浜大学の取組

本学は法的思考能力を備えた人材を養成する法学部，臨床検査技師や臨床工学技士を養成する医用工学部，スポーツの指導者やスポーツエンジニア等を養成するスポーツ健康政策学部といった，それぞれ専門特化した３学部を擁する。これまで大学として専門職業人養成を主柱とした教育研究を展開し，地域・産業社会に貢献してきた。

一方で，専門に特化したこれまでの取組では，教育研究活動が各学部に閉じたものとなってしまった。教育課程は過度に専門重視となり，全学的な教学マネジメントが希薄となり，「普遍的なコンピテンシー」に対する大学としての取組が非常に困難な状況になってしまった。

そこで令和２年度より取り組んできた全学教育改革をより加速させ，人材育成における「桐蔭横浜大学共通」のブランドを改めて確認し，再構築するため桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（Toin Univ.’s Re-Branding Strategy，TURBoS）を令和３年度に策定し，全学的な大学改革に取り組むこととした。（図１）

---

[6] 自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していく力。（中央教育審議会 2018，「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」）

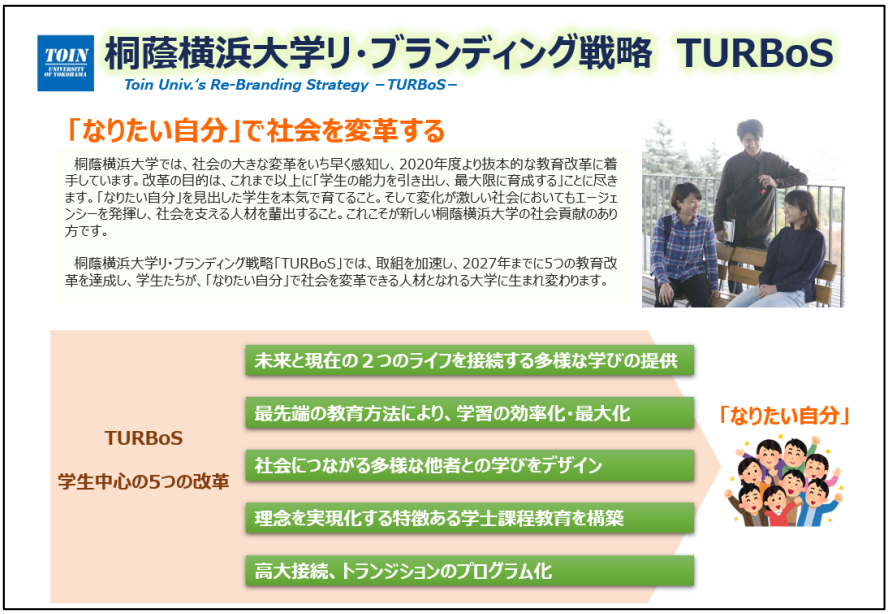


図１　桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（TURBoS）の概要

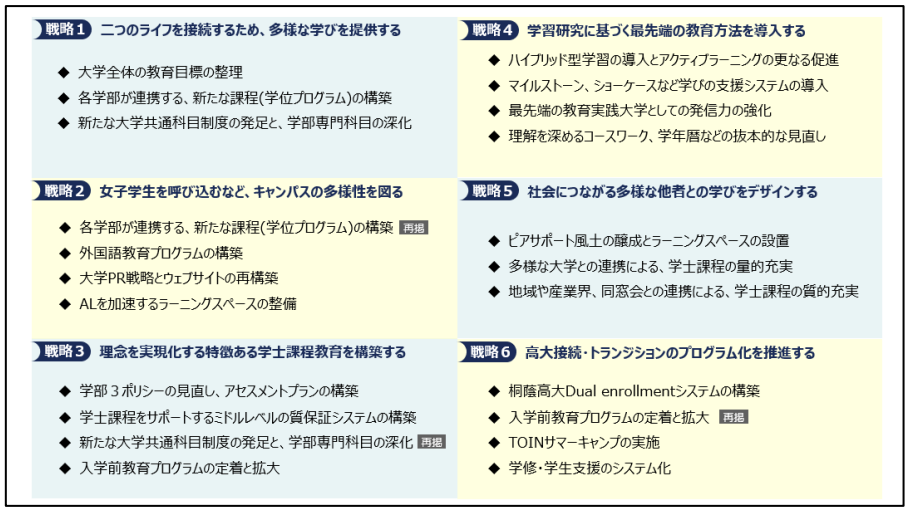


図２　TURBoS の具体的な戦略とアクション

具体的な戦略とアクションは多岐にわたるが（図２），令和３年度は主として大学全体の教育目標の整理と，新たな大学共通科目制度の発足に注力した。普遍的なコンピテンシーと幅広く確かな専門知識の双方が獲得できる教育プログラムを本学に構築していくとき，過度に専門特化した現在の教育体制をまず刷新する必要があるためだ。

（ユニバーシティ・ポリシーの策定）

この変化が激しく予測困難な社会でエージェンシーを発揮し，活躍できる人材を育成す

る本学の現代的使命のため，学生に，どの専門教育課程においても到達してほしい桐蔭横浜大学共通の教育・学修目標を「ユニバーシティ・ポリシー」として策定した。これが本学の考える「陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」であり，桐蔭横浜大学の卒業生が共通して獲得する資質・能力として，大学のブランディング戦略の起点となるものである。

桐蔭横浜大学ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は，すべての学位プログラムにおいて，深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し，主体的に社会と関わり，その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで，社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。

「人生と学びの基盤となる力」

・考動力

物事を批判的に捉えて問題を発見するとともに，その問題解決のために行動する力

・複眼的思考力

多角的な視点と柔軟な心をもって，物事をとらえる力

・共感力

他者の意見や考えに耳を傾けるとともに，自らの意見や考えを表現し，伝える力

・リーダーシップ

集団の目標達成のために，自らの果たすべき責任を自覚するとともに，他者と良好な関係を築き，協働する力

・探究力

積極的に新しいことに挑戦するとともに，粘り強く学び続ける力

・自律的キャリア

長期的な展望をもって将来の人生を思い描き，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行する力

図３　桐蔭横浜大学「人生と学びの基盤となる力」

（大学共通科目 MAST プログラム）

これまで本学の各教育課程は過度に専門特化しており，一般教育やキャリア教育等の科目についても，各学部がそれぞれに独自に開設してきた。このたび大学全体の教育目標としてユニバーシティ・ポリシーを策定したことから，本学としての一般教育等の体制を抜本的に刷新し，新たに大学共通プログラム「MAST（マスト）プログラム[7]」を構築した。この MAST プログラムは，法・医用工・スポーツ健康政策の全学部に加え教育研究開発機構[8]から教育資源を結集し，普遍的なコンピテンシーを，現代を読み解く５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）に立脚しながら獲得していく構成としている。また，英語，キャリア教育，アカデミックスキルに加え，数理・データサイエンスの入門科目を必修科目と設定している。

各学部の専門課程は，まずディプロマ・ポリシーの中にユニバーシティ・ポリシーを反映させ，MAST プログラムを教育課程に取り入れ，学士課程を再構築する（図４）。令和４年度より施行している。

[7] 海洋都市を標榜する横浜市に立地することから，本学の教育を船に見立て，すべての学生に獲得してほしい普遍的なコンピテンシーを帆柱（MAST）と位置付けた。学部を問わずすべての学生が必ず受講する（マスト）という意味合いも込めている。
[8] 教学マネジメントの推進や，教育方法・内容等の研究開発など，全学の教育を支援するために令和２年度に設置した附置機関。

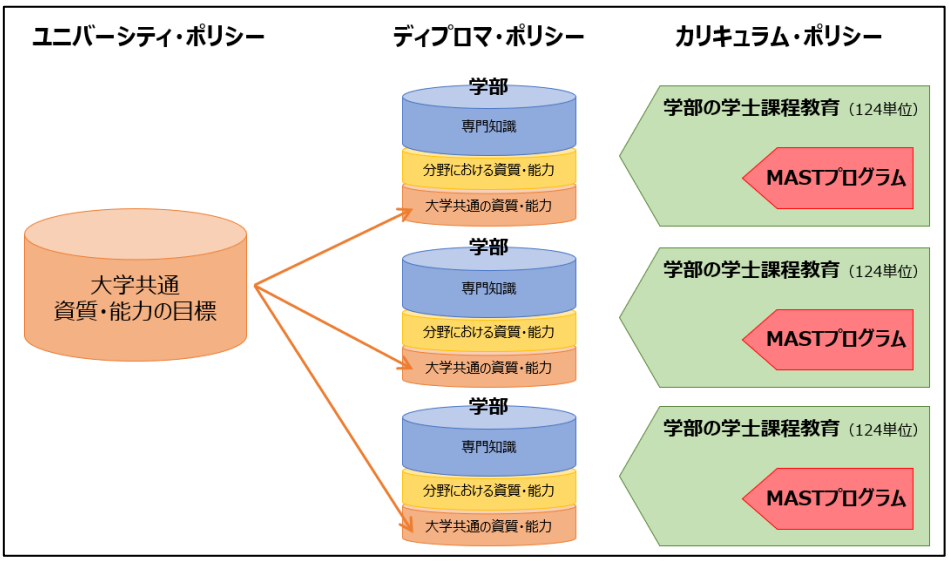


図４　ユニバーシティ・ポリシーと MAST プログラム，各専門課程の関係性

（各学部の教育改革）

激しく変化する社会に対応するための普遍的なコンピテンシーと，知識集約型の未来社会に積極的に関わっていくための幅広く確かな専門知識の双方が求められる中で，前者に対応するためにユニバーシティ・ポリシーの策定と大学共通 MAST プログラムの構築に取り組んできた。後者に対応するため，各学部の教育課程を見直す必要がある。各学部の教育課程の専門性を再確認し，より鮮明にすることが，本学共通の教育システムとして学生の学びをデザインするために欠かせない。

法学部においては，弁護士や警察官等の「人を助ける仕事」，公務員や銀行員等の「社会を豊かにする仕事」，教員やコンサルタント等の「人を育てる仕事」など，「法律の知識が役立たない分野はない」との認識のもと，多様な進路を示し，多様な人材養成に取り組んできた。教育課程は，一般教育科目と専門教育科目の２区分で編成してきたが，多様な人材養成への対応から，科目が乱立し体系性が不明瞭な状況になっていた。このたびの全学改革に伴い，ディプロマ・ポリシーの見直しと大学共通 MAST プログラムの導入，一般教育科目の抜本的改廃，法学基礎・専門科目の再体系化に取り組んでいる。MAST プログラムにおける現代を読み解く５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）と再整理された法学知識の組み合わせにより，確かな専門知識を幅広く活用し，たくましく現代社会を生き抜くことができる人材養成を目指す。

医用工学部においては，「医学と理工学を組み合わせた学び」を提供し，生命医工学科において臨床検査技師を，臨床工学科において臨床工学技士を養成している。いずれも文部科学大臣指定（認定）の医療関係技術者養成学校ではなく，国家試験受験承認学校である。つまり，各国家資格に特化した教育課程を修めるための学部ではなく，工学分野を基盤とした教育研究を行う学部である。しかしながら国家資格取得に対する学生・受験生の関心が高く，

そのニーズに応えるため，これまで国家試験の対策に資源を集中させてきた。その結果，国家試験合格率は全国に遜色のない結果[9]を得られ，卒業生は病院等の医療現場に多く就職している。一方，最近は医療現場においても，専門知識を獲得し国家資格を有するだけではなく，幅広い教養や視野などを大学での活動経験を通じて獲得している学生が求められる傾向が強い。そこでこのたびの全学改革に伴い，ディプロマ・ポリシーの見直しと大学共通 MAST プログラムの導入，一般教育科目の改廃を行い，専門医療系資格取得者に付加価値をつけることができる教育を志向する。

（４）スポーツ科学部を設置する趣旨

これまでスポーツ健康政策学部においては，本学園が大きな力を注いできたスポーツ活動と文化活動を礎に，社会学的，経済的，政治的，文化的，歴史的な側面から現代社会を捉え，文化・スポーツを通じて課題解決に貢献できる人材育成を志向し，本学園のフラッグシップとして本学を牽引してきた。スポーツ教育学科，スポーツテクノロジー学科，スポーツ健康政策学科の３学科を，スポーツ科学，政治学，工学，文化学など様々な人文社会，自然科学の諸分野で構成してきた。スポーツ教育学科においては，複雑化する現代社会の要請にこたえることができ，正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や，生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成してきた。スポーツテクノロジー学科においては，スポーツ科学や工学，関連する領域の専門的な知識とともに，科学的・総合的な見識と技能等を持つ指導者やエンジニアを養成してきた。スポーツ健康政策学科においては，文化やスポーツ，健康に関わる政策立案に資する人材や，スポーツや文化芸能などに精通し次世代のスポーツ文化交流の担い手となる人材を養成してきた。

このたびの全学改革は，本学園のフラッグシップとしてのスポーツ健康政策学部の教育理念を，学部を越えて，本学の持つすべての分野に展開するところにある。単一の専門分野に通じた人材育成から脱却し，普遍的なコンピテンシーと幅広く確かな専門知識を獲得した人材を育成するため，スポーツ健康政策学部で培った教育資源を全学で共有，再編することが必要である。そのため当学部から多くの資源を提供し，大学共通 MAST プログラムを構築した。それに伴い，スポーツ健康政策学部においてもディプロマ・ポリシーを見直し，一般教育科目を改廃し，大学共通 MAST プログラムを導入する。

スポーツ健康政策学部の理念を全学共通で普遍化し，そのための共通プログラムが発足するにあたって，当学部は「確かな専門知識」を獲得できる教育課程を再構築する必要が生じる。そこでスポーツ健康政策学部の専門性をスポーツ科学や工学，教育に集中させ，スポーツ科学部として改組し，大学共通の学びと学部の専門の学びという全学的な構造を完成させる。スポーツを通じて，そしてスポーツを活用して社会の課題解決に挑むことができる

---

[9] 2021 年度国家試験合格率
臨床検査技師：80.6%（全国平均 80.2%），うち新卒 91.3%（全国平均 91.6%）
臨床工学技士：93.5%（全国平均 84.2%）

人材として，普遍的なコンピテンシーを携え，そしてスポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し，融合することで新たな知見を生み出すことができる人材を育成する。そのためスポーツ健康政策学部は，スポーツという対象を科学し，確かな専門知識を学ぶことができるスポーツ科学部として改組転換していく。

具体的には，正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や，生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成するスポーツ教育学科と，スポーツ科学や工学，関連する領域の専門的な知識とともに，科学的・総合的な見識と技能等を持つ指導者やトレーナーを要請するスポーツ健康科学科の２学科体制とし，スポーツを「ささえる」人材を育成する。本学は既に「スポーツ科学研究科」を有しており，この改組により大学院との接続がより明確になることも企図している。

（５）教育目標と養成する人材像

（桐蔭横浜大学の教育目標）

桐蔭横浜大学憲章において次のように宣言している。

○　日本社会と世界の将来像に照らして，社会貢献できる人材を育成する。大学生，大学院生が，自ら判断する能力と実行力を磨き，仲間と協同することもできる人間に鍛える。

○　人権意識に目覚めさせ，市民性の涵養を行う。

この憲章を具現化するため，「すべての学位プログラムにおいて，深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し，主体的に社会と関わり，その中で『人生と学びの基盤となる力』を発揮することで，社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する」と大学共通の教育目標を定めている。

（スポーツ科学部の教育目標）

スポーツ科学部は，深い教養と倫理感を礎に，スポーツ科学についての専門的知識・技能を身につけ，スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し，新たな価値を生み出すことができる人材を養成し，輩出する。

（養成する人材像）

以上の目標を達成するために，スポーツ科学部では，幅広い教養と確かな専門知識を身につけて，現代社会が抱える諸問題を，スポーツ文化を通して解決することができる，以下のような人材を養成する。

①　スポーツや健康に関する専門知識を，現代社会の諸課題と関連づけて理解し，多角的

な視点と柔軟な発想をもって他者に伝えることができる

② スポーツに関する理論や技能，洞察力を修得し，教育やスポーツの現場で指導することができる

③ スポーツマネジメントやマーケティングを理解し，身体文化やスポーツを手掛かりに，すべての人が健康で楽しく生きられる社会のデザインをすることができる

（６）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ科学部は，深い教養とスポーツ科学についての専門的知識を身につけ，その上で現代社会が抱える課題に対応できる人材を輩出することを目標として，卒業時に以下のような能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

１．スポーツ科学に関する専門知識と技能を体系的に身につけている。【スポーツ科学】

２．スポーツや健康に関する専門知識を，現代社会の諸課題と関連づけて理解している。【現代社会とスポーツ】

３．物事を批判的に捉えて問題を発見するとともに，その問題解決のために行動することができる。【考動力】

４．多角的な視点と柔軟な心をもって，物事をとらえることができる。【複眼的思考力】

５．他者の意見や考えに耳を傾けるとともに，自らの意見や考えを表現し，伝えることができる。【共感力】

６．集団の目標達成のために，自らの果たすべき責任を自覚するとともに，他者と良好な関係を築き，協働することができる。【リーダーシップ】

７．積極的に新しいことに挑戦するとともに，粘り強く学び続けることができる。【探究力】

８．長期的な展望をもって将来の人生を思い描き，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行することができる。【自律的キャリア】

（７）養成した人材が活躍する場

本学では，これまで一人ひとりの「専門性を高める」ことを目標に掲げ教育研究活動を行い，専門分野への高い就職実績を積み重ねてきた。また，学生が将来社会で希望の仕事に就き，思う存分活躍するために，キャリア講座やインターンシップ，業界研究セミナーなどに加え，本学ならではの学生と教員の「距離の近さ」を活かしたきめ細やかなキャリア支援を行ってきた。旧スポーツ健康政策学部の卒業生は，学校教員，スポーツトレーナー，スポーツクラブ等スタッフの他，警察官等の公務員，NPO・NGO スタッフ，医療・福祉スタッフ等，幅広い進路を実現してきた。

新たなスポーツ科学部においては，これまでの進路実績を基盤としながら，学校教員，生涯学習指導者，スポーツアナリスト，スポーツインストラクター等において活躍できる人材

を輩出していく。

（スポーツ教育学科が輩出する人材）

スポーツ教育学科においては，深い教養と倫理感を礎に，スポーツ科学についての専門的知識・技能を身につけ，スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し，新たな価値を生み出すことができる人材，複雑化する現代社会の要請にこたえることができ，かつ，正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や，更には生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成する。具体的には，現代社会が抱える諸問題を，スポーツや身体文化を通して解決することができる，以下のような能力を習得させる。

① スポーツや健康に関する専門知識を，現代社会の諸課題と関連づけて理解し，多角的な視点と柔軟な発想をもって他者に伝えることができる
② スポーツに関する理論や技能，洞察力を修得し，教育やスポーツの現場で指導することができる
③ スポーツマネジメントやマーケティングを理解し，身体文化やスポーツを手掛かりに，すべての人が健康で楽しく生きられる社会のデザインをすることができる
④ 社会的背景を踏まえ ICT（情報通信技術）を，教育現場で適切に利用することができる
⑤ スポーツ現場において運動技能やスポーツ・パフォーマンス向上のために他者，あるいは自らの動作を客観的に見て分析しフィードバックすることができる

こうした能力を携え，小学校，中学校，高等学校の教員や，生涯学習社会における指導者として活躍できる人材を育成し，輩出する。

（スポーツ健康科学科）

スポーツ健康科学科においては，深い教養と倫理感を礎に，スポーツ科学についての専門的知識・技能を身につけ，スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し，新たな価値を生み出すことができる人材，我が国のスポーツや教育，文化，或いは社会全体に対し貢献することが可能な指導者（政策立案者）を養成する。具体的には，現代社会が抱える諸問題を，スポーツや身体文化を通して解決することができる，以下のような能力を習得させる。

① スポーツや健康に関する専門知識を，現代社会の諸課題と関連づけて理解し，多角的な視点と柔軟な発想をもって他者に伝えることができる
② スポーツに関する理論や技能，洞察力を修得し，教育やスポーツの現場で指導することができる

③　スポーツマネジメントやマーケティングを理解し，身体文化やスポーツを手掛かりに，すべての人が健康で楽しく生きられる社会のデザインをすることができる

④　最先端のスポーツ機器及び測定機器などを活用し，得られたデータを適切に利用した指導が実践することができる

⑤　障害のある人に対するスポーツの現状と課題を理解し，そのうえで，障害の有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しみ挑戦できる社会に貢献できるよう，スポーツ推進の現場を構築することができる

こうした能力を携え，競技や健康づくりにおける指導者，行政におけるスポーツ政策立案者，スポーツトレーナー，スポーツアナリストとして活躍できる人材を育成し，輩出する。

（８）中心となる学問分野

このたび，全学的な教学組織改編において，スポーツ健康政策学部の専門性をスポーツ科学や工学，教育に集中させ，スポーツという対象を科学し，確かな専門知識を学ぶことができるスポーツ科学部として改組する。スポーツ科学とは，スポーツを通して人々が得られる効果や可能性について探求し，その知見を健康・体力づくりや競技の練習プログラムなどに還元することを目指す学問領域である。

２．スポーツ科学部の特色

スポーツ科学部は，以下の構成図（図５）に示すとおり「スポーツ教育学科」，「スポーツ健康科学科」の２学科・５コースで構成する。

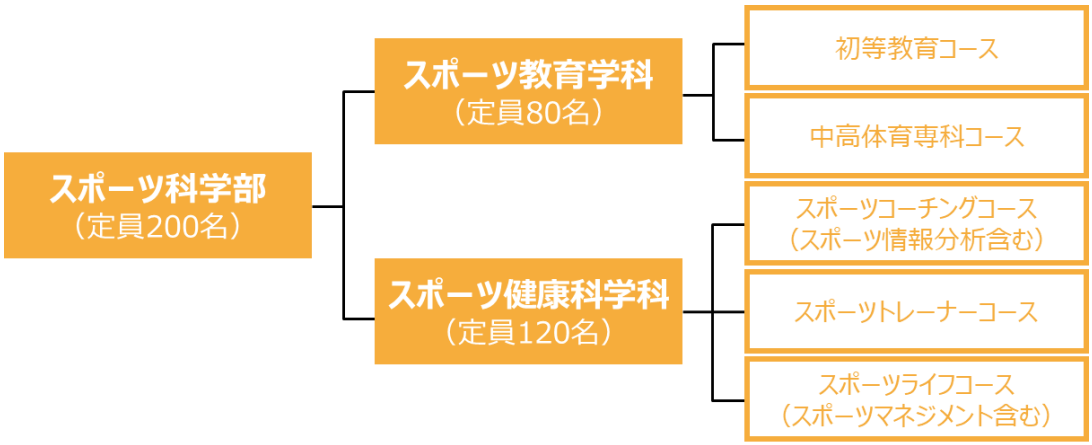


図５　スポーツ科学部の構成図

（スポーツ教育学科）

スポーツ庁，令和３年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によれば、平成 30 年度をピークに，小学生から大学生にかけて体力低下が著しい。さらには，小学児童の肥満が増加傾向にあり，長期の展望に立った場合，これらの傾向は極めて憂慮すべき問題と言える。

これまで我が国においては，体育・スポーツを専門的に学び教職を希望する学生は，その多くが中学・高等学校の教員として教職に就いてきた。しかし，現在の我が国の青少年の体力低下を改善させるために本来必要な人材は，身体の機能やスポーツの知識を専門的に学修した小学校の教員にこそ求められるべきである。これまでの中学・高校生段階からの専門的な指導のみならず，小学生からの長期的な視点に立脚した，体の機能や健康，スポーツに関する専門的な知識を児童に伝えることができる指導者が求められている。

また学校教育という視点に立つと，学力低下や学級崩壊の問題，現代の急速に複雑化した社会構造による，いじめ多発の問題，さらにはそれに起因する児童・生徒の自殺の問題，また教員の指導力低下や不祥事の発生など深刻な問題を抱えている。これらの諸問題に加え，1980 年頃から増加の一途を辿る，いわゆるニューカマーと呼ばれる在留外国人の存在も忘れてはならない。グローバル化が著しく進展する今日，国内における外国人登録者数は増加傾向にある。在留外国人の子弟が国内で教育を受けるとなれば，これまで指摘されてきた学力低下，学級崩壊，いじめなどの諸問題に加え，さらにどのような問題が浮上してくるのかは未知数である。つまり，学校教育及びスポーツの専門的な指導法を研究することはもちろんのこと，広い視野と豊富な知識，柔軟な発想力を携え，異文化を理解することができ，身

体表現やスポーツをコミュニケーションツールとして駆使し，児童・生徒を理解することができる，総合的な指導力を持った教員や指導者の育成が急務である。このように，様々な問題を抱える現代社会が，スポーツや体育，あるいは教員に対して求めるものは大きい。今後より一層複雑化していく現代社会が抱える諸問題を解決できるような，新しい時代のスポーツ・体育や教育を開拓するための専門的な人材を養成することがスポーツ教育学科設置の目的であり，特徴である。

なお，スポーツ教育学科は，４年間で小学校教諭免許と中学・高等学校教諭免許（保健体育）の同時取得を目指す学生が多くなることが予想されることから，充実した教職専門教育の指導体制を構築するため，教育課程及び各授業科目できめ細やかな指導が可能な 120 名を入学定員として設定した。ただし内 40 名を，別に届け出る学部等連係課程「現代教養学環」に割り当てる。

（スポーツ健康科学科）

これまで，旧スポーツ健康政策学部スポーツ健康政策学科では，スポーツによって健康の維持増進を図り，健康な社会を作るための人材育成，国家の未来に繋がるための人材の育成を第一に掲げてきた。具体的には「スポーツ健康運動実践指導者資格」の取得者を増やす，あるいはスポーツ及び健康に係わる NPO 団体の設立やその運営能力を有したスポーツ政策立案者の養成を目的としてきた。加えて，もう一つの軸として，世界平和にスポーツで貢献できる人材育成を掲げてきた。グローバル化の進展が指摘されるようになって久しいが，世界に目を向けると，ロシアのウクライナ侵攻に代表されるように，民族間の紛争やテロなどの問題が世界中で多発している。それらの諸問題について，文化やスポーツを通じて解決の糸口を探ることのできる人材の養成を行ってきたところである。

また旧スポーツテクノロジー学科では，スポーツを支える指導者やスポーツエンジニアの育成を目指し，スポーツ科学及び工学，関連する領域の専門的な知識とともに，科学的・総合的な見識と技能を持つ人材を養成することを基本理念として発足し，15 年が経過した。しかし昨今の社会においては，高等教育段階でスポーツ技術や指導法，トレーナーの学問を学ぶとともに，テクノロジー分野の知識も身に付けた有為な人材が求められている。令和３年の東京オリンピック・パラリンピックや，北京で行われた令和４年の冬季オリンピック・パラリンピックを終え，スポーツ現場で活動する指導者，トレーナー，栄養士，スポーツクラブ経営者など様々な職種で，ICT（情報通信技術）は必須の知識となりつつある。このような社会の要請に鑑み，新たなスポーツ健康科学科においては，これまで培ってきた旧スポーツテクノロジー学科の自然科学系の学問領域，具体的にはスポーツコーチングコース（スポーツ情報分析を含む。）と，スポーツトレーナーコース（医療系の学問領域を含む。）を中心に，スポーツライフコース（スポーツマネジメントを含む。）を加え、これまで旧スポーツ健康政策学科で培ってきた人文科学系の持つ特色を融合させた新たな学科構成とした。

学科の特徴として，２年生からコース選択を行いそれぞれの専門性を追求し，系統的に学

びを深めていく方式を採用している。いずれのコースも実習科目を選択必修としており，学内での講義や演習で学んだ知識を実社会や自然環境の中で実体験し，それらの体験を持ち帰り学内で振り返る徹底したアクティブラーニングによって，学生が相互に気付きや学びを深めることを基軸としている。具体的には，スポーツインターンシップ実習，スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ，スポーツ現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，シーズンポーツ実習Ⅰ・Ⅱなどがその該当科目となる。

なお，講義科目におけるアクティブラーニングの充実をさらに進めることも視野に入れており，演習科目や実習科目を含めた授業に関わる教場の許容人数などを包括的に考えて，入学定員を 150 人と設定した。ただし内 30 名を，別に届け出る学部等連係課程「現代教養学環」に割り当てる。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

組織名称　：　スポーツ科学部　Faculty of Sport Sciences
　　スポーツ教育学科　Department of Sport Education
　　スポーツ健康科学科　Department of Sport and Health Sciences
学　　位　：　学士（スポーツ科学）　Bachelor of Arts in Sport Sciences

（１）組織名称を当該名称とする理由

本学は，すべての学位プログラムにおいて，深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し，主体的に社会と関わり，その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで，社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。その上で，当該学部では，スポーツに関わる確かな専門的知識・技能を身につけるとともに，多様な他者と協働することで社会の課題解決に挑むことができる人材を育成する。

「スポーツ科学」は，スポーツを通して人々が得られる効果や可能性について探求し，その知見をアスリート等の競技力向上のみならず，広く人類の福祉や文化の向上に還元するものとして広がりを見せている学問領域である。スポーツが，国策としてより良い未来社会を創るための重要な公共財として期待されていること，本学として，スポーツを通じて現代社会が抱える課題に対応できる人材を輩出する使命があることを踏まえ，改組転換後の当該組織を「スポーツ科学部」とするものである。「スポーツ科学部」は国内他大学でも学部名称として使用する複数の先行事例があり，それら教育内容と比較しても，本学の生まれ変わった当該組織がスポーツ科学を冠することは，受験生や学生，その他ステークホルダーに対しても通用性が高い。

２学科を設置するが，これまで教員養成を大きな柱としてきた旧スポーツ教育学科は，小学校教諭免許と中学・高等学校教諭免許（保健体育）を４年間で同時取得ができることが特徴であり，これまで多くの優秀な教員を輩出してきた実績がある。今後も教育のスペシャリストを養成することを目的としていることから，新スポーツ科学部においても，これまでと変わらず「スポーツ教育学科」とする。

もう１つの学科名称について，現在スポーツ界では，運動・スポーツ活動による健康の維持・増進，スポーツ選手のコンディショニングや競技力の維持・向上，さらにはスポーツ組織のマネジメントに関する知識や技術を持った人材が求められているところ，これらの能力を有し，生涯スポーツから競技スポーツまで，「する」スポーツから「みる」スポーツまで，スポーツに関わるすべての人々や組織をサポートする指導者，専門家の養成を目的とすることから，学科名称を「スポーツ健康科学科」とする。

（２）学位の名称と当該学位とする理由

学部の名称に，スポーツを通して人類の福祉や文化の向上に還元する学問領域として認

知されているスポーツ科学を用いたことを踏まえ，学位の名称としても同様に，学士（スポーツ科学）とする。国内他大学の同名学部での先行事例が蓄積されていること，海外においてもSport Sciencesの Bachelor's degreeが数多く確認できることに照らし，適当な名称設定となっている。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の基本的な考え方

このたびの全学改革において，桐蔭横浜大学として共通に目指すべき教育目標としてユニバーシティ・ポリシーを掲げ，各学部等のディプロマ・ポリシーの中に包含することとした。そのことを踏まえ，スポーツ科学部においても，スポーツ科学の専門性の修得のみならず，大学として設定する資質・能力を獲得できる教育課程を編成する。具体的には，スポーツ科学に関する専門教育科目，大学共通 MAST プログラムの２階建て構造とする。

（２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ科学部では，ディプロマ・ポリシーの達成のために，大学共通の MAST プログラム，スポーツや健康，身体に関する専門的な知識・技能のみならず，社会人として各界で活躍する際に必要な幅広い知識や教養を身につけるという基本方針に基づき，教育課程を編成し，系統的・構造的に配置する。また学生の達成状況を常に評価しながら，何を学んだか，ではなく何を身につけたかを重視したカリキュラム編成を行う。

１．「人生と学びの基盤となる力」（考動力，複眼的思考力，共感力，リーダーシップ，探究力，自律的キャリア）を MAST プログラム中心に修得する。
２．「スポーツや身体文化の担い手」として将来活躍するために，スポーツ基礎実技をはじめスポーツや健康或いは，身体文化に関する専門知識を身につけ，さらに専門演習や卒業研究を通してそれらを実践する能力を養う。
３．各授業科目では，知識の定着を総括的に評価するとともに，資質・能力の獲得を形成的に評価する。教育課程を通じては，各年次の主要科目においてディプロマ・ポリシーの達成度を評価する。

（３）教育課程とその特色

スポーツ科学部はスポーツ教育学科とスポーツ健康科学科の２学科により構成される。各学科は全学必修科目，MAST 科目，学部共通科目の学修を基盤とし，スポーツ科学を学ぶことを通して，専門性の高い社会に貢献できる実践的な人材の育成を目指している。スポーツ教育学科は，正確で柔軟な指導法を身につけた教育職員や生涯学習時代のスポーツ指導者などの人材の育成を目指し，スポーツ健康科学科は，スポーツ科学や工学，関連する領域の専門知識とともに科学的・総合的な見識と技能などを有する指導者やトレーナー，そしてスポーツを通した持続可能な社会の実現に向けて貢献できる人材を養成する。

スポーツ教育学科の大きな特徴は，従来のスポーツ教育学科の学修内容を強化しつつ，小学校課程及び中学校・高等学校の保健体育科の教員免許を取得できるカリキュラムを備えるところにある。スポーツ教育学科では，実践的指導力があり現代の教育課題の解決に資する小学校・中学校・高等学校教員の養成を目指している。そのために，スポーツや健康，あ

るいはICT活用などに関する幅広い知識・技能を学び，体験的学習を通して教員としての指導力向上を図るカリキュラムを備えている。その中で，各自の学びに関する基礎力を高め，指導の基礎および具体的な指導法を学び，実践的指導力を修得する。

スポーツ健康科学科の大きな特徴は，従来のスポーツテクノロジー学科とスポーツ健康政策学科を発展的に解消して各学科の学びの特徴を併せた，スポーツコーチングコース，スポーツトレーナーコース，スポーツライフコースの３コースを内包し，スポーツトレーナー資格の取得を視野に入れたトレーナー・指導者の育成，スポーツ情報分析を含めたグッドコーチの育成，スポーツを通して持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を軸にしたカリキュラムを備えているところにある。スポーツ健康科学科では，健康やスポーツ科学に関する専門的知識・技能を修得し，社会で生じる種々の課題に向き合い，それらを解決できる人材の育成を目指している。そのために，人体の仕組みと働きの理解に基づき最適なパフォーマンスを引き出すトレーナーとして活躍できるカリキュラム，個々人の心身の発達段階や技術レベルに応じた，あるいはスポーツ情報分析の結果に基づいた最適なコーチングを行うコーチとして活躍できるカリキュラム，地域社会，経済，政治，環境などにスポーツを通して働きかけ持続可能な社会の実現に向けて貢献できる人材として活躍できるカリキュラムを備えている。

以上のことを踏まえつつ，カリキュラム・ポリシーを教育課程に反映させるため，次の通り科目区分を設定し，体系的で順次性のある履修を実現する。

（全学必修科目）

全学必修科目は，MAST プログラムならびに学部の専門科目への導入科目として，所属学部・学科を問わず全学生が履修する必修科目である。「人生の学びの基盤となる力」（考動力，複眼的思考力，共感力，リーダーシップ，探究力，自律的キャリア）を修得する基礎となる科目である。また，これらはスポーツ科学部においても学部の学修の基礎として位置づけられる。

桐蔭キャリアゲート：

学生の過去の学びや経験と現在の自分をつなぎ，未来のなりたい自分を思い描くことを通して，ライフキャリアを明確にすることを目指す必修科目

桐蔭スキルゲート：

コミュニケーションの作法，文書作成やプレゼンテーションなど大学生活に留まらず，現代社会で必須となるスキルを身につけることを目的とした必修科目

データコミュニケーション入門：

様々な情報をデータとして共有・活用できる数理・データサイエンス・AI に関する知識や能力を備えた人材を育成する必修科目

ディプロマ・ポリシーを達成するための根幹となる科目であるため，授業内外における学修支援体制を万全にし，すべての学生が各到達目標を達成できるよう，全学的に支援を行う。この他，英語コミュニケーション科目も同様に全学必修科目としている。

（MAST プログラム）

「人生と学びの基盤となる力」（考動力，複眼的思考力，共感力，リーダーシップ，探究力，自律的キャリア）を育成すること，及び「現代社会の構造的課題を理解」することを目的に，MAST プログラムを配置する。

現代社会の諸課題を捉える５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）に対応した科目群「コンポ」[10]を置く。各コンポには，学生の思考を解きほぐし，柔軟な思考様式を身につけるとともに，各視点におけるものの見方を理解することを目的とするコア科目をそれぞれ配当し，現代教養学環の学生はすべて必ず履修する。その上で学生は，基礎科目を履修し，自分の経験や将来のキャリアにひきつけて考えることを通して，コア科目で身につけたものの見方を発展させ，「プロジェクト入門」科目において知識を統合し表現（外化）する。次に，コア科目，基礎科目，プロジェクト入門を通して身につけた各領域の思考様式を発展させる発展科目を履修（内化）し，コンポを横断して知識を統合し表現（外化）する「分野横断型プロジェクト」科目で締めくくる。

（学部共通科目）

学校教育法第 52 条の大学教育の目的，ならびに本学のユニバーシティ・ポリシー，本学部の教育目標を踏まえつつ，スポーツ科学に関する諸科学を基盤として，スポーツ教育学科とスポーツ健康科学科で学修する専門科目の基礎を身につける科目群を配置した。本科目群の学修により，スポーツ科学についての専門的知識・技能を身につけ，幅広い教養と豊かな人間性を涵養するとともに，スポーツに対する視野を広め，現代社会が抱える課題解決に貢献し，国際的な見識を深めることができる。学部共通科目の特徴は以下の通りである。

① 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項の理解

本学部は教職課程を有する。スポーツ教育学科は小学校課程と中学校・高等学校の保健体育科，スポーツ健康科学科は中学校・高等学校の保健体育科の教育職員免許の取得を可能とする。教員として備える資質には，人体，健康，教育などに係る基礎的な事項の理解が必要となる。そこで，スポーツ科学の観点から「身体の仕組みと働き」，「障害者スポーツ論」，「スポーツ社会学」，「教育学」，「衛生・公衆衛生学」などの科目を配置した。また，「スポーツ文化論」や「生涯スポーツ論」といったスポーツの現代的な課題を理解するための科目も配置した。これらは，学校現場で働く教員，とりわけ体育科に係る教員として，個々の人間，社会・文化・スポーツに対する幅広い理解の促進を目

[10] コンポーネント（component）を用いた造語。

的とした科目群である。

② スポーツの基礎的な実技技能の理論と実践の修得

スポーツ科学を学修するにあたり，各種スポーツの技能にも精通しそれを実践できることが必要である。そのため，「バレーボール」，「バスケットボール」などのネット型球技，「サッカー」や「ラグビー」といったゴール型球技，「ソフトボール・野球」や「ハンドボール」などのベースボール型球技，そして「陸上競技」，「水泳」，「ダンス」，「柔道」など各種スポーツに関して基礎的な技能の理論と実践の修得を目的とする科目群を配置した。

③ 現代社会が抱える問題解決に係るスポーツ分野の知識・教養の涵養

スポーツを通して現代社会が抱える問題への解決策を考えるためには，人体，健康，スポーツ文化，歴史学，情報処理，心理学，生涯発達，障害児・者に対する理解など，多様な視点から問題を捉える視座が必要である。そのため，「スポーツ史」，「スポーツ心理学」，「スポーツ情報処理論」，「バイオメカニクス」，「発育発達老化論」などの科目を配置した。また，演習科目の「スポーツプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」を配置し，実際のプロスポーツなどのプロジェクトに履修学生が参加する機会をつくることで，スポーツ分野への知識・教養を涵養し，スポーツを通して複眼的に社会を捉える視点や，現代社会が抱える課題解決のための思考を身につけることを目的とする科目群を配置した。

④ 学修内容を活用し社会の問題解決に実践的に取り組む姿勢の育成

学生が社会の一員として必要な教養を身につけ，自身が遭遇する課題解決に向かうためには，大学で学修した内容を自身のキャリアにどう生かすかを考えることが必要である。そのため，「学部キャリアセミナー」を配置した。また，課題解決に向けて粘り強く取り組むためには，自らの力だけで物事に大勝するだけでなく，自他の違いを認めつつも他者との交流を通して現代社会が抱える課題に，国際的な視野を持ちながら協働して取り組むことも必要であり，「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や「国際コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置した。自ら考え学び，問題解決にあたる粘り強い姿勢を育成するための科目群を配置した。

（スポーツ教育学科／学科必修科目）

スポーツ教育学科における学科必修科目は，教員免許取得のための基礎科目に相当する。まず，学科での学びの基礎となる「学科基礎セミナーⅠ・Ⅱ」を導入科目として配置した。そして，「教師論」，「教育心理学」，「教育方法論」といった小学校・中学校・高等学校と学校種が異なっても共通する知識に係る科目を配置した。これらは教職における基礎科目に該当する。その他，「小学体育Ⅰ・Ⅱ」も含まれる。「小学」と科目名称にはあるが，小学校

課程だけでなくそれを含めたすべての学校種の体育科目の基礎として位置づいている。

３年次から４年次にかけての必修科目であるゼミ形式の科目（「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」）では，学生各自が目指す学校種の教職キャリアに応じて選択できるように，初等教育コースと中高体育専科コースの２コースで構成されている。

（スポーツ教育学科／学科専門科目）

スポーツ教育学科における学科専門科目は，小学生及び中学生・高校生が置かれている環境を理解し，それぞれの学校種に係る教育職員として，専門性の高い知識や技能を学ぶことができるように配置した。たとえば，学校種に関わらず「器械運動指導法・コーチング論」，「陸上競技指導法・コーチング論」，「水泳指導法・コーチング論」，「ゴール型球技指導法・コーチング論」，「ネット型球技指導法・コーチング論」，「ベースボール型球技指導法・コーチング論」，「武道指導法・コーチング論」，「ダンス指導法・コーチング論」は各種スポーツの実践的指導法を学ぶ科目として設定されている。また，国語，社会，算数などの各教科の教科指導法を学ぶ科目として小学校課程における「教科指導法」が設定されている。

近年では授業での ICT の活用が必須となっており，「ICT 活用スキルの理論と実際」を配置している。また，「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」（スポーツ庁）により，今後，学校の部活動が学校内での活動から学外地域への移行が進められることを背景として，「運動部活動論」に地域クラブ活動を対象とした指導を含めて授業内容を構成するなど，昨今の学校の実情に応じた科目構成になっている。

また，２年次から近隣の小学校・中学校・高等学校と連携して，大学外での実習科目を配置した。２年次には「学校体験実習」，４年次には「学校インターンシップ実習」と，「介護等体験実習」や「教育実習」だけではなく，学校場面を体験できる実習を配置した。これは，小・中・高校の学校現場の授業を参観したり，各学校の教員の指導の下で指導体験を積んだりするなど，教員になるための体験重視の考えに基づくものである。

このように，スポーツ教育学科では小学校・中学校・高等学校の教員免許取得を目的とした多様な学びの機会を提供している

（スポーツ健康科学科／学科必修科目）

スポーツ健康科学科では，養成する人材像の考え方を踏まえ，スポーツコーチング，スポーツトレーナー，スポーツライフの３コースの学びを提供する。学科必修科目はスポーツ科学を学ぶための基礎科目にも該当する。まず，学科での学びの基礎となる「学科基礎セミナーⅠ・Ⅱ」を導入科目として配置した。

さらに身体の仕組みや働きをより深く学修する科目として「機能解剖学」や「運動機能論」，事故等で怪我を負った際の処置を学修する科目として「救急処置論」や「運動処方論」，身体づくりに関する知識技能を学修する科目として「トレーニング論」や「スポーツ栄養学」を配置した。こうした科目の学修を通して，学生はコース選択に備える。２年次から３つの

コースに分かれる。学生は選択したコースで推奨される科目を含めて授業科目を履修する。３年次から４年次にかけての必修科目であるゼミ形式の科目（「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」）では，学生各自が所属するコースごとに指導の教員につき，自らの興味・関心に基づく内容を主体的に学修する。

（スポーツ健康科学科／スポーツコーチングコース）

スポーツコーチングコースは，スポーツ指導者として選手を成功に導く人材の育成を目的とし，スポーツの意義や価値を正しく理解し，発達段階や技術レベルに応じた最適なコーチングを行うことができるコーチの育成を目指す。「コーチング学」，「チャンピオンシップスポーツコーチング論」，「ジュニアスポーツコーチング論」，「メンタルトレーニング論」などの科目で自らのコーチング像を作り上げ，「スポーツ映像分析論」，「スポーツデータ解析」，「スポーツ情報戦略論」などの科目でこれからの時代に必要とされるデータ分析の技能やデータに基づく戦略立案の能力を培い，「スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ」や各種競技の指導法・コーチング論などの科目でアスリートに寄り添うグッドコーチの能力を高める。

このうち，スポーツ情報分析の分野に関しては，全国でも屈指の実習施設である「TOIN Sports Analysis Lab」を完備し，最新の分析用ソフトウェアを活用しながらスポーツにおける情報収集・分析，テクノロジー活用の学修に必要な設備が整っている。このようにスポーツ実践に活用できる知識技能を学修する環境が整備されている。

（スポーツ健康科学科／スポーツトレーナーコース）

スポーツトレーナーコースは，知識と技術を学び，科学の力で選手のパフォーマンスをサポートする人材の育成を目的とし，競技スポーツをはじめとするスポーツ全般を楽しむすべての人々の健康に配慮し，最適なパフォーマンスを引き出すスポーツトレーナーの育成を目指す。「健康医学入門」，「運動生理学」，「機能解剖学Ⅱ」，「健康管理とスポーツ医学」などの科目で広範な医学的知識を学び，「アスレティックトレーナーの役割」，「テーピング論」，「リハビリテーション論」，「トレーニング学」などの科目で科学的なトレーニングやコンディショニング，運動障害への対処法などの理論と実践を学修し，スポーツトレーナーの能力を高める。

加えて，スポーツトレーナーコースでは，スポーツトレーナーに関する資格取得を推奨し，取得のための科目を配置した。取得資格として，例えば「JATI 認定日本トレーニング指導者資格」，「JPSU 認定スポーツトレーナー」，「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者」，「健康運動実践指導者」などの資格取得を目指すことができるカリキュラムを用意した。

（スポーツ健康科学科／スポーツライフコース）

スポーツライフコースは，スポーツの新たな価値と可能性を追究する人材の育成を目的とし，社会の変化に柔軟に対応しつつスポーツで持続可能な社会の構築に貢献できる人材

の育成を目指す。体を動かすという側面に加えて，「スポーツ政策論」，「スポーツマーケティング論」，「スポーツジャーナリズム論」，「国際交流論」，「日本伝統の身体表現」などの科目で地域・経済・政治・歴史・環境といったあらゆる角度からスポーツと社会との関わりを学修し，スポーツが社会にどう活用されているかを理解することにより，スポーツを活かした社会貢献ができる能力を高める。

また，学外のプロスポーツチームとの協働により学生がスポーツの現場を体験学習する「スポーツインターンシップ実習」を配置した。プロスポーツの現場には，スポーツ選手，コーチ，トレーナーといった競技に身近にかかわりを持つ者の他，営業・広報・施設設備・会計・人事労務管理などに携わる者によってチームが運営されている側面もある。こうした現場実習による体験的学習を通して，スポーツと社会とのかかわりを実感する。

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

（１）教育課程の体系化

スポーツ科学部では，ディプロマ・ポリシーの達成に必要な科目を，カリキュラムマップを用いて精選し，配置する（添付資料１）。教育課程は，MAST プログラム，学部共通科目，学科必修科目，各専門科目と，順次性が明確な編成としている（添付資料２～３）。

（２）卒業要件

必修科目を含め，MAST プログラムから 10 単位以上，専門科目から 90 単位以上を修得し，126 単位以上を修得した学生に卒業を認定し，学位を授与する。

（３）履修モデル

学生は全学必修科目，MAST プログラムを履修した後，学部共通科目，学科必修科目，各目指すべき専門性に応じた授業科目を順次履修していく。学生には複数の履修モデルを提示し，意義ある多様な学修をデザインできるよう支援をしていく（添付資料４）。

（４）卒業研究

入学後，学生自らが受講した科目や興味について，学校教育やスポーツ科学の領域の中から，自らの専門性に即した文献や情報などを収集・整理し，研究の方法論について学習すると同時に，研究テーマの絞込みを行う．３年次配当科目の専門演習Ⅰや専門演習Ⅱでは自らの研究テーマや研究方法論の構築を進め，実際のデータ収集方法や実験方法などについて検討を行う．４年次配当科目の専門演習Ⅲ・専門演習Ⅳは，卒業研究にかかわる具体的な方法論（論文の構成や，実際の論文作成要領など）を学習する．なお，専門演習Ⅰ，専門演習Ⅱは，専門演習Ⅲ，専門演習Ⅳは，専任の全教員が自身の研究分野に基づき指導を行う．専門演習Ⅰ，専門演習Ⅱ，専門演習Ⅲ，専門演習Ⅳでの学びを踏まえ，まとめとして卒業研究として自身の研究課題について考察を進める．テーマに即したデータの収集・分析はもとより，得られた結果をまとめ，成果をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を養い，最終的には卒業研究論文，あるいは卒業研究発表会として結実させる．

（５）学修時間の確保

本学では 2022 年度より，標準授業時間数[11]を遵守しつつ，学生がオンとオフのメリハリの中で集中して深い学びを行う期間として，冬期に第３ターム（Intensive Active Learning term，IAL ターム）を導入している。第１ターム（４月～７月），第２ターム（９月～12 月）はそれぞれ１コマあたり 105 分授業，13 週開講とし，1,365 分の授業時間数を確保している。第３ターム（IAL ターム）は，曜日により５週～７週を確保し，第１・第２タームでは実施できない集中的な授業を実施する。

[11] ２単位・週１コマの授業あたり，90 分×15 週＝1,350 分を標準授業時間数と設定。

全学的には，第３ターム（IAL ターム）の履修を義務付けておらず，学生は，基本的には従来どおり第１ターム，第２タームの履修で卒業要件単位を修得することが可能である。第１ターム，第２タームは，それぞれ履修上限単位数を 24 単位と定めている。第３ターム（IAL ターム）は期間の短さや集中的な学びのための期間という趣旨を踏まえ，学生にとり真に必要な授業科目のみを厳選し，履修を勧める（上限６単位)。なお，直前の学期までの累積 GPA が 3.0 以上の学生には，第１・第２タームに限り，履修上限単位数を 30 単位まで緩和する。

（６）学修支援

本学ではこれまでも，中小規模の大学ならではの，学生と教職員の距離の近さを活かした履修相談や成績不振者のフォローを行ってきた。担任教員は学生の修学動向に目を光らせ，学務部の職員は毎学期，相当数の学生対応をしている。この外形には表しにくい本学の長所は今後も継続して伸ばしていきながら，2022 年度より新たに取り組んでいる事項がある。

（共通教育チューター）

本学としては初めて全学部共通の必修科目を３科目（英語を除く。）導入したことに際し，科目担当教員だけでは学生の躓きや遅れなどに十分に対応できない可能性がある。当然に，一義的には科目担当教員の責任であるが，大学入学直後の１年次生については，大学として支援を十全に行い，その後の修学も見据えた取組が重要であると判断した。そこで大学院生を中心に，学生の授業内外での活動を支援する共通教育チューター制度を導入した。チューターは，科目担当教員の管理下で，グループワークの支援や質問対応，提出物の整理などの授業内支援や，課題の提出状況のチェック，学修が遅延気味の学生の抽出と声がけ・サポートを行う。

（教学 IR）

本学における IR（Institutional Research）は，内部質保証の取組に用いるのみならず，学修支援の装置としても活用することとしている。学事システムである桐蔭横浜大学 Universal Passport（ユニパ）が提供する学修カルテ，ポートフォリオシステムや授業出席情報，成績情報，学修行動調査等のデータを IR 担当者が分析し，学生の修学に関するアーリー・アラートを出し，担任教員や学務部職員等に伝達し，懇切丁寧な修学相談にあたる。

（ラーニングスペース）

本学には，各棟の各所に学生のための学修スペースを設けているものの，面積としては十分とは言えない。そこで現代教養学環に限らず，全学生が学修のために使用できる空間として，300 ㎡規模の大教室を改修し，ラーニングスペースとして開放している。ラーニングスペースには，学生の学修サポートのためのスタッフを駐在させている。

６．実習の具体的計画

（１）実習の目的と特徴

教職を志す学生には,「学校体験実習」や「学校インターンシップ実習」の履修を推奨し，学校の実態や教員としての素養を養うことを目的している。スポーツ指導者を志す学生には,「スポーツコーチング実習」の履修を推奨し，スポーツコーチングの現場への理解を深めながら，基礎的なコーチングスキルの獲得を目的としている。スポーツトレーナーを志す学生には,「スポーツ現場実習」の履修を推奨し，スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において医師やアスレティックトレーナーの指導を受けながらトレーナー業務について学ぶ機会を設定している。スポーツの運営を志す学生には,「スポーツインターンシップ実習」の履修を推奨し，スポーツ経営やスポーツイベント運営の職場について理解を深めさせることを目的としている.

（２）実施方法と内容

各実習の科目概要は次の通りである。各年度の具体的な実施方法，内容，体制，予算等については，教授会において審議する。

■　学校体験実習

教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては，教職の基礎的な基礎的知識・技能の習得にとどまらず，それらを活用する機会や探求的に学ぶ機会の充実が求められている。教職課程の学修をする早期の段階で学校現場において，学校行事や教師のサポート等の体験をすることで，学校における実態及び教員の職務を学ぶ機会とする.

■　学校インターンシップ実習

教職課程カリキュラムの最終段階で，大学での学修成果を学校現場で生かす実践的指導力の確認及び教育実習を通して明確となった採用後に自己が取り組むべき課題の解決に向けて，学校現場において学校行事や教師のサポート等に積極的に取り組む中で学校における学び続ける教員としての素養を身に付けることをねらいとする。

■　スポーツコーチング実習

「スポーツコーチング実習Ⅰ」では，コーチの実践の場における体験を通して，これまで講義，学内演習等で学んだ知識や技術を統合し発展させる場を提供する。効果的なコーチングのためには，事前のプランニング，指導実践，その振り返りを行うことによって，コーチングの難しさとやりがいを経験し，実践力を高めることが求められる。そこで，この科目では現場実践者のコーチング行動を観察することによって，自らがコーチングを行う際の目標や課題を得ることを目的とする。

「スポーツコーチング実習Ⅱ」は，将来現場でコーチとして活躍することを目指すスポー

ツ健康科学科における最終段階の学びとして位置づけられる。講義で学んだ知識や技能を実際の活動現場において活用できるようになるためには，明確な目的を持った指導実践が不可欠である。ここでは，自らがコーチングを体験することによって，現場のダイナミックな指導環境の中で基本的なコーチングスキルを獲得することを目的とする。

■　スポーツ現場実習

「スポーツ現場実習Ⅰ」では，具体的には選手に対する姿勢や技術，医師や指導者との連携，トレーナー関連施設の設備，運営方法などについて学ぶ。

「スポーツ現場実習Ⅱ」では，検査・測定と評価およびプログラム作成の実習と位置づける。スポーツ医学，測定評価学，リハビリテーション手法など系統的に学んできた知識・技術を統合させ，アスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び，アスレティックリハビリテーションプログラミングができるようになるとともに，身体的リスクに考慮し，安全で効率の良い方法が指導できるようスポーツ現場や医療機関での実習を通して学ぶ。

「スポーツ現場実習Ⅲ」では，運動指導，応急処置など現場対応実習と位置づける。日本スポーツ協会が定めるトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防，スポーツ現場における救急処置，アスレティックリハビリテーション，コンディショニング，測定と評価）を理解させ，トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ぶ。ストレッチング，テーピング，応急処置等について教本や実技実習で学んだことを，スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ぶ。

「スポーツ現場実習Ⅳ」では，リハビリテーションプログラムの作成およびその実施，指導を行うアスレティックリハビリテーション実習と位置づける。各疾患のアスレティックリハビリテーションの過程と内容を理解し，各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な情報収集，機能評価をできるようにし，実際にプログラミングができるようになるとともに，アスリートの身体的リスクを考慮し，安全で効率の良いリハビリテーション方法が指導できるようにする。

「スポーツ現場実習Ⅴ」では，Ⅰ～Ⅳの包括的な総合実習と位置づける。医療の現場やトレーナールーム等においてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に学ぶ。また，合宿や遠征，試合の帯同を通して選手，コーチ，ドクターなど関係者と緊密な連携の必要性，重要性について学ぶ。加えて，トレーナーにおいて最重要課題であるスポーツ障害・外傷予防プログラムおよび緊急時対応計画の立案を学ぶ。

７．入学者選抜の概要

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ科学部では，深い教養とスポーツ科学についての専門的知識を身につけ，その上で現代社会が抱える課題に対応できる人材の養成を目的としており，このためスポーツ科学部では，次のような知識や能力を備え，主体的に社会変革を実現していく意欲のある人材を求める。

（知識・技能）

１．本学での学修に必要な基礎学力を有している。

（思考力・判断力・表現力）

２．問題を適切にまた理論的に分析・理解し，解決に向けて筋道を立てて考えることができる 。

３．他者の考えや意見を尊重し，相手の立場に立って物事を伝えることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

４．積極的に他者と関わり，協働して活動することができる。

５．日頃からスポーツ，健康，教育といったジャンルにとらわれることなく，現代社会が抱える様々な問題に幅広く関心を持ち，解決の道を探る意欲を有している。また，様々なことに好奇心を持ち，主体的に社会参画することができる。

（２）選抜方法

入学者選抜は，大学入学者選抜実施要項（文部科学省高等教育局長通知）に基づき，一般選抜，学校推薦型選抜，総合型選抜，特別選抜を実施する。ホームページをはじめ，大学案内パンフレット（キャンパスガイド），オープンキャンパス等の入試広報活動を展開し，アドミッション・ポリシーに合致する受験生を確保する。

○　令和５年度入試（第１期生）受入れのための実施案

◆一般選抜（全学統一試験）

試験科目：　国語※1，外国語※2，地理歴史・公民※3，数学※4，理科※5から２科目選択

試験実施：　前期　２月上旬，後期　３月上旬

募集人員：　スポーツ教育学科 20 人，スポーツ健康科学科 25 人

◆一般選抜（学部等前期）

試験科目：　国語※1，外国語※2，地理歴史・公民※3，数学※4，理科※5から２科目選択

試験実施：　２月上旬

募集人員：　スポーツ教育学科 10 人，スポーツ健康科学科 20 人

◆大学入学共通テスト利用選抜

試験科目：　数学①または②，国語（近代以降の文章），地理歴史または公民，外国語，理科①または理科②から３教科４科目選択

試験実施：　前期　１月募集，後期　２月募集

募集人員：　スポーツ教育学科 10 人，スポーツ健康科学科 15 人

◆学校推薦型選抜（公募）

試験科目：　基礎学力検査，小論文，面接

試験実施：　11 月中下旬

募集人員：　スポーツ教育学科 20 人，スポーツ健康科学科 30 人

◆総合型選抜

試験科目：　基礎学力検査，小論文，面接

試験実施：　10 月中旬，12 月上旬，３月中旬

募集人員：　スポーツ教育学科 20 人，スポーツ健康科学科 30 人

◆特別選抜（社会人，留学生，帰国生徒募集）

試験科目：　小論文，面接

試験実施：　11 月下旬，12 月上旬

募集人員：　若干名

※1　国語：国語総合（近代以降の文章）

※2　外国語：英語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ，英語表現Ⅰ）

※3　地理歴史・公民：世界史（世界史 B，近世及び近代以降），日本史（日本史 B），政治・経済から選択

※4　数学：数学（数学Ⅰ・Ⅱ，数学 A・B））

※5　理科：物理（物理基礎・物理），化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）から選択

（３）入学者選抜の実施体制

入学者選抜は，公正で公平な方法により，適切な体制を整えて行う。そのため，学長を本部長とする試験実施本部，全学入試委員長を本部長とする試験場本部を設置し，権限と責任を明確化し，全学一致体制で入学者選抜を実施する。

８．教員組織の編制の考え方及び特色

（１）教員組織編制の基本的考え方

教育課程の特色を最大限に引き出し実践していくために最適な教員組織を編制する。前述した桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（TURBoS）の具現化と，スポーツ科学部の理念を実現させるため，各教員の専門領域を尊重しつつ，学部としての協働，連携をさらに進めていくために，専任教員だけでなく，兼担教員，兼任教員にいたるまで，本学ユニバーシティ・ポリシー及び本学部の３ポリシーへの理解を深めていく。学生の学びのために資源を結集する「学修者本位の大学教育」を実現する。

（２）教員組織

スポーツ教育学科は，専任教員 16 名で編制し，教授８名，准教授５名，講師２名を配置する。兼担教員は 34 名で，スポーツ健康科学科の他，法学部，医用工学部，教育研究開発機構から出動している。兼任教員は 33 名で，学生教育の内容の豊富化を図るため，カリキュラムを補完する。

スポーツ健康科学科は，専任教員 21 名で編制し，教授 12 名，准教授６名，講師３名を配置する。兼担教員は 31 名で，スポーツ教育学科の他，法学部，医用工学部，教育研究開発機構から出動する。兼任教員は 31 名が参画する。

（３）教員組織の年齢構成

完成年度（令和８年度）末時点の専任教員の年齢構成は，スポーツ教育学科においては 40 歳台２名，50 歳台４名，60 歳台 10 名となり，スポーツ健康科学科においては 30 歳台２名，40 歳台２名，50 歳台６名，60 歳台７名，70 歳台４名となる。特にスポーツ教育学科においてはやや高年齢に偏るが，学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学教員定年規則において，教員の定年は満 63 歳若しくは満 68 歳[12]と定めており，学年進行中に定年に達する教員について，当該分野でより優秀で適切な若手教員を獲得し，より持続可能性の高い年齢構成実現する方針である。十分な期間を確保して人事計画を進めるため，綿密に業務の引継ぎなどを行うため，教育研究上の影響は極小とする。

[12] 採用時の形態により決定される。招聘教員は満 68 歳，その他教員は満 63 歳。

９．施設，設備等の整備計画

（１）校地校舎等

本学は，横浜市青葉区鉄町のキャンパスに，83,764 ㎡の校地と述べ床面積 40,863 ㎡の校舎を構え，3,450 名までは教育可能な施設設備を有している。2021（令和３）年５月現在，学部と大学院を合わせて 2,479 名の学生が在籍しているが，十分に余裕がある現況にある。

既存の法学部，医用工学部，スポーツ健康政策学部（新スポーツ科学部）は，それぞれの教育研究の特徴に応じた施設設備を有しており，学部名称を冠した棟もあるが，全学的な施設マネジメントとして特に各棟の使用を明確に区分することはなく，活動の目的に応じたキャンパス活用を行っている。スポーツ科学部設置後は，学年進行とともに旧スポーツ健康政策学部から使用区画が移っていくため，教育研究に必要な施設設備は既に十分に整っている。

また，全学生が学修のために使用できる空間として，300 ㎡規模の大教室を改修し，ラーニングスペースとして開放している。各棟と連携し学生の学修空間をデザインし，至る所で学生がアクティブに学ぶことができるキャンパスとして整理することを目指す。

（２）図書等の資料及び図書館

学部・大学院の教育研究のため，床面積 3,141 ㎡，閲覧席 413 席の大学図書館を有している。現在，約 20 万冊の書籍と約 605 タイトルに及ぶ雑誌を保有し，約 1,400 タイトルの電子ジャーナルが閲覧可能となっている。開館時間は月～土曜日の９時から 20 時まで，日・祝日及び年末年始の大学休業日は休館となっている。２階参考閲覧室は，資料を大きく広げ複数人で画面を見ながらの作業が可能な 13 台の PC やホワイトボード，DVD ブースも備えた会話可能な閲覧室である。また，館内に個人用閲覧席が 86 席あり，集中して自習するスペースとして多く活用されている。

１０．管理運営

（１）教授会

スポーツ科学部における教育研究等に関する事項を審議するため，専任教員により構成される教授会を設置し，毎月１回開催する。運営会議は次の事項を審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

－　学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項
－　学位の授与に関する事項
－　教育課程に関する事項
－　学部の教学マネジメントに関する事項
－　学生支援に関する事項
－　教員の教育研究業績に関する事項
－　学部の教員人事に関する事項
－　その他教育研究に関する事項

（２）全学執行体制上の位置づけ

学部内のマネジメント体制として，学務，学生，入試，キャリア等の各委員会を設置し，専任教員がそれぞれを担当する。また，各委員会の長は全学学務委員会，全学学生委員会等の全学組織に参画し，学部を超えた全学的事項についての企画検討に参画するとともに，全学と学部の橋渡し役として機能し，学長をリーダーとする大学マネジメントに貢献する。

また，学部長は執行部会議の一員となっており，トップ・ボトム両輪のマネジメントの中で学部運営にあたる。

１１．自己点検・評価

（１）全学的実施体制

本学は，桐蔭横浜大学自己点検評価規程に基づき，教育研究，組織，運営並びに施設設備の状況について自己点検・評価を行う。全学的な責任を担うものとして，大学自己点検評価委員会を設置することとなっているが，現在の全学改革期において，点検評価項目の調整が多数発生することや，迅速なPDCAのチェック活動が必要なことから，当面の間は大学執行部会議が大学自己点検評価委員会を包括することとしている。

令和４年度より，内部質保証担当副学長を置き，学生の学修成果に基づく各教育プログラムの自己点検・評価を中心に，全学の教育研究活動において内部質保証を実質化させていくことに取り組んでいる。

（２）実施方法等

大学執行部会議のもと，各学部，各研究科，各事務部局においてそれぞれ自己点検評価委員会を設置（以下「学部等自己点検評価委員会」という。）し，大学執行部会議から定められた事項，及び自ら定める事項について自己点検を行う。事務責任部局である大学総務部が各学部等自己点検評価委員会における点検結果の提示を受け，その適切性を検討し，必要な場合は修正等を要請する。総務部は，適切と判断した各学部等自己点検評価委員会の点検結果を，作業過程も明らかになるようにしながら，大学執行部会議に提案する。大学執行部会議は提案の各内容を審議し，それを踏まえ学長が次年度の事業計画等に反映させていくサイクルとなっている。

個々の教員の自己点検・評価は，令和３年度より全学的な統一方針のもとで実施している。各教員は，指示を受けて自己点検・評価シートを作成し，学部長等に提出する。学部長等は，各教員の点検結果について吟味し，部局評価案を作成する。各教員の自己点検結果及び部局評価案は大学執行部会議に提出され，内容を確認の上，評価結果を決定し，学部長等を通じて各教員に結果を通知する。各教員の評価結果に基づき，教育活動の評価は令和５年度より所属学部等の教育活動費等の査定に用い，研究活動の評価は令和６年度より各教員の研究費配分の見直しに用いることを決定している。

１２．情報の公表

ホームページや大学案内等を通じて，本学の教育研究活動，社会貢献活動等の情報を学内外に積極的に発信している。なお，「教育情報の公表」として，学校教育法施行規則第 172 条の２に基づく情報公開を，次の URL にて実施している。

■ 教育情報の公表　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学
http://toin.ac.jp/univ/publish/

（学校教育法施行規則第 172 条の２に定める事項）

① 大学の教育研究上の目的及び第 165 条の２第１項の規定により定める方針（※３つのポリシー）に関すること

本事項に対応して，建学の精神・学園訓，桐蔭横浜大学憲章，学部及び研究科の目的・目標を公表している。各学部・研究科における３つのポリシーについては，次の URL から閲覧可能となっている。

■ ３つのポリシー　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 >大学概要
http://toin.ac.jp/univ/overview/policy/

② 教育研究上の基本組織に関すること

本事項に対応して，基本組織，役職を公表している。

③ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本事項に対応して，教職員の数，専任教員一人あたりの学生数，専任教員の職位・年齢・性別構成，教員プロフィール及び業績を公表している。

④ 入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

本事項に対応して，入学定員・入学者数とその経年推移，収容定員・在籍学生数，卒業者数，留学生数，科目等履修生・聴講生・研究生数，社会人学生数，卒業後の進路や就職率等の状況を公表している。

⑤ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本事項に対応する情報として，教育課程や履修の方法などを記した「履修要項」をホームページ上でも公表し，閲覧可能としている。授業計画（シラバス）については，次の URL から閲覧可能となっている。

■ 桐蔭横浜大学授業計画
http://syllabus.cc.toin.ac.jp/jyugyoukeikaku/

⑥　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

本事項に対応する情報として，教育課程や履修の方法，卒業要件などを記した「履修要項」をホームページ上でも公表し，閲覧可能としている。

⑦　校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

本事項に対応する情報として，キャンパスマップ，各施設紹介，アクセスマップ，周辺地図を掲載している。

⑧　授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

本事項に対応して，入学金，授業料，施設整備費その他の諸経費のほか，授業料減免制度（特待生制度）や奨学金の情報を公表している。

⑨　大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本事項に対応して，学生と教員のコミュニケーションに関すること（オフィスアワー），大学生活で出会う様々な問題について相談できる学園相談室，ハラスメント相談のシステムが閲覧できるようにしている。

（その他）

■　大学ガバナンス・コード　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 > 大学概要

http://toin.ac.jp/univ/overview/governance-code/

■　大学基準協会における大学評価（認証評価）について

／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 >大学紹介 >点検・評価

http://toin.ac.jp/univ/intro/check/evaluation2018/

１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）全学的な取組

全学的な見地から教育研究の一層の推進を図るための組織として，令和２年に教育研究開発機構を設置した。教育開発研究機構は，大学の教学マネジメントの推進，教育開発の研究を行う組織として,大学共通 MAST プログラムや高大接続事業の企画立案,学修行動調査,学修成果のアセスメント，教学 IR の実施，ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の企画運営を担ってきている。

FD については，高等教育全体の状況から本学が直面している課題，今後とるべく戦略等を検討する全学 FD や，各学部と教育研究開発機構が連携して，アクティブラーニングの推進やカリキュラム改革などを研究する学部 FD などを実施している。

特にコロナ禍におけるアクティブラーニングの実践事例を全学で共有する取組も進めており，特色ある事例はホームページ上にも掲載し，公表している。(■AL を止めない！桐蔭横浜大学 教育実践　http://toin.ac.jp/univ/onlineclass/)

また，授業評価の高い教員をエクセレント・ティーチャーとして毎年選出し，学長が顕彰する制度があり，教員の授業改善に対する意欲を喚起することに資する取組となっている。受賞者は，全学 FD で経験を全教員と共有することとなっている。

（２）スポーツ科学部としての取組

スポーツ科学部においては，全学的な取組に加え，教員一人ひとりの授業改善及び指導力向上のために以下の３つの取組を行っている。

まず，学科ごとに各学期１回に研究授業を実施している。「講義」「実技」「演習」の授業を対象とし，授業実施後に研究会を行い，教員間の意見交換を行っている。特に，令和４年度より，学科特色を踏まえた FD 実施も可能とし，附属小学校の授業見学と研究会を行い，教職授業担当教員の授業改善を図っている。

また，各学期実施される学生による授業評価アンケートの結果に基づき，各教員は「自己評価シート」を提出している。「自己評価シート」の作成は，各教員が次年度の授業改善に役立てるためであり，特筆される記述内容については学部 FD 報告等に共有されることとなっている。

さらに，年１回学部 FD 研修会を実施している。研修会では全学 FD の検討課題について学部で共有するとともに，教員の授業改善や指導力向上のための諸課題を明確にし，その対策を講じている。

１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）適切な体制の整備と全学的な取組

学生の進路やキャリアを支援するための事務組織として，キャリア情報センターを置いている。また，全学的見地から学生のキャリア支援に関する重要な事項を審議する全学キャリア支援委員会を設置し，教員・職員協働のサポート体制を構築している。

学生の進路相談に丁寧に応じるため，３名のキャリアサポーターを配置している。キャリア形成に対する意識が高まっている学生への予約制のキャリア相談に加え，相談のハードルを下げ，まずはキャリア情報センターに足を運んでみることを促す「就活なんでも相談会」を毎週火曜日に実施している。

（２）教育課程内の取組

大学共通 MAST プログラムの導入科目として，全学生を対象とする必修科目「桐蔭キャリアゲート」,「桐蔭スキルゲート」,「データコミュニケーション入門」を配置している。社会的・職業的自立に向けて，意識とスキルの双方を身につけていく科目となっている。また，全学生が受講できるキャリア講座を開設している。自らを振り返り進路選択の幅を広げていく１～２年次対象の科目，自己分析を行い分野や職種等，進路選択を考える３年次対象の科目を配置している。

教育課程の重要な局面（プロジェクト入門，分野横断型プロジェクト，ゼミナール等）ごとに，ディプロマ・ポリシーの達成度を自己評価・他者評価を行い，その結果を「ショーケース」に記録する取組を進める。この「ショーケース」は学生の学びの PDCA に用いるとともに，３年次の段階では企業等に直接提示できる内容となるように指導する。キャリア情報センターが主体となって「ショーケース」を学生の就職先等企業にも評価いただけるよう働きかけること等を通じて,「ショーケース」の作成がディプロマ・ポリシーの達成に繋がり，ディプロマ・ポリシーの達成が進路成功に繋がる，というモデルを構築する。

（３）教育課程外の取組

キャリア情報センターの取組として，学内外の企業説明会や業界研究セミナー，面接対策，就職試験対策などに加え，本学ならではの学生と教員の「距離の近さ」を活かしたきめ細やかな支援プログラムを実施している。また，一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業および団体と神奈川県内に拠点を持つ大学が中心となって行う，産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラム「神奈川産学チャレンジプログラム」にも積極的に参画し，学生のキャリア意識を涵養する取組も進めている。

資料

添付資料 1	カリキュラムマップ
添付資料 2	スポーツ教育学科カリキュラムツリー
添付資料 3	スポーツ健康科学科カリキュラムツリー
添付資料 4	履修モデル
添付資料 5	桐蔭横浜大学教員定年規程
添付資料 6	桐蔭横浜大学特任教員内規

2023年度シラバス（2学科共通科目）

講義名	年次	前後	DP1 保健体育科・小学校教育に関連する基礎的な事項を理解する	DP2 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項を理解する	DP3 スポーツの基礎的な実技技能を身につける	DP4 具体的な授業場面を設定した授業（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
身体の仕組みと働き	1	後期	○	○			◎	
障害者スポーツ論	2	後期		○		○	◎	
学部キャリアセミナー	3	前期					○	◎
英語コミュニケーション1	1	前期						◎
スポーツ史	1	前期				○	◎	○
スポーツ社会学	1	前期		○				◎
スポーツ情報処理論	1	前期					◎	○
衛生・公衆衛生学	1	後期	○	○				◎
スポーツ心理学	2	前期	○				◎	○
スポーツバイオメカニクス	2	後期		○			◎	
バレーボール	1	前・後			◎	○		○
バスケットボール	1	前・後			◎	○		○
サッカー	2	前・後			◎			
ラグビー	2	前期			◎			
ソフトボール・野球	2	前期			◎			
ハンドボール	2	前・後			◎			
テニス	2	前・後			◎			
バドミントン	2	前・後			◎			
陸上競技	1	前・後			◎	○		○
水泳	1	前・後			◎	○		○
ダンス	1	前・後			◎			
柔道	1	前・後			◎			
剣道	1	前期			◎			
器械運動	1	前・後			◎	○		○
ボディワーク2（体操：体つくり運動、集	1	前期			◎	○		
エアロビクス（演習を含む）	3	前期			◎			
専門演習Ⅰ	3	前期					◎	○
専門演習Ⅱ	3	後期					◎	○
専門演習Ⅲ	4	前期					◎	○
専門演習Ⅳ	4	後期		○				◎
卒業研究	4	通年					◎	○
国際コミュニケーション実習Ⅰ	1	前期						◎
国際コミュニケーション実習Ⅱ	1	前期						◎
国際コミュニケーション実習Ⅲ	1	前期						◎
法学	1	前期						◎
教育学	1	前期	○	○				◎
数学概論Ⅰ	1	前期	◎			○		
数学概論Ⅱ	1	前期	◎			○		
統計入門	1	後期				○	○	◎

2023年度シラバス（2学科共通科目）

講義名	年次	前後	DP1 保健体育科・小学校教育に関連する基礎的な事項を理解する	DP2 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項を理解する	DP3 スポーツの基礎的な実技技能を身につける	DP4 具体的な授業場面を設定した授業（ＰＤＣＡに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
社会貢献論	1	後期					○	◎
スポーツ文化論	3	前期		○		○		◎
生涯スポーツ論	1	後期	○	○				◎
スポーツイベント施設論	1	後期	○	○			◎	
発育発達老化論	1	後期	○			○	◎	
シーズンスポーツ論Ⅰ（演習を含む）	1	前期			◎			
シーズンスポーツ論Ⅱ（演習を含む）	1	後期			◎			
スポーツ人類学	1	後期					◎	○
スポーツプロジェクト研究Ⅰ	1	前期					◎	
スポーツプロジェクト研究Ⅱ	1	後期					◎	
スポーツ哲学	2	後期	○				◎	○
インクルーシブスポーツ論	2	前期					◎	
ヘルスプロモーション論	2	前期	○				○	◎
運動部活動論（地域クラブ活動を含む	2	前期					◎	○
スポーツ医学Ⅰ	2	前期	○			○	◎	

2023年度シラバス（スポーツ教育学科科目）

講義名	年次	前後	DP1 保健体育科・小学校教育に関連する基礎的な事項を理解する	DP2 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項を理解する	DP3 スポーツの基礎的な実技技能を身につける	DP4 具体的な授業場面を設定した授業（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
学科基礎セミナーⅠ	1	前期	◎					
学科基礎セミナーⅡ	1	後期	◎					
小学体育Ⅰ	1	前期				◎		
小学体育Ⅱ	1	後期				◎		
教師論（初等を含む）	1	後期	◎					
教育心理学（初等を含む）	1	前期	◎					
自然活動論Ⅰ（演習を含む）	1	前期				◎		
教育方法論（初等およびICT活用を含む	2	前期		◎				
スポーツ教育学	2	前期	○	○		◎		
教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	後期	◎					
教育社会論(初等および学校安全を含	2	後期	◎					
学校体験実習（小学校）	2	前期				◎		
学校体験実習（中・高）	2	前期				◎		
学校インターンシップ実習	3	前期				◎		
ICT活用スキルの理論と実際（初等を含	4	前期				◎		
学校保健・学校安全	3	前期		◎				
人文科学系教科総論	2	前期	◎					
社会科学系教科総論	2	後期	◎					
自然科学系教科総論	2	前期	◎					
国語概論（書写を含む）	3	前期	◎					
算数概論	3	前期	◎					
理科概論	3	前期	◎					
社会科概論	3	後期		◎				
外国語概論	3	前期			◎			
家庭概論	3	後期		◎				
生活概論	3	後期		◎				
図画工作概論	3	集中		◎				
音楽概論	2	前・後		◎				
小学体育Ⅲ	2	後期			◎			
教科指導法（国語）	3	後期	◎					
教科指導法（算数）	3	前期				◎		
教科指導法(理科)	3	前期				◎		
教科指導法（社会）	3	前期				◎		
教科指導法（外国語）	3	後期				◎		
教科指導法（家庭）	3	後期				◎		
教科指導法(生活)	3	後期				◎		

2023年度シラバス（スポーツ教育学科科目）

講義名	年次	前後	DP1 保健体育科・小学校教育に関連する基礎的な事項を理解する	DP2 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項を理解する	DP3 スポーツの基礎的な実技技能を身につける	DP4 具体的な授業場面を設定した授業（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
教科指導法（図画工作）	3	集中				◎		
教科指導法（音楽）	3	前・後				◎		
教科指導法（体育）	3	前期				◎		
特別支援教育指導論（初等を含む）	2	後期				◎		
教育相談・ｷｬﾘｱ教育指導論(初等を含	2	前期				◎		
児童生徒指導論	2	前期				◎		
道徳教育指導論（初等を含む）	2	集中				◎		
特別活動・総合的な学習の時間指導論	3	前期				◎		
体つくり運動指導法	3	後期				◎		
体育科教育法	2	前期				◎		
保健科教育法	2	後期				◎		
器械運動指導法・コーチング論	3	後期				◎		
陸上競技指導法・コーチング論	3	後期				◎		
水泳指導法・コーチング論	3	後期				◎		
ゴール型球技指導法・コーチング論	3	後期				◎		
ネット型球技指導法・コーチング論	3	前期				◎		
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ型球技指導法・ｺｰﾁﾝｸﾞ論	3	前期				◎		
武道指導法・コーチング論	3	前期				◎		
ダンス指導法・コーチング論	3	後期				◎		
保健体育授業演習Ⅰ	2	後期				◎		
保健体育授業演習Ⅱ	3	前期				◎		
保健体育授業演習Ⅲ	3	後期				◎		
テーピング論(演習を含む)	1	後期			◎			
幼児スポーツ論（演習を含む）	2	後期				◎		
自然活動論Ⅱ（演習を含む）	2	前期				◎		
スポーツ政策論	1	前期					◎	
スポーツマーケティング論	1	前期					◎	
スポーツマネジメント論	1	前期					◎	○
レクリエーション論	2	後期		◎				
文章表現論	3	前期	◎					
身近な数学	3	前期				◎		
「スポーツ人物史」の研究	3	前期					◎	○
測定評価学（演習を含む）	3	前期			◎			
コーチング学	3	後期				◎		
高齢者活動支援論（演習を含む）	3	後期				◎		
教育実習（初等）	4	前期					◎	

2023年度シラバス（スポーツ教育学科科目）

講義名	年次	前後	DP1 保健体育科・小学校教育に関連する基礎的な事項を理解する	DP2 現代の保健体育科・小学校の教育課題に関連する事項を理解する	DP3 スポーツの基礎的な実技技能を身につける	DP4 具体的な授業場面を設定した授業（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
教育実習（中学校）	4	前期					◎	
教育実習（高校）	4	前期					◎	
事前・事後指導（初等）	4	前期					◎	
事前・事後指導（中・高）	4	前期					◎	
教育実践演習（初等を含む）	4	前期					◎	

2023年度シラバス（スポーツ健康科学科科目）

講義名	年次	前後	DP1 人文社会科学の基礎的な事項を理解する	DP2 自然科学に関連する専門的な事項を理解する	DP3 スポーツの技術・技能を身につける	DP4 具体的な指導場面を想定した文化・スポーツ・健康にかかわる実技指導（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
学科基礎セミナーⅠ	1	前期	◎					
学科基礎セミナーⅡ	1	後期	◎					
機能解剖学Ⅰ	1	前期					◎	
救急処置論(演習を含む)	1	後期				◎		
運動処方論	1	後期					◎	○
トレーニング論（演習を含む）	1	前期		○		◎		
スポーツ栄養学Ⅰ	2	前期				○	◎	○
測定機器の操作	2	前期		◎				
スポーツ映像分析論	3	前期		◎				
スポーツデータ解析	1	後期		◎		○		
スポーツ情報戦略論	2	前期		◎				
動作分析論	3	前期		◎				
検査・測定と評価	3	前期				◎		
測定評価学（演習を含む）	3	前期			◎			
スポーツ指導者論	1	前期					◎	
スポーツ技術・戦術論	2	後期		◎				
健康教育学	2	前期					◎	
スポーツ教育学	2	前期	○	○		◎		
コーチング学	3	後期				◎		
メンタルトレーニング論	3	前期				◎		
ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟｽﾎﾟｰﾂｺｰﾁﾝｸﾞ論	3	前期				◎		
ｼﾞｭﾆｱｽﾎﾟｰﾂｺｰﾁﾝｸﾞ論	3	前期				◎		
陸上競技指導法・コーチング論	3	後期				◎		
水泳指導法・コーチング論	3	後期				◎		
武道指導法・コーチング論	3	前期				◎		
ダンス指導法・コーチング論	3	後期				◎		
器械運動指導法・コーチング論	3	後期				◎		
ゴール型球技指導法・コーチング論	3	後期				◎		
ネット型球技指導法・コーチング論	3	前期				◎		
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ型球技指導法・ｺｰﾁﾝｸﾞ論	3	前期				◎		
スポーツコーチング実習Ⅰ	3	前期				◎		
スポーツコーチング実習Ⅱ	3	後期				◎		

2023年度シラバス（スポーツ健康科学科科目）

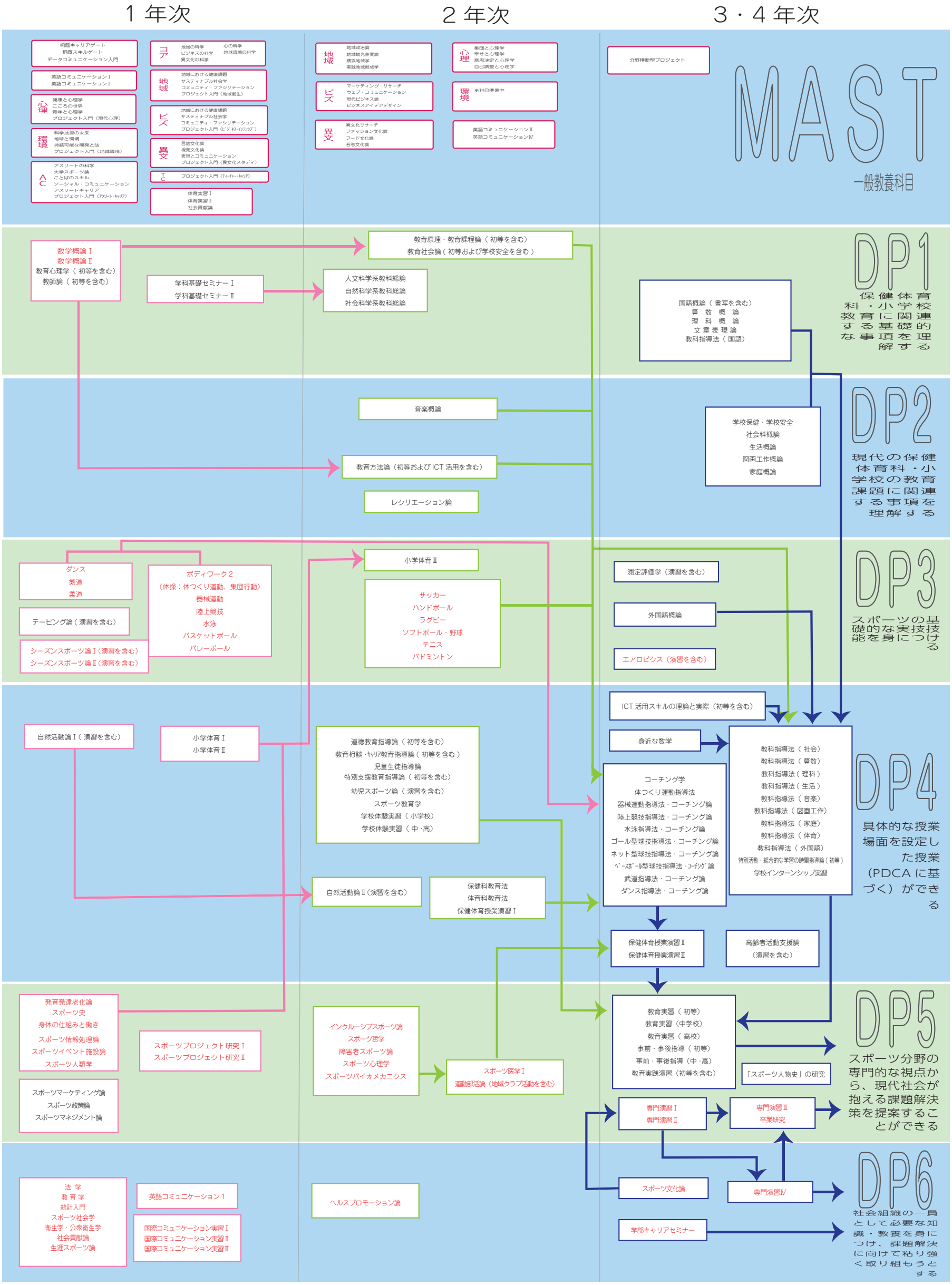
講義名	年次	前後	DP1 人文社会科学の基礎的な事項を理解する	DP2 自然科学に関連する専門的な事項を理解する	DP3 スポーツの技術・技能を身につける	DP4 具体的な指導場面を想定した文化・スポーツ・健康にかかわる実技指導（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
アスレティックトレーナーの役割	1	前期				◎		
健康医学入門	1	前期	◎					
テーピング論(演習を含む)	1	後期			◎			
運動生理学	2	前期					◎	
機能解剖学Ⅱ	2	後期	◎					
リハビリテーション論	2	前期			◎			
スポーツ栄養学Ⅱ（演習を含む）	2	後期		◎				
トレーニング学(演習を含む)	3	前期			◎			
健康管理とスポーツ医学	3	前期				◎		
スポーツ医学Ⅱ	3	前期				◎		
体つくり運動指導法	3	後期				◎		
ストレッチング論(演習を含む)	1	後期			◎			
予防とｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞⅠ（演習を含む）	1	前期				◎		
予防とｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞⅡ（演習を含む）	2	後期				◎		
予防とｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞⅢ（演習を含む）	3	前期				◎		
ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅠ（演習を含む）	2	前期			◎			
ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅡ（演習を含む）	3	後期			◎			
ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝⅢ（演習を含む）	4	前期				◎		
スポーツ政策論	1	前期	◎				○	
スポーツマーケティング論	1	前期	◎				○	
スポーツマネジメント論	1	前期	◎				○	○
スポーツジャーナリズム論	1	後期	◎					
幼児スポーツ論（演習を含む）	2	後期	◎			○		
「スポーツ人物史」の研究	3	前期	◎				○	○
日本伝統の身体表現	3	前期	◎					○
障害概論（演習を含む）	2	前期	◎				○	○
国際交流論	2	後期	◎				○	
レクリエーション論	2	後期	◎					
高齢者活動支援論（演習を含む）	3	後期	◎			○		
スポーツ現場実習Ⅰ	1	前期						◎
スポーツ現場実習Ⅱ	2	後期				◎		
スポーツ現場実習Ⅲ	3	前期				◎		

2023年度シラバス（スポーツ健康科学科科目）

講義名	年次	前後	DP1 人文社会科学の基礎的な事項を理解する	DP2 自然科学に関連する専門的な事項を理解する	DP3 スポーツの技術・技能を身につける	DP4 具体的な指導場面を想定した文化・スポーツ・健康にかかわる実技指導（PDCAに基づく）ができる	DP5 スポーツ分野の専門的な視点から、現代社会が抱える課題解決策を提案することができる	DP6 社会組織の一員として必要な知識・教養を身につけ、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする
スポーツ現場実習Ⅳ	3	後期				◎		
スポーツ現場実習Ⅴ	4	前期				◎		
スポーツインターンシップ実習	1	前期				◎		
体育科教育法	2	前期					◎	
保健科教育法	2	後期					◎	
学校保健・学校安全	3	前期						◎
教育方法論（ICT活用を含む）	2	後期					◎	
ICT活用スキルの理論と実際	4	前期				◎		
教師論	1	前期						◎
教育心理学	1	後期						◎
特別活動・総合的な学習の時間指導論	3	後期					◎	
教育相談・キャリア教育指導論	2	後期					◎	
道徳教育指導論	2	集中					◎	
教育社会論(学校安全を含む)	2	前期						◎
教育原理・教育課程論	2	前期						◎
特別支援教育指導論	2	後期					◎	
生徒指導論	3	前期					◎	
保健体育授業演習Ⅰ	2	後期					◎	
保健体育授業演習Ⅱ	3	前期					◎	
保健体育授業演習Ⅲ	3	後期					◎	
教育実習（中学校）	4	前期					◎	
教育実習（高校）	4	前期					◎	
事前・事後指導（中・高）	4	前期					◎	
教職実践演習（中・高）	4	前期					◎	
学校体験実習（中・高）	2	前期				◎		
学校インターンシップ実習	3	前期				◎		

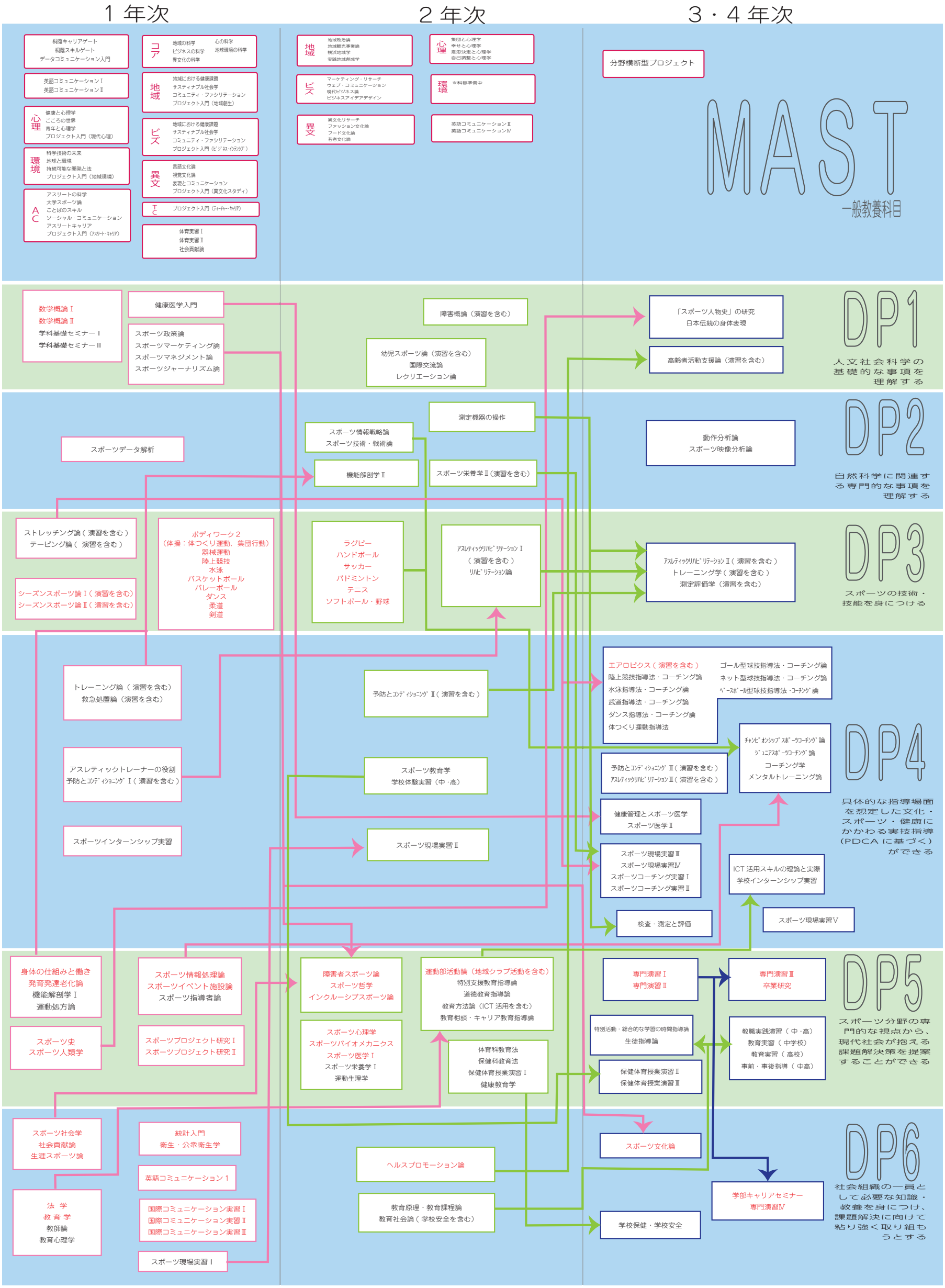
桐蔭横浜大学　スポーツ科学部　スポーツ教育学科　カリキュラムツリー

※赤字は学部共通科目



桐蔭横浜大学　スポーツ科学部　スポーツ健康科学科　カリキュラムツリー

※赤字は学部共通科目



4年間の学び

1年次 ▶▶▶ 2年次 ▶▶▶ 3年次 ▶▶▶ 4年次 ▶▶▶ 卒業後の進路 | 大学院

スポーツ教育学科

初等教育コース

中高体育専科コース

スポーツを中心とした教育方法を学び、小学校教員を目指す

小学校の教員免許を取得できる本学科では、子どもたちをスポーツ好きにする教育方法の修得を目指します。ボランティア活動や教育実習を通じてスポーツや健康に関する知識・技能を身に付け、教育現場が抱える課題について柔軟に対応できる教員を目指します。また、学内にある「教職指導室」で教員採用試験の万全なサポートを行っています。

教職課程履修の流れ

- 教職課程履修オリエンテーション
- 教職課程仮登録
- 教職課程履修オリエンテーション
- 教職課程本登録
- 介護等の体験説明会
- 介護等の体験申し込み
- 教育実習事務手続きに関する説明会
- 教育実習事前指導
- 教職課程履修継続届提出
- 教育実習
- 公立学校教員採用第一次試験
- 教育実習事後指導
- 教員免許一括申請手続きに関する説明会
- 小／中高 教員免許授与
- 教職課程履修オリエンテーション
- 教育実習先訪問・決定
- 教職課程履修継続届の提出
- 内諾依頼発行申請書提出
- 介護等の体験および体験事前指導

卒業後の進路

教員免許取得
- 小学校教員
- 中学校・高等学校教員（保健体育）

- 生涯学習における スポーツ指導者
- 幼児教育指導者
- スポーツ関連企業 など

大学院

スポーツ科学研究科

体育・スポーツの現代的諸問題の解決・実現に指導的役割を果たす人材を「高度専門的職業人」と定義し、スポーツ科学の専門知識をさらに充実・発展させた各職場で要求されるより高い専門知識や技能を修得します。

スポーツ健康科学科

スポーツコーチングコース

スポーツトレーナーコース

スポーツライフコース

からだを軸に科学・健康・文化を学び、スポーツで社会に貢献できる人材を目指す

スポーツの基礎的な理論や知識を学べる授業に加え、スポーツをあらゆる角度でとらえるユニークな授業が多い本学科では、スポーツ指導者やトレーナーはもちろん、スポーツの枠を超えたさまざまな分野の職業を目指します。また、スポーツインターンシップ実習、スポーツプロジェクト実習などの体験型授業を通して、現代社会で必要となる実践力を強化。中学校・高等学校の保健体育の教諭免許の取得も可能です。

進路に応じた実践力獲得の流れ

共通
- スポーツ医学・生理学・心理学・栄養学・バイオメカニズムなどの基礎理論の習得
- 陸上やハンドボール、ダンスなどスポーツ実践能力の獲得
- 専門演習Ⅰ・Ⅱでスポーツの教養を深める
- 各種スポーツ指導法・コーチング論で指導理論を学ぶ

コース選択

ゼミ配属

中高 教員免許授与

スポーツ指導者・コーチ
- スポーツ指導者論、スポーツ心理学、各種スポーツの指導法を学ぶ
- スポーツコーチング実習Ⅰ（学内）Ⅱ（学外）で現場力を身につける

スポーツトレーナー
- テーピング論、コンディショニング論、スポーツリハビリテーション論を学ぶ
- スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴでトレーナーに必要なスキルを身につける

スポーツアナリスト
- スポーツ情報処理論、スポーツ情報戦術論、スポーツ映像分析論を学ぶ
- 桐蔭スポーツアナリティクスラボ（T-SAL）で実践力を養う

スポーツ関連の企業や団体職員
- 地域社会とスポーツ、スポーツ政策論、NPOマネジメントを学ぶ
- スポーツプロジェクト研究、スポーツインターン実習で実際の現場を体験する

教員免許取得
- 中学校・高等学校教員（保健体育）

- スポーツ指導者・コーチ
- スポーツアナリスト
- スポーツトレーナー
- 総合型地域スポーツクラブ指導員・職員
- スポーツクラブのインストラクター
- スポーツや医療関連用品の開発販売 など

スポーツ健康科学領域（修士課程2年間）

健康を維持するための身体的メカニズム、医・科学的知識、健康・スポーツ工学など、さまざまな専門知識を学びます。

スポーツ文化科学領域（修士課程2年間）

多様な社会スポーツ環境を充実・振興するための諸政策・方策、スポーツマネジメント論などを多角的に研究します。

○桐蔭横浜大学教員定年規則

（平成 15 年 4 月 1 日制定）
最近改正　平成 19 年 9 月 1 日

（目的）
第１条　桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）の教授、准教授、専任講師及び助教（以下「教員」という。）の定年については、この規則の定めるところによる。
（教員の定年）
第２条　本学の教員の定年は、満 63 歳とする。
２　大学設置、大学院設置又は学部・学科新設のため招へいした教員については、満 68 歳まで延長することができる。
３　学部長、研究科長については、別に定める。
４　教員が定年に達したときは、その年度の末日をもって退職するものとする。
（人事評価）
第３条　第 2 条の規定にかかわらず、定年に達する 1 年前に人事評価を行い、2 年の継続雇用の適否を決定する。継続雇用とされた場合、以後 2 年ごとに人事評価を行い満 68 歳まで雇用を継続できるものとする。
（人事評価委員会）
第４条　前条に定める人事評価を行うために、本学に人事評価委員会を置く。人事評価委員会の運営規則は別に定める。
（人事評価委員）
第５条　人事評価委員は、次の各号で構成し委員長には学長が当たる。
（１）学長
（２）学長の指名した者
（その他）
第６条　定年を延長した者に対する給与等処遇については、別に定める。
附　則
１　この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
２　桐蔭横浜大学教員定年規則（平成 2 年 5 月 17 日施行）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

○桐蔭横浜大学特任教員内規

（平成 15 年 6 月 1 日制定）

（目的）

第１条　この内規は、桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）における教育並びに研究の促進を図ることを目的として、特任教員についての必要な事項を定める。

（職位）

第２条　特任教員の職位は、特任教授、特任准教授、特任専任講師及び特任助教とする。

２　前項の職位は、桐蔭横浜大学教員資格選考基準に準じ、学長が決定する。

（任務）

第３条　特任教員は、原則として一定期間授業を担当する。ただし、学長が認めた場合はこの限りではない。

２　本学が必要とする場合は、特任教員に研究活動並びに講演等への参加を要請することができる。

（手続）

第４条　特任教員の採用は、理事長と協議した学長の要請に基づき、人事委員会の議を経て教授会に報告する。

（条件）

第５条　特任教員の任用期間、授業担当時間及びその他の任務については、当該特任教員の所属する学部長又は研究科長が、あらかじめ学長と協議して決定する。

２　特任教員は、別の定めるところにより教授会又は研究科委員会の構成員とすることができる。

（期間）

第６条　特任教員の任用期間は、1 年を原則とする。ただし、学長が認めた場合はこの限りではない。

（処遇）

第７条　特任教員に、研究室の貸与並びに研究費を支給し、授業担当時間数に関わらず一定の給与を支給する。

（契約）

第８条　特任教員の採用に際して、本学と当該特任教員は、文書により契約するものとする。

（事務の所管）

第９条　特任教員に関する事務は、総務部が所管する。

（改廃）

第１０条　この内規の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附　則

この内規は、平成 15 年 6 月 1 日から施行する。

附　則

この内規は、令和２年５月１日から施行する。

附　則

この内規は、令和３年４月１日から施行する。

桐蔭横浜大学スポーツ科学部

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....1
①　学生確保の見通し.....1
ア　定員充足の見込.....1
イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....2
ウ　学生納付金の設定の考え方.....8
②　学生確保に向けた具体的な取組状況.....9
（２）人材需要の動向等社会の要請.....10
①　人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）.....10
②　上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠.....10
資料.....14

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生確保の見通し

ア　定員充足の見込

桐蔭横浜大学スポーツ科学部は，スポーツを通じて，そしてスポーツを活用して社会の課題解決に挑むことができる人材として，普遍的なコンピテンシーを携え，そしてスポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し，融合することで新たな知見を生み出すことができる人材を育成するため，正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や，生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成するスポーツ教育学科と，スポーツ科学や工学，関連する領域の専門的な知識とともに，科学的・総合的な見識と技能等を持つ指導者やトレーナーを要請するスポーツ健康科学科の２学科体制としている。本学は，徹底したアクティブラーニングを全学的に浸透させていくことから，一つの授業あたりの受講学生数の上限を原則 100 名以内とし，専門知識の教授はもちろん，学生が普遍的なコンピテンシーを身につけることができるよう，きめ細やかに教育を展開していく。

この考え方を反映し，学部全体の定員を 200 名（収容定員 800 名）とすることでクラスサイズの適正化を図る。学科別には，教員養成を行うスポーツ教育学科を 80 名（収容定員 320 名），スポーツ健康科学科を 120 名（収容定員 480 名）と配分し，学部全体のクラスサイズの適正化に加え，資格課程や実習に配慮した人数設定としている[1]。この人数は大学全体としての定員の範囲内で設定するものであることから，既存施設設備を有効に活用し，教育研究を充実できる規模である。

スポーツ科学部の設置計画の策定にあたり，本学にリーチの多い１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）の高校生及び高校生の子息がいる保護者に，第三者機関を通じて，本学スポーツ科学部（スポーツ教育学科，スポーツ健康科学科）への進学意向を問うアンケート調査を行った。その結果，スポーツ教育学科においては，高校３年生層からは，「入学を希望する」が 2.3%，「受験する候補の１つとして検討する」が 6.7%という回答を得られ，スポーツ健康科学科においては，高校３年生層からは，「入学を希望する」が 2.0%，「受験する候補の１つとして検討する」が 7.3%という回答が得られた。１都５県においては，学校基本調査より推計すると，令和５年度に大学進学を考える高校３年生が約 334,590 名おり，仮に大学進学率を 54%とすると約 180,678 名が潜在的な受験者層となる。行ったアンケート調査は無作為抽出で，２%強が「入学を希望する」を回答していることから，額面通りとはいかないまでも，十分な数の受験生に訴求できる結果を得られたと言える。②に記述する，学生確保に向けた具体的な取組を着実に実施し，この潜在的な受験

[1] スポーツ科学部の定員については，学則上はスポーツ教育学科が 120 名（収容定員 480 名），スポーツ健康科学科が 150 名（収容定員 600 名）と設定している。学部等連係課程「現代教養学環」に，スポーツ教育学科より 40 名（収容定員 160 名），スポーツ健康科学科より 30 名（収容定員 120 名）を割り当てた結果，学生募集は本文の通りの定員数で実施するものである。

者に，本学スポーツ科学部の情報を確実に届けていくことで定員充足を図っていく。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

前述したアンケート調査の概要は次の通りである。

・目的：新学部学科設置検討のための，高校生の進学ニーズを調査する
・期間：令和４年７月８日～12 日
・対象：１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）の高校生及び高校生の子息がいる保護者
・実施：本学以外の第三者機関に委託

調査対象を，高校３年生に加え，２年生や１年生にも範囲を広げることで，継続的な定員確保を図るための検討資料とした。対象地域は，本学にリーチの多い１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）とし，無作為抽出で，n を高校３年生層が 300，高校２年生層が 300，高校１年生層が 100 とした。回答は，高校生本人が回答する，又は保護者が高校生の子息と共にアンケート画面を見ながら回答する方式で協力いただいた。

まず，回答者のプロフィールであるが，男女比は，男女別人口に照らせばやや男性に偏りがあるが，体育分野であること及び大学進学層を考慮すれば，本調査の標本としては概ね問題がないと判断する。

≪回答者：男女比≫　　単位：人

	全体	男性	女性
回答数	700	400	300
	100%	57.1%	42.9%
高校３年生	300	174	126
	100%	58.0%	42.0%
高校２年生	300	169	131
	100%	56.3%	43.7%
高校１年生	100	57	43
	100%	57.0%	43.0%

都県別の回答者数は下表の通りである。学校基本調査による，中学校，義務教育学校，中等教育学校における「状況別卒業者数」（令和２年３月時点）より，各都県別の高校３年生は，東京都が 102,315 人（30.6%），神奈川県が 76,182 人（22.8%），埼玉県が 61,960 人（18.6%），千葉県が 53,436 人（16.0%），山梨県が 7,319 人（2.2%），静岡県が 33,395 人（10.0%）と推計することができる。概ね，母集団に近い構成比であると言える。

≪回答者：都道府県≫　　単位：人

	全体	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	山梨県	静岡県
回答数	700	231	183	111	107	12	56
	100%	33.0%	26.1%	15.9%	15.3%	1.7%	8.0%
高校３年生	300	96	81	51	47	4	21
	100%	32.0%	27.0%	17.0%	15.7%	1.3%	7.0%
高校２年生	300	95	81	49	45	6	24
	100%	31.7%	27.0%	16.3%	15.0%	2.0%	8.0%
高校１年生	100	40	21	11	15	4	21
	100%	40.0%	21.0%	11.0%	15.0%	1.3%	7.0%

続いて，高校卒業後の進路希望について尋ねている。４年制の大学，６年制の大学への進学希望が 90%を超えており，大学進学率が 54%程度であることに照らせば，この標本集団は大学進学者層に大きく振れている。本調査が社会調査ではなく本学への進学ニーズ調査であることを踏まえれば，よりデータを取得したい層にアプローチできたと言える。

≪回答者：高校卒業後の進路希望≫　　単位：人

	全体	４年制の大学	６年制の大学（医学部等）	海外の大学	短期大学，専修学校等	就職	その他
回答数	700	602	56	16	89	7	0
	100%	86.0%	8.0%	2.3%	12.7%	1.0%	0.0%
高校３年生	300	249	20	9	40	3	0
	100%	83.0%	6.7%	3.0%	13.3%	1.0%	0.0%
高校２年生	300	263	29	5	36	4	0
	100%	87.7%	9.7%	1.7%	12.0%	1.3%	0.0%
高校１年生	100	90	7	2	13	0	0
	100%	90.0%	7.0%	2.0%	13.0%	0.0%	0.0%

本スポーツ科学部は，スポーツ教育学科においては小学校の教職を目指し，スポーツ健康科学科においてはスポーツデータ分析等の分野を含むことから，文系・理系の区別に適さない。しかしながら，一般的に言われる理工系分野ではないことから，どちらかと言えば社会科学に比重が多いと言ってもよい。高校生においては，６～７割が文系，３～４割が理系と言われているところ，標本は，理系においてはほぼ世相を反映している。「区別なし」「その他」の動向次第ではあるが，概ね母集団に近い構成比と言ってよい。

≪回答者：高校で選択しているコース≫　　単位：人

	全体	文系	理系	区別なし	その他
回答数	700	334	244	101	21
	100%	47.7%	34.9%	14.4%	3.0%
高校３年生	300	154	102	36	8
	100%	51.3%	34.0%	12.0%	2.7%
高校２年生	300	139	112	40	9
	100%	46.3%	37.3%	13.3%	3.0%
高校１年生	100	41	30	25	4
	100%	41.0%	30.0%	25.0%	4.0%

ここからは，本スポーツ科学部について尋ねている。まずはスポーツ教育学科に関する設問で，本学科の特色である「小，中・高の教員免許取得」と「授業外での教員免許取得に向けた充実したサポート」について，パンフレットの情報を閲覧した上で，魅力度について５段階で回答いただいた。

Ｑ．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部の魅力について，「中学・高校保健体育教員免許に加え，小学校の教員免許が取得できること」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	131	124	194	78	173
	100%	18.7%	17.7%	27.7%	11.1%	24.7%
高校３年生	300	55	51	86	27	81
	100%	18.3%	17.0%	28.7%	9.0%	27.0%
高校２年生	300	54	53	81	40	72
	100%	18.0%	17.7%	27.0%	13.3%	24.0%
高校１年生	100	22	20	27	11	20
	100%	22.0%	20.0%	27.0%	11.0%	20.0%

スポーツ教育学科においては，教員養成を主たる目的とする学科として，中学・高校保健体育教員免許に加え，小学校の教員免許が取得できることを特色としている。高校３年生の，18.3%が５段階中「５」と回答，17.0%が「４」と回答している。３割強が，この特色を魅力的と感じている。

Q．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部の魅力について，「『教職指導室』を中心に授業外でも教員免許取得に向けたサポートが充実していること」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	126	149	229	70	126
	100%	18.0%	21.3%	32.7%	10.0%	18.0%
高校３年生	300	56	55	100	27	62
	100%	18.7%	18.3%	33.3%	9.0%	20.7%
高校２年生	300	50	69	94	34	53
	100%	16.7%	23.0%	31.3%	11.3%	17.7%
高校１年生	100	20	25	35	9	11
	100%	20.0%	25.0%	35.0%	9.0%	11.0%

スポーツ教育学科においては，教育課程においてのみならず，「教職指導室」を中心に授業外でも教員免許取得に向けて徹底したサポートを実施する。この特色について，高校３年生の，18.7%が５段階中「５」と回答，18.3%が「４」と回答している。教員免許が取得できるシステムよりも，徹底したサポート体制に対して魅力を感じる人数がやや多く，本学の「面倒見の良さ」を訴求できていると言える。

続いて，スポーツ健康科学科に関して２問尋ねた。本学科の特色である「体験型学習で実践力を身につけること」と「スポーツ指導者など資格取得に向けた充実したサポート」について，パンフレットの情報を閲覧した上で，魅力度について５段階で回答いただいた。

Q．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部の魅力について，「体験型学習を通してスポーツで社会に貢献できる実践力を身につけること」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	90	145	227	92	146
	100%	12.9%	20.7%	32.4%	13.1%	20.9%
高校３年生	300	38	62	96	32	72
	100%	12.7%	20.7%	32.0%	10.7%	24.0%
高校２年生	300	39	60	95	45	61
	100%	13.0%	20.0%	31.7%	15.0%	20.3%
高校１年生	100	13	23	36	15	13
	100%	13.0%	23.0%	36.0%	15.0%	13.0%

スポーツ健康科学科においては，スポーツインターンシップ実習やスポーツプロジェクト実習などの体験型授業を通して，現代社会で必要となる実践力を強化することを特色としている。高校３年生の，12.7%が５段階中「５」と回答，20.7%が「４」と回答している。３割強が，この特色を魅力的と感じている。

Q．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部の魅力について，「スポーツ指導者やトレーナーなどの様々な資格取得に向けたサポートが充実していること」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	103	137	236	77	147
	100%	14.7%	19.6%	33.7%	11.0%	21.0%
高校３年生	300	49	55	100	24	72
	100%	16.3%	18.3%	33.3%	8.0%	24.0%
高校２年生	300	38	60	102	38	62
	100%	12.7%	20.0%	34.0%	12.7%	20.7%
高校１年生	100	16	22	34	15	13
	100%	16.0%	22.0%	34.0%	15.0%	13.0%

スポーツ健康科学科においては，教育課程の各科目がスポーツ指導者やトレーナー等の各資格に対応しており，教育課程内外を通じて資格取得に向けて充実したサポートを実施する。この特色について，高校３年生の，16.3%が５段階中「５」と回答，18.3%が「４」と回答している。３割強が，この特色を魅力的と感じている。

最後に，本学スポーツ科学部への進学ニーズを尋ねた。

Q．あなたは「桐蔭横浜大学　スポーツ科学部スポーツ教育学科」へ入学したいと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	入学を希望する	受験する候補の１つとして検討する	現時点では受験先を決定していないが，教育内容に興味を持った	教育内容に興味を持ったが，受験する候補ではない	受験する候補ではない
回答数	700	13	51	118	148	370
	100%	1.9%	7.3%	16.9%	21.1%	52.9%
高校３年生	300	7	20	42	64	167
	100%	2.3%	6.7%	14.0%	21.3%	55.7%
高校２年生	300	3	23	54	59	161
	100%	1.0%	7.7%	18.0%	19.7%	53.7%
高校１年生	100	3	8	22	25	42
	100%	3.0%	8.0%	22.0%	25.0%	42.0%

本スポーツ教育学科に「入学を希望する」が 2.3%，「受験する候補の１つとして検討する」が 6.7%となった。

Q．あなたは「桐蔭横浜大学　スポーツ科学部スポーツ健康科学科」へ入学したいと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	入学を希望する	受験する候補の１つとして検討する	現時点では受験先を決定していないが，教育内容に興味を持った	教育内容に興味を持ったが，受験する候補ではない	受験する候補ではない
回答数	700	12	49	122	144	373
	100%	1.7%	7.0%	17.4%	20.6%	53.3%
高校３年生	300	6	22	41	62	169
	100%	2.0%	7.3%	13.7%	20.7%	56.3%
高校２年生	300	3	20	59	56	162
	100%	1.0%	6.7%	19.7%	18.7%	54.0%
高校１年生	100	3	7	22	26	42
	100%	3.0%	7.0%	22.0%	26.0%	42.0%

本スポーツ健康科学科に「入学を希望する」が 2.0%，「受験する候補の１つとして検討する」が 7.3%となった。

１都５県においては，学校基本調査より推計すると，令和５年度に大学進学を考える高校３年生が約 334,590 名おり，仮に大学進学率を 54%とすると約 180,678 名が潜在的な受験者層となる。本調査は，やや男子，大学進学層に偏りがあることを除いては，ほぼ１都５県の母集団を反映できていることを踏まえれば，定員確保の見込としては十分なデータとなったと思料する。この潜在的な受験者層に対して，確実に広報活動を行いリーチしていくことが我々に必要な取組となる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

学生納付金については，経営上の財務的な視点と教育サービスの学生への還元などの観点を踏まえ設定した。旧スポーツ健康政策学部の入学金，授業料，施設整備費，実験実習費をベースに，近隣他大学におけるスポーツ系学部における学生納付金の設定状況を勘案したうえで以下の金額に設定した。

入学金（初年次）	200,000 円
授業料（年額）	800,000 円
施設整備費（年額）	300,000 円
実験実習費（年額）	80,000 円

②　学生確保に向けた具体的な取組状況

②－１　オープンキャンパス

本学では，高校生・保護者を対象に，本学での学びや教育内容の説明，授業体験，個別相談会，学生による様々な体験企画などを実施するオープンキャンパスを６～９月，月１～２回実施している。スポーツ科学部においても，理念や教育内容，学修方法などについて詳細かつ丁寧に説明を行う。

②－２　キャンパスガイドの発行

本学の理念，教育内容・方法等をわかりやすく周知するため，キャンパスガイドを毎年発行している。スポーツ科学部においても，簡潔かつ丁寧な表現で紙面を構成し，受験生等の目に留まるように広報を行う。

②－３　ウェブサイトでの広報活動

本学ホームページへの掲載及びスポーツ科学部特設ページを作成し，簡潔かつ丁寧な情報発信に努める。

②－４　高校学校等での説明会

神奈川県を中心に，高等学校や進学フェア等の合同説明会において，説明会を行う。また，進路指導担当教諭のもとに訪問し，資料配布や理念・内容の説明を懇切丁寧に行う。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

スポーツ科学部は，深い教養と倫理感を礎に，スポーツ科学についての専門的知識・技能を身につけ，スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し，新たな価値を生み出すことができる人材を養成し，輩出することを目的とする。

この目的を達成するために，スポーツ科学部では，幅広い教養と確かな専門知識を身につけて，現代社会が抱える諸問題を，スポーツや身体文化を通して解決することができる，以下のような人材を養成する。

１）　スポーツや健康に関する専門知識を，現代社会の諸課題と関連づけて理解し，多角的な視点と柔軟な発想をもって他者に伝えることができる

２）　スポーツに関する理論や技能，洞察力を修得し，教育やスポーツの現場で指導することができる

３）　スポーツマネジメントやマーケティングを理解し，身体文化やスポーツを手掛かりに，すべての人が健康で楽しく生きられる社会のデザインをすることができる

②　上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

平成 23 年にスポーツ振興法が全部改正され，スポーツ基本法としてスポーツに関する施策の基本となる事項が定められた。世界共通の人類の文化で，国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであるスポーツの重要性に鑑み，我が国がスポーツ立国の実現を目指し，国家戦略として取り組んでいくことが謳われている。

平成 29 年度から令和３年度までの第２期スポーツ基本計画においては，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでその価値を享受し，人生を豊かにしていくことに加え，共生社会や健康長寿社会，経済・地域の活性化，多様性を尊重する世界の実現など，スポーツが未来社会を創っていく可能性について言及している。令和４年度からの第３期においては，第２期で言及されたことを踏襲しつつ，次の３つの視点が加えられている。

①　社会情勢や個々の置かれた状況に応じて，既存の枠組みや考え方のみにとらわれることなく，それらを不断に柔軟に見直し・改善し，最も適切・有効な，あるいは個々の状況等に柔軟に応じた方法やルールを考え出したり，創り出したりするという視点

②　既存の区別や整理の仕方を所与の前提として固定的に捉えるのではなく，一人一人が置かれた状況や事情，特性等も踏まえ，様々な立場にある人々誰もが「ともに」活動し，「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し，機運を醸成する視点

③　性別，年齢，障害の有無，経済的事情，地域事情等，それぞれが置かれた状況によって，スポーツに取り組むことを諦めたり，望まずに途中で離れたりすることがないよう，全ての

人がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成を目指す視点

これらのことから，スポーツは，特定のアスリートや業界関係者だけのものではなく，社会全体に影響を及ぼし，そしてより良い未来社会を創るための重要な公共財として期待されていることがわかる。そのためには，スポーツを通じて，そしてスポーツを活用して社会の課題解決に挑むことができる人材が必要である。普遍的なコンピテンシーを携え，そしてスポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し，融合することで新たな知見を生み出すことができる人材，スポーツで未来社会を創る人材が求められている。スポーツ科学部が掲げる人材養成の目的は，まさにこれら社会的要請を踏まえたものとなっている。

また，本学とコネクションのある地域の企業等 36 社に，本スポーツ科学部の魅力度，及び人材としてのニーズを調査した（調査日：令和４年６月２日～20 日，質問紙調査）。

本スポーツ科学部スポーツ教育学科の「スポーツ等の専門知識を持ち、教育実習やボランティア活動を通して実践的な指導力を養う。また、現代社会を読み解く力を身につけ、教育現場が抱える課題について柔軟に対応できる教員を目指す特色」については，魅力度について５段階中，10 社が「５」，25 社が「４」と回答した。また「小学校・中学校・高等学校の元校長が客員教授として指導に当たる教職指導室を設置している学修支援体制」については，魅力度について５段階中，10 社が「５」，15 社が「４」と回答した。

本スポーツ科学部スポーツ健康科学科の「スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し、新たな価値を生み出すことができる人材を養成する教育目標」については，魅力度について５段階中，13 社が「５」，19 社が「４」と回答した。また「スポーツコーチングコース、スポーツトレーナーコース、スポーツライフコースの 3 コースでそれぞれ専門的な知識を身に着け、スポーツで社会に貢献できる人材を養成するカリキュラム」については，魅力度について５段階中，13 社が「５」，16 社が「４」と回答した。

このことから，本学の社会的・地域的な位置づけにおいて，本スポーツ科学部の教育内容・システムが，概ね評価される結果を得られたと言える。さらに，「このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したい」と回答した企業は，スポーツ教育学科においては 32 社，スポーツ健康科学科においては 30 社に上り，まさに社会的，地域的な人材需要の動向を踏まえた，時宜にかなった学部学科の設置であると言える。

≪企業調査データ：スポーツ教育学科≫

連番	従業員数	新卒採用予定人数	魅力①※	魅力②※	人材採用の意向
1	2,051	60	5	4	はい
2	888	20～30	5	5	はい
3	1,089	20	4	3	はい
4	484	30	4	4	はい
5	24,268	180	4	5	はい
6	294	12	4	4	はい
7	77	4	3	4	いいえ
8	200	10	4	3	はい
9	4,000	150	4	4	はい
10	3,500	60	5	5	はい
11	45,000	1,000	5	4	はい
12	2,339	5	4	4	いいえ
13	1,000	20～30	5	3	はい
14	481	30	4	4	はい
15	75	5	4	3	はい
16	48,179	750	4	4	いいえ
17	1,500	15	4	4	はい
18	30	2	5	5	はい
19	48	3	4	2	はい
20	1,034	15	5	3	はい
21	300	8	4	5	はい
22	582	35	4	3	はい
23	650	30	5	5	はい
24	500	30～40	4	4	はい
25	17,400	300	5	5	はい
26	－	330	4	4	－
27	1,775	30	4	5	はい
28	1,870	10	4	4	はい
29	831	20	5	5	はい
30	38,444	500	4	3	はい
31	23,000	50	4	5	はい
32	2,000	50	4	3	はい
33	6,000	400	4	4	はい
34	6,000	60	4	4	はい
35	1,300	60	4	3	はい
36	15,037	180	4	3	はい

※魅力①：「スポーツ等の専門知識を持ち、教育実習やボランティア活動を通して実践的な指導力を養う。また、現代社会を読み解く力を身につけ、教育現場が抱える課題について柔軟に対応できる教員を目指す特色」について魅力を感じるか。（５段階）

※魅力②：「小学校・中学校・高等学校の元校長が客員教授として指導に当たる教職指導室を設置している学修支援体制」について魅力を感じるか。（５段階）

≪企業調査データ：スポーツ健康科学科≫

連番	従業員数	新卒採用予定人数	魅力①※	魅力②※	人材採用の意向
1	2,051	60	4	4	はい
2	888	20～30	5	5	はい
3	1,089	20	4	4	はい
4	484	30	4	4	はい
5	24,268	180	5	4	はい
6	294	12	5	5	はい
7	77	4	3	3	いいえ
8	200	10	4	4	はい
9	4,000	150	4	4	はい
10	3,500	60	4	4	はい
11	45,000	1,000	5	5	はい
12	2,339	5	4	3	いいえ
13	1,000	20～30	5	5	はい
14	481	30	4	4	はい
15	75	5	4	4	はい
16	48,179	750	4	4	はい
17	1,500	15	4	4	はい
18	30	2	5	5	いいえ
19	48	3	3	2	いいえ
20	1,034	15	5	5	はい
21	300	8	4	5	はい
22	582	35	4	3	はい
23	650	30	5	5	はい
24	500	30～40	4	4	はい
25	17,400	300	5	5	はい
26	－	330	4	4	－
27	1,775	30	4	3	はい
28	1,870	10	5	5	はい
29	831	20	5	5	はい
30	38,444	500	3	3	はい
31	23,000	50	3	3	いいえ
32	2,000	50	4	4	はい
33	6,000	400	4	4	はい
34	6,000	60	5	5	はい
35	1,300	60	5	5	はい
36	15,037	180	4	4	はい

※魅力①：「スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し、新たな価値を生み出すことができる人材を養成する教育目標」について魅力を感じるか。（５段階）

※魅力②：「スポーツコーチングコース、スポーツトレーナーコース、スポーツライフコースの３コースでそれぞれ専門的な知識を身に着け、スポーツで社会に貢献できる人材を養成するカリキュラム」について魅力を感じるか。（５段階）

資料

添付資料１　　新設学部学科に関するアンケート（高校生向け調査票）
添付資料２　　新設学部学科及び学環に関するアンケート（企業向け調査票）

桐蔭横浜大学　新設学部学科に関するアンケート

2023 年度より桐蔭横浜大学では、新しく**スポーツ科学部スポーツ教育学科**と**スポーツ健康科学科**を開設する予定です。スポーツ科学部では、スポーツを科学的に分析し、スポーツに関する専門職やスポーツによる地域貢献ができる人材を育成します。

皆さんには次の内容を読んでいただき、桐蔭横浜大学の新設学部学科に関するアンケートへ回答をお願いいたします。なお、回答の結果は、本学の社会ニーズ調査の結果として個人名・学校名がわからない形でのみ使用いたします。

※スポーツ科学部は現在、設置申請中です。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

回答者が親御様の場合、お子様同席のうえ、お子様に意見を伺いながらアンケートを進めてください。

1. あなたの学年を教えてください。※回答者が親御様の場合※【1】現在ご一緒に回答できるお子様の学年をお答えください。【2】複数のお子様がいらっしゃる場合は、最も学年の高いお子様をお答えください。）□　高校 1 年生（中等 4 年生）　□　高校 2 年生（中等 5 年生）　□　高校 3 年生（中等 6 年生）

2. あなたの高校卒業後の進路希望を教えてください。その他を選んだ場合は、具体的な内容を（）内にコメントしてください。（回答者が親御様の場合、お子様の進路希望をお答えください。）

□　4 年制の大学　□　6 年制の大学（医学部・薬学部等）　□　海外の大学
□　2 年制の短期大学・専門学校／専修学校　□　就職
□　その他（　　）

3. 高校で選択しているコースを教えてください。その他を選んだ場合は、具体的な内容を（）内にコメントしてください。（回答者が親御様の場合、お子様のコースをお答えください。）

□　文系　□　理系　□　区別なし
□　その他（　　）

4. 桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部の魅力について伺います。

4－1. ＜スポーツ科学部 スポーツ教育学科＞

（1）「中学・高校保健体育教員免許に加え、小学校の教員免許が取得できること」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

（2）「『教職指導室』を中心に授業外でも教員免許取得に向けたサポートが充実していること」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

（3）あなたは「桐蔭横浜大学 スポーツ科学部 スポーツ教育学科」へ入学したいと思いますか。（回答者が親御様の場合、お子様の希望をお答えください。）

□　入学を希望する　　□　受験する候補の１つとして検討する

□　現時点では受験先を決定していないが、教育内容に興味を持った

□　教育内容に興味を持ったが、受験する候補ではない

□　受験する候補ではない

4－2. ＜スポーツ科学部 スポーツ健康科学科＞

（1）「体験型学習を通してスポーツで社会に貢献できる実践力を身につけること」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2)「スポーツ指導者やトレーナーなどの様々な資格取得に向けたサポートが充実していること」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) あなたは「桐蔭横浜大学 スポーツ科学部 スポーツ健康科学科」へ入学したいと思いますか。（回答者が親御様の場合、お子様の希望をお答えください。）

□　入学を希望する　　□　受験する候補の１つとして検討する
□　現時点では受験先を決定していないが、教育内容に興味を持った
□　教育内容に興味を持ったが、受験する候補ではない
□　受験する候補ではない

桐蔭横浜大学　新設学部学科及び学環に関するアンケート

平素は本学の教育研究にご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

本学では、2023 年度より新らたに、**スポーツ科学部スポーツ教育学科**と**スポーツ健康科学科**を開設する予定です。スポーツ科学部では、スポーツを科学的に分析し、スポーツに関する専門職やスポーツによる地域貢献ができる人材を育成します。また、新しい学部の形である**現代教養学環**を開設する予定です。現代教養学環では、マーケティング学、心理学、国際コミュニケーション学、地域社会学、サスティナブル工学の 5 分野を学び、最終的に 1 つのコースを学ぶことにより現代社会の課題の解決ができる人材を育成します。

本学の新設学部学科及び学環に関して、次のアンケートを行っておりますので、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。なお、回答の結果は、本学の社会ニーズ調査の結果として企業名・個人名がわからない形でのみ使用いたします。

※スポーツ科学部及び現代教養学環は現在、設置申請中です。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

本アンケートはスマホ･PC からも回答することができます。次の QR コード又は URL からご回答ください。

https://forms.gle/1nXLScymRUD9CtM57

桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023 は､桐蔭横浜大学ホームページからご覧いただけます。次の QR コード又は URL からご覧ください。

http://toin.ac.jp/ouen-news/news/etc/2022-05-23/2269/

1. 従業員数を教えてください。

（　　）人

※正社員数　（支店、グループ含む）

2. 新規大卒者の採用予定者数を教えてください。

（　　）人（予定）

3. 桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部について伺います。

3－1. スポーツ教育学科（P21～22）は主に、小学校の教員及び中学校、高等学校の保健体育科教員を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

(1)「スポーツ教育学科では、スポーツ等の専門知識を持ち、教育実習やボランティア活動を通して実践的な指導力を養う。また、現代社会を読み解く力を身につけ、教育現場が抱える課題について柔軟に対応できる教員を目指す特色」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2)「小学校・中学校・高等学校の元校長が客員教授として指導に当たる教職指導室を設置している学修支援体制」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。
また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。
□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

3－2. スポーツ健康科学科（P23~24）では、からだを軸にした科学・健康・文化を学び、スポーツで社会に貢献できる人材を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

(1) 「スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し、新たな価値を生み出すことができる人材を養成する教育目標」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2) 「スポーツコーチングコース、スポーツトレーナーコース、スポーツライフコースの 3 コースでそれぞれ専門的な知識を身に着け、スポーツで社会に貢献できる人材を養成するカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。
□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

４．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P25～28 の現代教養学環について伺います。

現代教養学環は、複数の分野を横断的に学ぶことにより、現代社会の抱える課題をとらえ、より良い未来社会を築く人材を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

※学環とは、学部相当の教育課程です。現代教養学環の入学試験に合格した学生が、学部と同じように入学できます。

(1)「専門的な知識を中心に、隣接する分野に横断する幅広い知識を身につけた人材を育成するカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2)「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。

また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。

□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

回答にご協力いただき、誠にありがとうございます。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職（就任年月）
1	学長	モリ　トモコ 森　朋子 ＜令和4年4月1日＞		博士（言語文化学）		桐蔭横浜大学学長（令和4年4月1日）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ科学部スポーツ教育学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜令和5年4月＞		体育学修士		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部教授（平7.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツプロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							スポーツプロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
2	専	教授（学科長）	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学校体験実習（小学校）	2前	1	1		
							学校体験実習（中・高）	2前	1	1		
							学校インターンシップ実習	4前	1	1		
							音楽概論	2前・後	2	2		
							教科指導法（音楽）	3前・後	2	2		
							教育実習（初等）	4前	4	1		
							教育実習（中学校）	4前	4	1		
							教育実習（高校）	4前	2	1		
							事前・事後指導（初等）	4前	1	1		
							事前・事後指導（中・高）	4前	1	1		
							教職実践演習（初等を含む）	4前	2	1		
3	専	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平28.1）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教師論（初等を含む）	1後	2	1		
							教師論	1前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	3前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
4	専	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ボランティア論	1後	2	1		
							ボランティア実習	1後	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							人文科学系教科総論	2前	1	1		
							国語概論（書写を含む）	3前	1	1		
							教科指導法（国語）	3後	1	1		
							文章表現論	3前	2	1		
5	専	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士（地球環境科学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平31.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							地球と環境	1・2前	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							理科概論	3前	1	1		
							生活概論	3後	1	1		
							教科指導法（理科）	3前	1	1		
							教科指導法（生活）	3後	1	1		

6	専	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教育心理学（初等を含む）	1後	2	1		
							教育心理学	1後	2	1		
							教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2前	2	1		
							教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1		
7	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論	1・2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
							表現とコミュニケーション	1・2後	2	1		
8	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		ダンス	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
							エアロビクス（演習を含む）	3前	1	1		
							ダンス指導法・コーチング論	3後	2	1		
							地域における健康課題	1・2前	2	1		
							コミュニティ・ファシリテーション	1・2後	2	1		
							地域政治論	2・3前	2	1		
							地域観光事業論	2・3前	2	1		
9	専	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅱ	1後	1	1		
							小学体育Ⅲ	2後	2	1		
							教科指導法（体育）	3前	2	1		
							体育科教育法	2前	2	1		
10	専	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜令和5年4月＞		スポーツ科学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							自然活動論Ⅰ（演習を含む）	1前	2	1		
							学校保健・学校安全	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							自然活動論Ⅱ（演習を含む）	2前	2	1		
							「スポーツ人物史」の研究	3前	2	1		
11	専	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教育学	1前	2	1		
							教育方法論（初等を含む）	2前	2	1		
							教育方法論	2後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	3前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
12	専	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		バスケットボール	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		

13	専	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		学部キャリアセミナー	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							バレーボール	1後	1	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む)	1前	2	1		
							シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む)	1後	2	1		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
14	専	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							数学概論Ⅰ	1前	2	1		
							数学概論Ⅱ	1後	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							算数概論	3前	1	1		
							教科指導法（算数）	3前	1	1		
							身近な数学	3前	2	1		
15	専	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学) 修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ教育学	2前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							幼児スポーツ論（演習を含む）	2後	2	1		
16	専	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 (平7.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
17	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜令和5年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
18	兼担	教授	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜令和5年4月＞		体育学士		テーピング論（演習を含む）	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
19	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平25.4)	5日
							海外実習	2前	2	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							スポーツ政策論	1前	2	1		
20	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		スポーツ史	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
							スポーツ文化論	1前	2	1		
21	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜令和5年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
22	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜令和5年4月＞		修士 (経営学)		統計入門	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
							評価測定学（演習を含む）	3前	2	1		

23	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
24	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜令和5年4月＞		博士 (運動生理学)		身体の仕組みと働き 陸上競技 陸上競技指導法・コーチング論	1後 1前・後 3後	2 1 2	1 2 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
25	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1・2前 1前・後 1前・後 2・3前 2・3後 2・3前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
26	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1・2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
27	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜令和5年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
28	兼担	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜令和5年4月＞		教育学修士		社会科学系教科総論 社会科概論 教科指導法（社会）	2後 3前 3前	2 1 1	1 1 1	法学部 教授 (平21.4)	5日
29	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
30	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜令和5年4月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
31	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1・2前 1後	0.7 1 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
32	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		地球環境の科学 科学技術の未来	1前 1・2前	0.7 1	1 1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
33	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
34	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		キャリアトランジション インターンシップ ソーシャル・コミュニケーション	2前 3前 1・2後	2 2 2	1 1 1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
35	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1・2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
36	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 評価測定学（演習を含む）	2後 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
37	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		スポーツイベント施設論 スポーツマーケティング論 スポーツマネジメント論 ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1後 1前 1前 1前 1・2後 1・2前 1後 2・3前 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日

38	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		柔道 武道指導法・コーチング論	1前・後 3前	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平18.4)	5日
39	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		スポーツ社会学 スポーツ人類学	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平29.4)	5日
40	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		剣道 武道指導法・コーチング論 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前・後 3前 1前 1前 1後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3後 2・3前	1 2 2 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平26.4)	5日
41	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		教育原理・教育課程論(初等を含む) 教育原理・教育課程論	2後 2前	2 2	1 1	法学部 准教授 (平29.4)	5日
42	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2・3前 2・3後 2・3後 2後 1・2後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
43	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜令和5年4月＞		修士 (武道・スポーツ)		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論	2前 3後	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
44	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		ヘルスプロモーション論 評価測定学（演習を含む） 高齢者活動支援論（演習を含む）	2前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (平30.4)	5日
45	兼担	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツ情報処理論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
46	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 青年と心理学 こころの世界 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1・2後 1・2前 2・3前 2・3後 2・3後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
47	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1・2後 1後 2・3後 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
48	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 (令和3.4)	5日
49	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 (平13.4)	5日
50	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日

51	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和5年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
52	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士（教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む） 特別活動・総合的な学習の時間指導法	3前 3後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
53	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		教育社会論（初等および学校安全を含む） 教育社会論	2後 2後	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
54	兼任	講師	オクムラ　コウイチ 奥村　耕一 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		人文科学系教科総論 外国語概論 教科指導法（外国語）	2前 3前 3後	1 1 2	1 1 1	情報経営イノベーション専門職大学 講師 (令2.4)	
55	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ボディーワークⅡ（体操：体つくり運動、集団行動）	1前・後	1	3	日本Gボール協会 (平22.4)	
56	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和5年4月＞		博士（体育科学）		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
57	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜令和5年4月＞		体育学修士		器械運動 器械運動指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
58	兼任	講師	ナダチ　ヒデアキ 名達　英詔 ＜令和5年4月＞		修士（芸術学）		図画工作概論 教科指導法（図画工作）	3前 3前	1 1	1 1	十文字学園女子大学 教授 (平29.4)	
59	兼任	講師	スズキ　マユミ 鈴木　真優美 ＜令和5年4月＞		学士（教育学）		家庭概論 教科指導法（家庭）	3後 3後	1 1	1 1	川崎市立東橘中学校 非常勤講師 (平30.4)	
60	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士（学術）		道徳教育指導論（初等を含む） 道徳教育指導論	2後 2前	2 2	1 1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
61	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		児童生徒指導論 生徒指導論	2前 3前	2 2	1 1	東海大学 教授 (平26.4)	
62	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		特別支援教育指導論（初等を含む） 特別支援教育指導論	2後 2後	2 2	1 1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
63	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		サッカー	2前	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
64	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
65	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 1	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
66	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		テニス	2前・後	1	2	フリーランス	
67	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜令和5年4月＞		体育学修士		バドミントン	2前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
68	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜令和5年4月＞		学士（体育学）		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	
69	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜令和5年4月＞		体育学修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 平14.4	
70	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		大学スポーツ論	1・2前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
71	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士（文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
72	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士（フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	

73	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
74	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
75	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
76	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
77	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
78	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	
79	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｳﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts（TESOL）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 （令3.3）	
80	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
81	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
82	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor （平27.4）	
83	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 （平27.4）	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ科学部スポーツ健康科学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜令和5年4月＞		体育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							テーピング論（演習を含む）	1後	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	2	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	2	1		
							アスレティックトレーナーの役割	1前	2	1		
							リハビリテーション論	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅠ（演習を含む）	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅡ（演習を含む）	3後	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅢ（演習を含む）	4前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅳ	3後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅴ	4前	2	1		
							スポーツインターンシップ実習	1前	1	1		
2	専	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平25.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							スポーツ政策論	1前	2	1		
							障害概論（演習を含む）	2前	2	1		
							海外実習	2前	2	1		
							国際交流論	2後	2	1		
3	専	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜令和5年4月＞		修士（文学）		スポーツ史	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ文化論	1前	2	1		
							日本伝統の身体表現	2前	2	1		
4	専	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜令和5年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							発育発達老化論	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（演習を含む）	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅱ	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		

5	専	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜令和5年4月＞		修士 (経営学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 統計入門 評価測定学（演習を含む） スポーツ栄養学Ⅰ スポーツ栄養学Ⅱ（演習を含む）	3前 3後 4前 4後 4通 1後 3前 2前 2後	2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
6	専	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜令和5年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
7	専	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 機能解剖学Ⅰ 検査・測定と評価 機能解剖学Ⅱ 予防とコンディショニングⅠ（演習を含む） 予防とコンディショニングⅡ（演習を含む） 予防とコンディショニングⅢ（演習を含む） スポーツ現場実習Ⅱ スポーツ現場実習Ⅲ	3前 3後 4前 4後 4通 1前 3前 2後 1前 2後 3前 2後 3前	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
8	専	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 メンタルトレーニング論 ジュニアスポーツコーチング論 スポーツコーチング実習Ⅱ	2前 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
9	専	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜令和5年4月＞		博士 (運動生理学)		身体の仕組みと働き 陸上競技 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技指導法・コーチング論 運動生理学	1後 1前・後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 2後	2 1 2 2 2 2 4 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
10	専	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜令和5年4月＞		医学博士		健康医学入門 健康管理とスポーツ医学	1前 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
11	専	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1・2前 1前・後 1前・後 2・3前 2・3後 2・3前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
12	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1・2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
13	専	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 評価測定学（演習を含む） 動作分析論	2後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前	2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日

14	専	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平18.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							運動処方論	1後	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅰ	3前	1	1		
15	専	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜令和5年4月＞		博士 （学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							トレーニング論（演習を含む）	1前	2	1		
							測定機器の操作	2前	2	1		
							トレーニング学（演習を含む）	3前	2	1		
16	専	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜令和5年4月＞		博士 （文学）		スポーツ社会学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平29.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ人類学	1後	2	1		
17	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 （スポーツ科学）		スポーツイベント施設論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							スポーツマーケティング論	1前	2	1		
							スポーツマネジメント論	1前	2	1		
							ビジネスの科学	1前	2	2		
							マーケティング各論	1・2後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1・2前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2・3前	2	1		
							現代ビジネス論	2・3後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
18	専	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1・2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
19	専	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜令和5年4月＞		修士 （武道・スポーツ）		ハンドボール	2前	1	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		
							チャンピオンシップスポーツコーチング論	3前	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅰ	3前	1	1		
20	専	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜令和5年4月＞		博士 （学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平30.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							評価測定学（演習を含む）	3前	2	1		
							高齢者活動支援論（演習を含む）	3後	2	1		
							健康教育学	2前	2	1		
							ストレッチング論（演習を含む）	1後	2	1		
21	専	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和5年4月＞		修士 （スポーツ科学）		スポーツ情報処理論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （令4.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ映像分析論	3前	2	1		
							スポーツデータ解析	1後	2	1		
							スポーツ情報戦略論	2前	2	1		
							スポーツ技術・戦術論	2後	2	1		

22	兼担	教授 (学部長)	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜令和5年4月＞		体育学修士		柔道 スポーツプロジェクト研究Ⅰ スポーツプロジェクト研究Ⅱ 武道指導法・コーチング論 スポーツ指導者論 スポーツコーチング実習Ⅱ	1前・後 1前 1後 3前 1前 3後	1 2 2 2 2 1	2 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平7.4)	5日
23	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 学校インターンシップ実習 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前 4前	4 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
24	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際 保健科教育法 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ	1前 3前 2後 2後 3前 3後	2 2 2 0.7 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平28.1)	5日
25	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		ボランティア論 ボランティア実習	1後 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
26	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士(心理学)		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
27	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士(地球環境科学)		地球と環境	1・2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
28	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
29	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1・2前 1・2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
30	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		キャリアトランジション インターンシップ ソーシャル・コミュニケーション	2前 3前 1・2後	2 2 2	1 1 1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
31	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士(スポーツ科学)		ダンス エアロビクス（演習を含む） ダンス指導法・コーチング論 地域における健康課題 コミュニティ・ケアシステムⅠ 地域政治論 地域観光事業論	1前・後 3前 3後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3前	1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
32	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜令和5年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
33	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
34	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜令和5年4月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
35	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士(理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1・2前 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
36	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		地球環境の科学 科学技術の未来	1前 1・2前	0.7 2	1 1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
37	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和5年4月＞		修士(体育学)		体育教科法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日

38	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜令和5年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ 「スポーツ人物史」の研究	3前 2後 3前 3後 3前	2 0.7 2 2 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
39	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		教育学 ICT活用スキルの理論と実際 教育方法論	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
40	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜令和5年4月＞		修士(体育科学)		バスケットボール ゴール型球技指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
41	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士(体育科学)		学部キャリアセミナー バレーボール シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む) シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む) スポーツ哲学 ネット型球技指導法・コーチング論 キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ	3前 1後 1前 1後 2後 3前 2前 2後 3前	2 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
42	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 (平29.4)	5日

43	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		剣道 武道指導法・コーチング論 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前・後 3前 1前 1前 1後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3後 2・3前	1 2 2 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
44	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2・3前 2・3後 2・3後 2後 1・2後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （令4.4）	5日
46	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学） 修士 （教育学）		スポーツ教育学 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ 幼児スポーツ論（演習を含む）	2前 2後 3前 3後 2後	2 0.7 2 2 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
47	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		水泳 水泳指導法・コーチング論 コーチング学	1前 3後 3後	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平7.4）	5日
48	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 青年と心理学 こころの世界 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1・2後 1・2前 2・3前 2・3後 2・3後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
49	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士 （文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1・2後 1後 2・3後 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
50	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
51	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
52	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
53	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和5年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
55	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		教育社会論（学校安全を含む）	2前	2	1	東京学芸大学 共同研究員 （平27.7）	
56	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		ボディーワークⅡ （体操：体つくり運動、集団行動）	1前・後	1	3	日本Gボール協会 （平22.4）	
57	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和5年4月＞		博士 （体育科学）		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	

58	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		器械運動 器械運動指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
59	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
60	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
61	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
62	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		サッカー	2前	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
63	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
64	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 2	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
65	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		テニス	2前・後	1	2	フリーランス	
66	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
67	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜令和5年4月＞		学士 (体育学)		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	
68	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 (平3.4)	
69	兼任	講師	モギ　ヒロコ 茂木　宏子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		スポーツジャーナリズム論	1後	2	1	フリージャーナリスト (昭61.4)	
70	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1・2前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
71	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
72	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
73	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
74	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	

75	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
76	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
77	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
78	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰﾏﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
79	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
80	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
81	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
82	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
83	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（現代教養学環）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（課程長）	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士（学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
							現代社会と学術研究	3後	2	1		
							広告論	3・4後	2	1		
							言語文化交流論	3前	2	1		
							国際観光論	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
2	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士（学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
							インターンシップ	3前	2	1		
							ロジカルライティング	2前	2	1		
							ロジカルコミュニケーション	2後	2	1		
							心理学研究法	3前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
3	専	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		キャリアトランジション	2前	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
							インターンシップ	3前	2	1		
							ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1		
4	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平30.4）	5日
							コミュニティ・ノアンリアーンョン	1後	2	1		
							地域政治論	2前	2	1		
							地域観光事業論	2前	2	1		
							フィールドスタディⅠ	1前	1	1		
							フィールドスタディⅡ	1後	1	1		
							フィールドスタディⅢ	2前	2	1		
							フィールドスタディⅣ	2後	1	1		
							現代社会の科学	3前	2	1		
							地域社会学研究法	3前	2	1		
							地域共生論	3前	2	1		
							地域共生実践	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		

5	専	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士 （理学）		科学技術の未来	1前	1	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							数学Ⅰ	2前	2	1		
							数学Ⅱ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
6	専	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		科学技術の未来	1前	1	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
7	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平17.4）	5日
							表現とコミュニケーション	1後	2	1		
8	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 （スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							マーケティング学研究法	3前	2	1		
							スポーツマーケティング論	3・4前	2	1		
							スポーツマネジメント論	3・4前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
9	専	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		異文化の科学	1前	2	1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							異文化リサーチ	2前	2	1		
							フード文化論	2後	2	1		
							若者文化論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							ことばのスキル	1後	2	1		
							国際コミュニケーション学研究法	3前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
10	専	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
							体育実技Ⅰ	1前	1	1		
							体育実技Ⅱ	1後	1	1		
							アスリートの科学	1前	2	1		
							アスリートキャリア	1後	2	1		
							アスリート・クロス	2前	2	1		
							リーダーシップ教育	2後	2	1		
							ライフスキル	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		

11	専	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
12	専	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							地域の科学	1前	2	2		
							サステナブル社会学	1後		1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							横浜地域学	2後	2	1		
							実践地域創成学	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
13	専	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							データコミュニケーション入門	1後	2	1		
							心の科学	1前	2	2		
							こころの世界	1前	2	1		
							青年と心理学	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							デジタルスキル	2後	2	1		
							データコミュニケーション	2後	2	1		
							心理統計解析	3前	2	1		
							社会・文化と心理学	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
14	兼担	教授	フクイ　コウスケ 福井　康佐 ＜令和5年4月＞		博士（法学）		租税法	3・4前	2	1	法学部 教授 （平24.4）	5日
15	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		比較政治制度論	3・4前	2	1	法学部 教授 （平5.4）	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
16	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成19年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3	法学部 教授 （平14.9）	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
17	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
18	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
							政治学	3・4前	2	1		
19	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		ボランティア論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
							ボランティア実習	1後	2	1		

20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		海外実習 国際交流論	2前 3・4後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平25.4）	5日
21	兼担	教授	タケウチ　アキヨ 竹内　明世 ＜令和5年4月＞		修士（法学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	法学部 教授 （平10.4）	5日
22	兼担	教授	トクオカ　ヨシカズ 徳岡　由一 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		化学 分析化学 機器分析化学 基礎光学 サステナブル工学研究法Ⅰ サステナブル工学研究法Ⅱ 無機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ 電気化学 界面科学	2前 2後 2後 2後 3前 3後 3前 3後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平13.4）	5日
23	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際	1前 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平28.1）	5日
24	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士（心理学）		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
25	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜令和5年4月＞		博士（法学）		法哲学	3・4後	2	1	法学部 教授 （平16.4）	5日
26	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士（教育学）		教育学 ICT活用スキルの理論と実際 教育方法論	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
27	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士（教育学）		教育原理・教育課程論 市民形成論	2前 3・4前	2 2	1 1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
28	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
29	兼担	准教授	オオタ　エイスケ 太田　英輔 ＜令和5年4月＞		博士（理学）		有機化学基礎 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 高分子化学	2後 3前 3後 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 准教授 （令4.4）	5日
30	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士（体育科学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
31	兼担	講師	オオヌマ　ケンタロウ 大沼　健太郎 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		物理Ⅰ 物理Ⅱ 力学 電磁気学 電気工学	2前 2後 3前 3後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （平28.4）	5日
32	兼担	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和5年4月＞		博士（理工学）		物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 環境分析学	2後 3後 3後	2 2 2	1 1 1	医用工学部 講師 （令4.4）	5日

33	兼担	講師	ヤマウチ　シノブ 山内　忍 ＜令和5年4月＞		博士 （工学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 准教授 （平24.4）	5日
34	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
35	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
36	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
37	兼任	客員教授	ペマ・ギャルポ ＜令和5年4月＞		学士 （法学）		国際政治論	3・4前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平16.4）	
38	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 （令2.4）	
39	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		教育社会論（学校安全を含む）	2前	2	1	東京学芸大学 共同研究員 （平27.7）	
40	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 （令2.4）	
41	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 （平26.4）	
42	兼任	講師	オカザキ　リカ 岡崎　理香 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		行政学	3・4前	2	1	一般社団法人 Global Issues Forum Tokyo 事務局長 （平26.1）	
43	兼任	講師	ヤナギ　アヤコ 柳　綾子 ＜令和5年4月＞		博士 （経営学）		会計学	3・4前	2	1	税理士法人恒輝 （榎本税務会計事務所） （平25.9～平29.3）	
44	兼任	講師	オチアイ　アキラ 落合　晃 ＜令和5年4月＞		博士 （医学）		統合医療学概論	3・4前	2	1	日本医療科学大学 教授 （平29.4）	
45	兼任	講師	ﾄｸﾓﾄ　ﾋﾛﾀｶ 徳本　宏孝 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		地方自治法	3・4後	2	1	中央大学 法学部 教授 （平29.4）	
46	兼任	講師	オカダ　アキト 岡田　昭人 ＜令和5年4月＞		修士 （工学）		都市と防災	3・4後	2	1	住まい・まちづくりデザインワークス　代表社員 （平20.7）	
47	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
48	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
49	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
50	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
51	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
52	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
53	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ　ﾌﾗﾝｼｽ　ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	

54	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
55	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
56	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
57	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
58	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
59	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
60	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（法学部法律学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		時事英語Ⅰ	3前	2	1	法学部教授(平14.9)	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
2	専	教授	カワイ　ミキオ 河合　幹雄 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							法学入門ゼミⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							法社会学	1後	2	1		
							フランス法	3後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
3	専	教授	ウチガサキ　ヒデヨシ 内ヶ崎　善英 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							法学入門ゼミⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							国際法Ⅰ	2前	2	1		
							国際法Ⅱ	3後	2	1		
							政治経済特別講義Ⅰ	2前	2	1		
							政治経済特別講義Ⅱ	2後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
4	専	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		フレッシュマンゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平9.4)	5日
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							現代社会への視座Ⅰ	1前	2	1		
							現代社会への視座Ⅱ	1後	2	1		
							簿記論Ⅰ	2前	2	1		
							簿記論Ⅱ	2後	2	1		
							政治学Ⅰ	2前	2	1		
							政治学Ⅱ	2後	2	1		
							政治思想史	2後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
							持続可能な開発と法	1後	2	1		
							知的財産権法	3前	2	1		
							英米法	3後	2	1		
							法律外国語講読Ⅰ	3前	2	1		
							法律外国語講読Ⅱ	3後	2	1		
							法律外国語講読Ⅲ	3前	2	1		
							法律外国語講読Ⅳ	3後	2	1		
							外国法特別講義Ⅰ	2前	2	1		
							外国法特別講義Ⅱ	2後	2	1		
							公共政策演習Ⅰ	2前	2	1		
							公共政策演習Ⅱ	2後	2	1		
5	専	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		フレッシュマンゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							ジェンダー論	2後	2	1		
							比較政治制度論Ⅰ	1前	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		

6	専	教授	カサハラ　タケヒコ 笠原　毅彦 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法情報学Ⅰ 法情報学Ⅱ 電子商取引法 民事法特別講義Ⅰ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
7	専	教授	タケムラ　ノリヨシ 竹村　典良 ＜平成5年4月＞		法学修士		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ SDGｓと法 環境法 刑事政策Ⅰ 刑事政策Ⅱ 犯罪学Ⅰ 犯罪学Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
8	専	教授	モリ　ヤスノリ 森　保憲 ＜平成15年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 比較憲法 憲法基礎演習 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平15.4)	5日
9	専	教授	タケウチ　アキヨ 竹内　明世 ＜平成10年4月＞		修士 (法学)		経済法 商法Ⅳ 模擬裁判Ⅱ キャリア・デザインⅠ キャリア・デザインⅡ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究 アクティヴ・ラーニングⅠ アクティヴ・ラーニングⅡ	3後 3前 1後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平10.4)	5日
10	専	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法哲学 法史学Ⅱ 法律入門演習 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 1後 1前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平16.4)	5日
11	専	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 社会保障法 労働法Ⅰ 労働法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日

12	専	教授 (学部長)	アサヅマ　カズヒト 麻妻　和人 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 基礎法特別講義Ⅰ 裁判法Ⅱ 刑事訴訟法 刑事法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日
13	専	教授	エグチ　マキコ 江口　眞樹子 ＜平成19年4月＞		法学修士		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 商法Ⅰ 商法Ⅱ 商法Ⅲ 金融商品取引法 会社法務 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 2前 3後 2後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平19.4)	5日
14	専	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士 (法学)		フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 民事紛争処理法Ⅰ 民事紛争処理法Ⅱ 中国法Ⅰ 中国法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平19.4)	5日
15	専	教授 (学科長)	タニワキ　マサト 谷脇　真渡 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 刑法Ⅲ 刑法基礎演習 地方公共団体の実務Ⅰ 地方公共団体の実務Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1後 2前 2前 1後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日
16	専	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜平成21年4月＞		教育学修士		フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 卒業研究 社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会科教育法Ⅲ 社会科教育法Ⅳ 公民科教育法Ⅰ 公民科教育法Ⅱ 事前・事後指導（中・高） 教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実践演習（中・高）	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3通 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	フクイ　コウスケ 福井　康佐 ＜平成24年4月＞		博士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 租税法Ⅰ 租税法Ⅱ 公法特別講義Ⅰ 公法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 1前 1後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平24.4)	5日

18	専	教授	ナカノ　クニヤス 中野　邦保 ＜平成17年4月＞		修士 （法 学）		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 民法Ⅱ 民法Ⅲ 債権法 民事法特別講義Ⅰ 民事法特別講義Ⅱ ドイツ法 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 （平17.4）	5日
19	専	准教授	アキタ　トモコ 秋田　知子 ＜平成17年4月＞		修士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 裁判法Ⅰ 民事訴訟法 民事執行保全法 法律日本語 ミディエイション交渉 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 3前 3後 1前 2前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平17.4）	5日
20	専	准教授	モギ　ヨウヘイ 茂木　洋平 ＜平成24年4月＞		博士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平24.4）	5日
21	専	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士 （教育 学）		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 市民形成論 市民教育論 教育原理・教育課程論	2前 2後 2前 2後 2前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
22	専	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		修士 （体育 学）		国際武道研修 フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ スポーツ法学 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	2後 1前 1後 2前 2後 2前 1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
23	専	准教授	ヤノ　ショウゴロウ 箭野　章五郎 ＜平成27年4月＞		博士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 刑事法特別講義Ⅰ 模擬裁判Ⅰ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1後 2前 2前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平27.4）	5日

24	専	講師	ヨシダ　イサオ 吉田　功 ＜令和2年4月＞		学士 （経済学）		フレッシュマンゼミⅠ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 情報社会論Ⅰ 情報社会論Ⅱ 近現代の政治・経済・社会Ⅰ 近現代の政治・経済・社会Ⅱ 現代社会への視座Ⅰ 現代社会への視座Ⅱ 公共政策演習Ⅰ 公共政策演習Ⅱ	1前 2前 2後 2前 2後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 講師 （令2.4）	5日
25	専	講師	アオキ　ヒトミ 青木　仁美 ＜平成31年4月＞		博士 （法学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 民法Ⅰ 民法Ⅲ 家族法 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 講師 （平31.4）	5日
26	専	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 法史学Ⅰ 基礎法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 1前 1後 1前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
27	専	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ スポーツ法学	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
28	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士 （心理学）		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1前 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
29	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平20年4月＞		修士 （文学）		宗教学概論	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
30	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平28.1）	5日
31	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 （学術）		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・後 1前・後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
32	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年4月＞		博士 （学術）		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1前 2前 2前 2後 2後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日

33	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平30.4）	5日
34	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士（理学）		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
35	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
36	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平17.4	5日
37	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
38	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
39	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平24年4月＞		博士（教育学）		教育方法論 ICT活用スキルの理論と実際	2後 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
40	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		情報処理Ⅰ デジタル産業論	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平3.4	5日
41	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
42	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
43	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
44	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サスティナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日

46	兼任	客員教授	ナカジマ　ハジメ 中島　肇 ＜平成19年4月＞		学士 (法学)		消費者と法 倒産法	2後 3前	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平19.4)	
47	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
48	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
49	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
50	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
51	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
52	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
53	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｽ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
54	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
55	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
56	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
57	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
58	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
59	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
60	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
61	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	2後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	

62	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	2後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
63	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	2前	2	1	中央大学 客員研究員 (平31.4)	
64	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		哲学概論 倫理学概論	3後 3前	2 2	1 1	TAC(株)公務員 試験講座 講師 (平20.10)	
65	兼任	講師	マツキ　ユウマ 松木　祐馬 ＜令和2年4月＞		修士 (文学)		心理学概論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令2.4)	
66	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育 アカデミー 主任講師 (平15.4)	
67	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育 アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
68	兼任	講師	トミタ　ヨウスケ 冨田　洋介 ＜平成27年4月＞		博士 (金融 学)		日本経済論 経済学Ⅰ 経済学Ⅱ	3前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	東洋学園大学 講師 (平31.6)	
69	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理 学)		地理学概論 地誌学	1後 3前	2 2	1 1	立正大学 助教 (令4.4)	
69	兼任	講師	コバヤシ　マミ 小林　麻美 ＜令和4年4月＞		博士 (経営 学)		国際経済論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育 学)		社会学Ⅰ 社会学Ⅱ 教育社会論(学校安全を含む)	2前 2後 2前	2 2 2	1 1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	ﾄｸﾓﾄ　ﾋﾛﾀｶ 徳本　宏孝 ＜令和4年4月＞		修士 (法学)		行政法Ⅲ 地方自治法	3前 3後	2 2	1 1	中央大学 法学部 教授 (平29.4)	
72	兼任	講師	オカダ　アキト 岡田　昭人 ＜平成26年4月＞		修士 (工学)		都市と防災	2後	2	1	住まい・まちづくりデザインワークス　代表社員 (平20.7)	
73	兼任	客員 教授	サトウ　エイイチ 佐藤　榮一 ＜平成26年4月＞		高等学 校 卒業		消防学	2前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平26.4)	
74	兼任	講師	ミヤサカ　トモゾウ 宮坂　友造 ＜平成30年4月＞		修士 (法学)		民法Ⅰ 民法Ⅱ 物権法 民法基礎演習	1前 1後 2前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平30.4)	
75	兼任	講師	ボ　ヤント 宝　音図 ＜平成29年4月＞		博士 (法学)		比較政治制度論Ⅱ	1後	2	2	欧米・アジア語 学センター (平28.4)	
76	兼任	講師	アルガ　マナブ 有賀　学 ＜平成27年4月＞		学士 (法学)		不動産法Ⅰ 不動産法Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	新綜合事務所 所属 (平成18.6)	
77	兼任	講師	キム　ミワ 金　美和 ＜平成29年4月＞		修士 (法学)		国際私法	3後	2	1	青森中央学院大学 准教授 (平21.4)	

78	兼任	講師	オカザキ　リカ 岡崎　理香 ＜平成28年4月＞		修士 (法学)		行政学Ⅰ 行政学Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	一般社団法人 Global Issues Forum Tokyo 事務局長 (平26.1)	
79	兼任	講師	ヤナギ　アヤコ 柳　綾子 ＜平成30年4月＞		博士 (経営学)		会計学Ⅰ 会計学Ⅱ	2前 3前	2 2	1 1	税理士法人恒輝 (榎本税務会計事務所) (平25.9～平29.3)	
80	兼任	講師	ノジ　モモ 野地　もも ＜平成29年4月＞		修士 (商学)		財政学Ⅰ 財政学Ⅱ	2後 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平29.4)	
81	兼任	講師	ソン　ヨンジン 孫　榮振 ＜令和2年4月＞		博士 (商学)		社会経営論 経営学	3後 2前	2 2	1 1	日本マテリオ(株) 共同代表取締役 (平24.4)	
82	兼任	客員教授	ペマ・ギャルポ ＜平成16年4月＞		学士 (法学)		外交史 国際政治論	2後 2前	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平16.4)	
83	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 (教育学)		特別活動・総合的な学習の時間指導論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
86	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
87	兼任	講師	スズキ　ジュンコ 鈴木　敦子 ＜令和2年4月＞		博士 (ヒューマン・ケア科学)		教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1	白百合女子大学 生涯発達研究教育センター研究員 (平31.4)	

(注)
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（医用工学部生命医工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ヨネサカ　トモアキ 米坂　知昭 ＜平成21年1月＞		博士（工学）		公衆衛生学	1前	1	1	医用工学部教授（平21.1）	5日
							医学概論	1前	1	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							インターンシップ	3後	1	1		
							キャリア研究	3後	2	1		
							臨床検査学総論Ⅰ	2前	2	1		
							臨床検査学総論Ⅱ	2後	2	1		
							関係法規	3前	2	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
2	専	教授（学科長）	コデラ　ヨウ 小寺　洋 ＜昭和63年4月＞		理学博士		生物学	1前	2	1	医用工学部教授（昭63.4）	5日
							健康の科学	1前	2	1		
							分子生物学Ⅰ	3前	2	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
3	専	教授（学部長）	トクオカ　ヨシカズ 徳岡　由一 ＜平成13年4月＞		博士（工学）		化学	1前	2	1	医用工学部教授（平13.4）	5日
							フレッシュマンセミナⅠ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅡ	1後	2	1		
							応用数学	1後	2	1		
							バイオマテリアル学	3前	2	1		
							バイオサイエンスⅠ	1前	2	1		
							バイオサイエンスⅡ	1後	2	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.66	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							バイオサイエンスⅢ	2前	2	1		
							バイオサイエンスⅣ	2後	2	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

4	専	教授	ヨシダ　カオル 吉田　薫 ＜平成16年4月＞		博士 （理学）		分子生物学Ⅱ	3後	2	1	医用工学部 教授 （平16.6）	5日
							再生工学	3後	2	1		
							人の構造及び機能Ⅱ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
5	専	教授	ハギワラ　ヒロミ 萩原　啓実 ＜平成16年4月＞		理学博士		生化学Ⅰ	1後	2	1	医用工学部 教授 （平16.4）	5日
							生化学Ⅱ	2後	2	1		
							発生工学	3前	2	1		
							人の構造及び機能Ⅱ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
6	専	教授	ニシムラ　ヒロユキ 西村　裕之 ＜平成6年4月＞		理学博士		生物情報学	3後	2	1	医用工学部 教授 （平6.4）	5日
							臨床免疫学Ⅰ	2前	2	1		
							臨床免疫学Ⅱ	2後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.5	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
7	専	准教授	オオタ　エイスケ 太田　英輔 ＜令和4年4月＞		博士 （理学）		有機化学基礎	1後	2	1	医用工学部 准教授 （令4.4）	5日
							有機化学Ⅰ	2前	2	1		
							有機化学Ⅱ	2後	2	1		
							高分子化学	2後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							インターンシップ	3後	1	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

8	専	准教授	オオツジ　マレキ 大辻　希樹 ＜平成21年4月＞		博士 （医学）		病理学Ⅰ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平21.4）	5日
							病理学Ⅱ	3後	2	1		
							臨床病理学Ⅰ	3前	2	1		
							臨床病理学Ⅱ	3後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.66	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.5	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨床医学総論Ⅰ	3前	2	1		
							一般検査学実験	3後	0.5	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
9	専	准教授	シミズ　トモミ 清水　智美 ＜平成22年4月＞		博士 （医学）		臨床生理学Ⅱ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平22.4）	5日
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.66	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.66	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨床検査学総論Ⅲ	4後	2	1		
							一般検査学実験	3後	0.5	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
10	専	講師	オオヌマ　ケンタロウ 大沼　健太郎 ＜平成28年4月＞		博士 （工学）		物理Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （平28.4）	5日
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							力学	2前	2	1		
							電磁気学	2後	2	1		
							医用工学概論	1後	2	1		
							電気工学	2前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
11	専	講師	サワグチ　ヨシカズ 澤口　能一 ＜平成30年4月＞		博士 （薬学）		薬理学	2後	2	1	医用工学部 講師 （平30.4）	5日
							衛生科学	2後	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

12	専	講師	ハスヌマ　ユウヤ 蓮沼　裕也 ＜平成24年4月＞		博士 （工学）		遺伝子工学 システム安全工学 工学ワークショップⅠ 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅱ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅠ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 一般検査学実験 臨地実習	3後 3前 1前 2前 2後 3後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後 3後 4通	2 2 4 0.5 0.66 0.18 0.5 0.66 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 2 2 0.5 0.56	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （平24.4）	5日
13	専	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和4年4月＞		博士 （理工学）		工学へのステップ 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 機器分析学 環境分析学 工学ワークショップⅠ 工学ワークショップⅡ 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅲ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 臨地実習	1前 1後 2後 2前 2後 1前 1後 2前 3前 3後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 4通	2 2 2 2 2 4 4 0.5 0.4 0.18 0.18 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 0.56	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （令4.4）	5日
14	専	助教	ナミカワ　ユイ 濤川　唯 ＜平成23年4月＞		学士 （外国文化）		医用超音波工学 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅲ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅠ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 一般検査学実験 臨地実習	3前 2前 3前 3後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 4通	2 0.5 0.66 0.66 0.5 0.18 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 0.5 0.56	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 助教 （平23.4）	5日
15	兼担	教授	サノ　モトアキ 佐野　元昭 ＜平成11年4月＞		理学博士		物理Ⅰ 物理Ⅱ コンピュータリテラシ 医療情報処理入門 システム工学 医用統計学	1前 1後 1前 1後 2前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平11.4）	5日
16	兼担	教授	モリシタ　タケシ 森下　武志 ＜平成20年4月＞		博士 （工学）		福祉工学 工学ワークショップⅡ	3後 1後	2 4	1 1	医用工学部 教授 （平20.4）	5日
17	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 医用レーザ工学 地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 1後	2 2 2 2 2 0.7 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
18	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
19	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 （平5.4）	5日

20	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
21	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士(地球環境科学)		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
22	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
23	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
24	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
25	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士(学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・後 1前・後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
26	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年4月＞		博士(学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 臨床心理学	1前 2前 2前 2後 2後 3後	2 1 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
27	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士(スポーツ科学)		地域における健康課題 コミュニティ・ノアンリアーンヨン 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
28	兼担	准教授	ミナミ　ジュンコ 南　順子 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		人間生物学	2前	2	1	医用工学部 准教授 (令3.4)	
29	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成27年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平27.4)	5日
30	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士(スポーツ科学)		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日
31	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
32	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日

33	兼担	講師	イシカワ　ムツオ 石河　睦生 ＜平成23年4月＞		博士 （工学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 講師 （平23.4）	5日
34	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
35	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士 （文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
36	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
37	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
38	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
39	兼任	講師	エリザベス　オノデラ ＜平成19年4月＞		Bachelor of Science Bachelor of Arts		英語Ⅲ 英語Ⅳ	2前 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平19.4）	
40	兼任	講師	イナダ　マサノリ 稲田　政則 ＜平成30年4月＞		博士 （システムズ・マネジメント）		放射線工学概論	1後	2	1	つくば国際大学 准教授 平27.4	
41	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 （平15.4）	
42	兼任	講師	オチアイ　アキラ 落合　晃 ＜令和3年4月＞		博士 （医学）		統合医療学概論	2前	2	1	日本医療科学大学 教授 （平29.4）	
43	兼任	講師	コバヤシ　タカシ 小林　貴 ＜平成28年4月＞		理学修士		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	桐蔭横浜大学 特任准教授 （平26.4～平28.3）	
44	兼任	講師	ササキ　マイコ 佐々木　舞子 ＜平成30年4月＞		学士 （社会福祉学）		看護学概論	2後	2	1	昭和大学藤が丘病院 （平23.4）	
45	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 （平15.4）	
46	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
47	兼任	講師	ﾐｷﾞﾀｶ　ｼﾞｭﾝｺ 右高　潤子 ＜平成24年4月＞		博士 （理学）		人の構造及び機能Ⅰ	1前	2	1	聖マリアンナ医科大学 講師 （平22.11）	

48	兼任	講師	ミツイ　ケンイチ 三井　健一 ＜平成15年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅱ	3後	2	1	東京大学 特任研究員 (平18年4月)	
49	兼任	講師	ヤナセ　スミノ 梁瀬　澄乃 ＜令和4年4月＞		博士 (医学)		医動物学	3前	2	1	大東文化大学 准教授 (平17.4)	
50	兼任	講師	オクハシ　ユウキ 奥橋　祐基 ＜令和4年9月＞		博士 (医学)		臨床血液学Ⅰ	1後	2	1	東京工科大学 助教 (平成26年4月)	
51	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
52	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
53	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
54	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
55	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
56	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
57	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
58	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
59	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
60	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
61	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
62	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	

63	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科(旧)）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授(学科長)	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学校体験実習（小学校）	2前	1	1		
							学校体験実習（中・高）	2前	1	1		
							学校インターンシップ実習	4前	1	1		
							音楽概論	2前・後	2	2		
							教科指導法（音楽）	3前・後	2	2		
							教育実習（初等）	4前	4	1		
							教育実習（中学校）	4前	4	1		
							教育実習（高校）	4前	2	1		
							事前・事後指導（初等）	4前	1	1		
							事前・事後指導（中・高）	4前	1	1		
							教職実践演習（初等を含む）	4前	2	1		
							音楽演習	3前	2	1		
							教職演習Ⅰ	2前	2	1		
							教職演習Ⅱ	3前	2	1		
							教職演習Ⅲ	3前	2	1		
2	専	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平28.1)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							教師論（初等を含む）	1後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
3	専	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							文学Ⅰ	1前	2	2		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							社会貢献論	1後	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅰ	1前	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅱ	1前	2	1		
							人文科学系教科総論	2前	2	1		
							国語概論（書写を含む）	3前	1	1		
							教科指導法（国語）	3後	1	1		
							文章表現論	3前	2	1		
4	専	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士(地球環境科学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平31.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							地球と環境	1後	2	1		
							科学とスポーツ	3後	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							理科概論	3前	1	1		
							生活概論	3後	1	1		
							教科指導法（理科）	3前	1	1		
							教科指導法（生活）	3後	1	1		
							自然科学系教科総論	1後	2	1		
							自然科学	1後	2	1		

5	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
							表現とコミュニケーション	1後	2	1		
							英語Ⅰ	1前	2	1		
							英語Ⅱ	1後	2	1		
							英語Ⅲ	2前	2	1		
							英語Ⅳ	2後	2	1		
6	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士 (スポーツ科学)		地域における健康課題	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
							ダンス	1前・後	1	2		
							ダンス指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コミュニティ・ファシリテーション	1後	2	1		
							地域政治論	2前	2	1		
							地域観光事業論	2前	2	1		
7	専	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士 (心理学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教育心理学（初等を含む）	1前	2	1		
							教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2前	2	1		
8	専	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							自然活動論Ⅰ（実習を含む）	1前	2	1		
							学校保健・学校安全	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							自然活動論Ⅱ（実習を含む）	2前	2	1		
							「スポーツ人物史」の研究	3前	2	1		
9	専	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士 (体育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ開発・指導論Ⅱ（実習を含む）	3前	2	1		
							小学体育Ⅱ	1後	1	1		
							小学体育Ⅲ	2後	2	1		
							教科指導法（体育）	3前	2	1		
							体育科教育法	2前	2	1		
10	専	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	1前	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	1後	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	2前	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	2後	1	1		
							教育学	1前	2	1		
							教育方法論（初等を含む）	2前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
11	専	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士 (体育科学)		バスケットボール	1前・後	1	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		

12	専	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士 (体育学) 修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ教育学	2前	2	1		
							身体表現教育論Ⅰ（実習を含む）	2後	2	1		
							身体表現教育論Ⅱ（実習を含む）	3前	2	1		
							スポーツ開発・指導論Ⅰ（実習を含む）	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							幼児スポーツ論（実習を含む）	2後	2	1		
13	専	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							数学概論Ⅰ	1前	2	1		
							数学概論Ⅱ	2前	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							算数概論	3前	1	1		
							教科指導法（算数）	3前	1	1		
							身近な数学	3前	2	1		
14	兼担	教授 (学部長)	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学 修士		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 教授 (平7.4)	5日
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
15	兼担	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士 (スポーツ科学)		機能解剖学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
16	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1	法学部 教授 (平5.4)	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
17	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学 博士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3	法学部 教授 (平14.9)	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
							英語コミュニケーションⅤ	3前	2	1		
							英語コミュニケーションⅥ	3後	2	1		
18	兼担	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜平成21年4月＞		教育学 修士		社会科学系教科総論	2後	2	1	法学部 教授 (平21.4)	5日
							社会科概論	3前	1	1		
							教科指導法（社会）	3前	1	1		
19	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平25.4)	5日
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							スポーツと政治	3後	2	1		
							スポーツ政策論	2前	2	1		
21	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 (学術)		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
22	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士 (学術)		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							心理学	1前	2	1		
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							臨床心理学	3前	2	1		

23	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士（理学）		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
24	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
25	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士（法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	法学部 教授 （平19.4）	5日
26	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
27	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
28	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士（文学）		宗教学概論 文学Ⅱ 身体と文化 スポーツ史 公務員演習Ⅰ(1)(2) 公務員演習Ⅱ(1)(2) 公務員演習Ⅲ(1)(2)	1後 1後 1前 1前 2後 3前 3後	2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
29	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士（経営学）		統計入門 栄養学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
30	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜平成26年4月＞		博士（心理学）		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
31	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
32	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士（運動生理学）		トレーニング論（実習を含む）	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
33	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 （平17.4）	5日
34	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士（法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 （平16.4）	5日
35	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士（教育学）		教育原理・教育課程論（初等を含む）	2後	2	1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
36	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ健康科学）		スポーツバイオメカニクス 陸上競技指導法・コーチング論	2後 3後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
37	兼担	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士（学術）		陸上競技	1前・後	1	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平21.4）	5日
38	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士（文学）		現代社会とスポーツ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平29.4）	5日
39	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士（体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ 学部キャリアセミナーⅡ スポーツ哲学 バレーボール ネット型球技指導法・コーチング論	2後 3前 2後 1前・後 3前	2 2 2 1 2	1 1 1 2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日

40	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士 （体育学）		柔道 運動処方論 武道指導法・コーチング論	1 前・後 1後 3前	1 2 2	2 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平18.4）	5日
41	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 剣道 武道指導法・コーチング論 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 3前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
42	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作）	1前 1前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
43	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学 スポーツ施設・用具論 スポーツマーケティング論 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 2前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
44	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
46	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
47	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
48	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士（学術）		高齢者活動支援論（実習を含む）	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平30.4）	5日
49	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士（武道・スポーツ）		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論	2前・後 3後	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
50	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜平成7年4月＞		修士（教育学）		水泳 水泳指導法・コーチング論 コーチング学	1 前・後 3後 3後	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平7.4）	5日

51	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 （平13.4）	5日
52	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
53	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和2年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 （令2.4）	
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）	3前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
55	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
56	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
57	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
58	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
59	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
60	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
61	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
62	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
63	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	
64	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｳﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 （令3.3）	
65	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
66	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
67	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor （平27.4）	

68	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
69	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員 試験講座 講師 (平20.10)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（初等および学校安全を含む）	1前 2後	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	
72	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
73	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
74	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 (令4.4)	
75	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
76	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
77	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
78	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
79	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ （体操：体つくり運動、集団行動）	1前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
80	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
81	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
82	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論（初等を含む）	2後	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
83	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		児童生徒指導論	2前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
84	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論（初等を含む）	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	

85	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜平成25年4月＞		修士 (体育学)		サッカー	2前・後	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 (令3.4)	
86	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 (平26.4)	
87	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 1	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
88	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和2年4月＞		修士 (体育学)		テニス	2 前・後	1	2	フリーランス	
89	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜平成22年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2 前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
90	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 (体育学)		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	
91	兼任	講師	ナダチ　ヒデアキ 名達　英詔 ＜令和5年4月＞		修士 (芸術学)		図画工作概論 教科指導法（図画工作）	3前 3前	1 1	1 1	十文字学園女子大学 教授 (平29.4)	
92	兼任	講師	スズキ　マユミ 鈴木　真優美 ＜令和5年4月＞		学士 (教育学)		家庭概論 教科指導法（家庭）	3後 3後	1 1	1 1	川崎市立東橘中学校 非常勤講師 (平30.4)	
93	兼任	講師	オクムラ　コウイチ 奥村　耕一 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		人文科学系教科総論 外国語概論 教科指導法（外国語）	2前 3前 3後	1 1 2	1 1 1	情報経営イノベーション専門職大学 講師 (令2.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（医用工学部臨床工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	サノ　モトアキ 佐野　元昭 ＜平成11年4月＞		理学博士		力学	2前	2	1	医用工学部教授 (平11.4)	5日
							電磁気学	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							コンピュータリテラシ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅠ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅡ	1後	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							医用情報処理入門	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							システム工学	2前	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
2	専	教授 (学科長)	サトウ　トシオ 佐藤　敏夫 ＜平成9年12月＞		博士(医学) 博士(工学)		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部教授 (平9.12)	5日
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							医用機械工学	2前	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							生体計測装置学	2後	2	1		
							医用機器安全管理学	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用治療機器工学	3前	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							関係法規	3後	1	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
3	専	教授	モリシタ　タケシ 森下　武志 ＜平成20年4月＞		博士(工学)		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部教授 (平20.4)	5日
							工学へのステップ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							医用電磁気学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							電気工学	2前	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							電子工学	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							福祉工学	3後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		

4	専	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							数学Ⅱ	1後	2	1		
							微分積分学Ⅰ	2前	2	1		
							微分積分学Ⅱ	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							基礎化学	1前	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							材料工学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							医用レーザ工学	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							システム安全工学	3後	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							科学技術の未来	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
5	専	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年4月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
6	専	准教授	ミナミ　ジュンコ 南　順子 ＜令和3年4月＞		博士 （医学）		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部 准教授 （令3.4）	5日
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							臨床生理学	2後	2	1		
							臨床医学総論Ⅰ	3前	2	1		
							臨床医学総論Ⅱ	3後	2	1		
							人の構造及び機能	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							病理学概論	3前	2	1		
							人間生物学	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
7	専	講師	イシカワ　ムツオ 石河　睦生 ＜平成23年4月＞		博士 （工学）		数学Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （平23.4）	5日
							数学Ⅱ	1後	2	1		
							物理Ⅰ	1前	2	1		
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							微分積分学Ⅰ	2前	2	1		
							微分積分学Ⅱ	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用超音波工学	3前	2	1		
							人間工学	3後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		

8	専	講師	モトハシ　ユカ 本橋　由香 ＜平成21年4月＞		博士 （工 学）		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部 講師 （平21.4）	5日
							医用工学概論	1前	2	1		
							応用数学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							計測工学	2前	2	1		
							生体物性工学	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
9	専	講師	ヤマウチ　シノブ 山内　忍 ＜平成24年4月＞		博士 （工 学）		キャリア研究Ⅰ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平24.4）	5日
							キャリア研究Ⅱ	3後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							臨床生化学	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							生体機能代行装置学Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
10	専	講師	オク　トモコ 奥　知子 ＜平成30年4月＞		修士 （工 学）		健康の科学	1前	2	1	医用工学部 講師 （平30.4）	5日
							インターンシップ	3前	1	1		
							医学概論	1前	1	1		
							公衆衛生学	1前	1	1		
							放射線工学概論	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							生体機能代行装置学Ⅰ	2後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
11	専	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工 学）		物理Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （令3.4）	5日
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							電子回路学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		

12	兼担	教授	コデラ　ヨウ 小寺　洋 ＜昭和63年4月＞		理学博士		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	医用工学部 教授 (昭63.4)	5日
13	兼担	教授	ヨシダ　カオル 吉田　薫 ＜平成16年6月＞		博士 (理 学)		基礎医学実習 臨床免疫学	2後 3前	2 2	1 1	医用工学部 教授 (平16.6)	5日
14	兼担	教授	ニシムラ　ヒロユキ 西村　裕之 ＜平成6年4月＞		理学博 士		基礎医学実習	2後	2	1	医用工学部 教授 (平6.4)	5日
15	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修 士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
16	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学 博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
17	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士 (地球 環境科 学)		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政 策学部 教授 平31.4	5日
18	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修 士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 平17.4	
19	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博 士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	
20	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育 学)		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機 構 教授 (令和3.4)	5日
21	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 (学 術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・ 後 1前・ 後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平24.4)	5日
22	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士 (学 術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 臨床心理学	1前 2前 2前 2後 2後 3後	2 1 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平16.7)	5日
23	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士 (ス ポーツ 科学)		地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平30.4)	5日
24	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成27年4月＞		体育学 修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平27.4)	5日
25	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士 (ス ポーツ 科学)		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 准教授 (平31.4)	5日

26	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
27	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
28	兼担	講師	サワグチ　ヨシカズ 澤口　能一 ＜平成30年4月＞		博士 (薬学)		臨床薬理学	3後	2	1	医用工学部 講師 (平30.4)	5日
29	兼担	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和4年4月＞		博士 (理工学)		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	医用工学部 講師 (令4.4)	5日
30	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
31	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士 (文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
32	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 (法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 (平13.4)	5日
33	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 (教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日
34	兼任	講師	エリザベス　オノデラ ＜平成19年4月＞		Bachelor of Science Bachelor of Arts		英語Ⅲ 英語Ⅳ	2前 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平19.4)	
35	兼任	講師	イトウ　テツロウ 伊藤　徹郎 ＜平成27年4月＞		学士 (工学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 臨床工学技士 (平19.4)	
36	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
37	兼任	講師	オカモト　ヒロミ 岡本　裕美 ＜令和2年4月＞		専門学校卒		生体機能代行装置学Ⅲ	3後	2	1	東邦大学医療センター大橋病院 (平14.10)	
38	兼任	講師	カネオカ　ブンジ 金岡　文志 ＜平成23年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅲ	4前	2	1	ベルファミリークリニック 院長 (平26.3)	
39	兼任	講師	ササキ　マイコ 佐々木　舞子 ＜平成30年4月＞		学士 (社会福祉学)		看護学概論	2後	2	1	昭和大学藤が丘病院 (平23.4)	

40	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
41	兼任	講師	サノ　エリカ 佐野　恵里佳 ＜平成31年4月＞		学士 (臨床工学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 (平27.4)	
42	兼任	講師	サトウ　ユリ 佐藤　友理 ＜平成28年4月＞		修士 (医療科学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 臨床工部　勤務 (平24.4)	
43	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
44	兼任	講師	ベッショ　イクオ 別所　郁夫 ＜令和2年4月＞		専門学校卒		生体機能代行装置学Ⅲ	3後	2	1	東邦大学医療センター大橋病院 (平2.4)	
45	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
46	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
47	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
48	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
49	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
50	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
51	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
52	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
53	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
54	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
55	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	

56	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
57	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツテクノロジー学科（旧））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平7.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							柔道	1後	1	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅱ	3後	1	1		
							スポーツ指導者論	1前	2	1		
2	専	教授（学科長）	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜平成21年4月＞		体育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平21.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							学科基礎セミナー	1前	2	1		
							テーピング論（実習を含む）	1前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅠ（実習を含む）	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅡ（実習を含む）	3後	2	1		
							アスレティックトレーナーの役割	1前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅢ（実習を含む）	4前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅳ	3後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅴ	4前	2	1		
3	専	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ科学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平24.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							機能解剖学Ⅰ	1前	2	1		
							予防とコンディショニングⅠ（実習を含む）	1前	2	1		
							機能解剖学Ⅱ	2後	2	1		
							検査・測定と評価	3前	2	1		
							予防とコンディショニングⅡ（実習を含む）	2後	2	1		
							予防とコンディショニングⅢ（実習を含む）	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅱ	2後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅲ	3前	1	1		
4	専	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平16.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							発育発達老化論	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	1	1		
							スポーツ医学Ⅱ	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
5	専	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士（経営学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平26.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							統計入門	1後	2	1		
							評価測定学（実習を含む）	3前	2	1		
							栄養学	2前	2	1		
							スポーツ栄養学	2後	2	1		

6	専	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士 (運動生理学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 トレーニング論（実習を含む） 運動生理学 スキー・スノーボード実習	3前 3後 4前 4後 4通 1前 2前 2前	2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平26.4	5日
7	専	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学 健康教育学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平20.4	5日
8	専	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜平成26年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 メンタルトレーニング論 ジュニアスポーツコーチング論 スポーツコーチング実習Ⅱ	2前 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平26.4	5日
9	専	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士 (学術)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技 トレーニング学（実習を含む） スポーツイングリッシュ 測定機器の操作	3前 3後 4前 4後 4通 1前・後 3前 3前 2前	2 2 2 2 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平21.4	5日
10	専	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技指導法・コーチング論 評価測定学（実習を含む） 動作分析論	2後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 3前 3前	2 2 2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
11	専	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士 (体育学)		柔道 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 武道指導法・コーチング論 運動処方論 スポーツコーチング実習Ⅰ	1後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 1後 3前	1 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平18.4	5日
12	専	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作） 情報リテラシーⅡ スポーツ情報処理論	1後 1前 1後 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平3.4	5日
13	専	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士 (武道・スポーツ)		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論 スポーツコーチング実習Ⅰ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 チャンピオンシップスポーツコーチング論	2前・後 3後 3前 3前 3後 4前 4後 4通 3前	1 2 1 2 2 2 2 4 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 平20.4	5日

14	専	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和4年4月＞		修士（スポーツ科学）		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 スポーツ映像分析論 スポーツデータ解析 スポーツ情報戦略論 スポーツ技術・戦術論	3前 3後 4前 4後 4通 2後 3後 2前 3前	2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 令4.4	5日
15	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境 自然科学	1後 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
16	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
17	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 学校インターンシップ実習 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前 4前	4 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平21.4	5日
18	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
19	兼担	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜平成30年4月＞		医学博士		健康管理とスポーツ医学	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平30.4	5日
20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		国際コミュニケーション実習Ⅰ 国際コミュニケーション実習Ⅱ 国際コミュニケーション実習Ⅲ 障害者スポーツ論	1前 1前 1前 2後	4 4 4 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平25.4	5日
21	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平17.4	5日
22	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 ダンス ダンス指導法・コーチング論 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 3後 1後 2前 2前	2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
23	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
24	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅤ 英語コミュニケーションⅥ	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	3 3 1 1	法学部 教授 (平14.9)	5日
25	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
26	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士（法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 (平16.4)	5日

27	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 （学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
28	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士 （学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	1	1		
							心理学	1前	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
29	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							科学技術の未来	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
30	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士 （法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	1前	1	1	法学部 教授 （平19.4）	5日
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	1後	1	1		
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	2前	1	1		
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	2後	1	1		
31	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
32	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平28.1	5日
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
33	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		文学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平21.4	5日
							社会貢献論	1後	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅰ	1前	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅱ	1前	2	1		
34	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士 （心理学）		教育心理学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
							教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1		
35	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士 （文学）		宗教学概論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平20.4	5日
							文学Ⅱ	1後	2	1		
							身体と文化	1前	2	1		
							スポーツ史	1前	2	1		
							公務員演習Ⅰ(1)(2)	2後	4	1		
							公務員演習Ⅱ(1)(2)	3前	4	1		
							公務員演習Ⅲ(1)(2)	3後	4	1		
36	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士 （教育学）		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
37	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士 （体育学）		体育科教育法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 令3.4	5日
38	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士 （教育学）		韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	1前	1	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	1後	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	2前	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	2後	1	1		
							教育学	1前	2	1		
							教育方法論	2後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		

39	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平30.4	5日
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
40	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士（文学）		現代社会とスポーツ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平29.4	5日
41	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士（体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ	2後	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
							学部キャリアセミナーⅡ	3前	2	2		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							バレーボール	1前・後	1	2		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
42	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
							剣道	1前	1	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							体育実技Ⅰ	1前	1	1		
							体育実技Ⅱ	1後	1	1		
							アスリートの科学	1前	2	1		
							アスリートキャリア	1後	2	1		
							アスリート・クロス	2前	2	1		
							リーダーシップ教育	2前	2	1		
							ライフスキル	2後	2	1		
43	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							スポーツ施設・用具論	1後	2	1		
							スポーツマーケティング論	2前	2	1		
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
44	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士（体育科学）		バスケットボール	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 平20.4	5日
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		
45	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		異文化の科学	1前	2	1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							異文化リサーチ	2前	2	1		
							フード文化論	2後	2	1		
							若者文化論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							ことばのスキル	1後	2	1		
46	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜平成7年4月＞		修士（教育学）		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 平7.4	5日
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
47	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							データコミュニケーション入門	1後	2	1		
							心の科学	1前	2	2		
							こころの世界	1前	2	1		
							青年と心理学	1・2後	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
48	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							地域の科学	1前	2	2		
							サステナブル社会学	1後		1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							横浜地域学	2後	2	1		
							実践地域創成学	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		

49	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
50	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 令4.4	5日
51	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士 （学術）		評価測定学（実習を含む）	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 平30.4	5日
52	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士 （体育学） 修士 （教育学）		スポーツ教育学 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ	2前 2後 3前 3後	2 0.7 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 平20.4	5日
53	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 （平13.4）	5日
54	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
55	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和2年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
56	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
57	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
58	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
59	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
60	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
61	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
62	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
63	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
64	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
65	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	

66	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｳﾝﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
67	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
68	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
69	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
70	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
71	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員試験講座 講師 (平20.10)	
72	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（学校安全を含む）	1前 2前	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
73	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	
74	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
75	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
76	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 令4.4	
77	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 令3.4	
78	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
79	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
80	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	

81	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ (体操：体つくり運動、集団行動)	1 前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
82	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
83	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
86	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
87	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜平成25年4月＞		修士 (体育学)		サッカー	2前・後	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
88	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
89	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	1 2	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
90	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和2年4月＞		修士 (体育学)		テニス	2 前・後	1	2	フリーランス	
91	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜平成22年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2 前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
92	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 (体育学)		エアロビクス（実習を含む） 体つくり運動指導法 ストレッチング論（実習を含む）	3前 3後 1後	1 2 2	2 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツ健康政策学科（旧））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授(学科長)	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平25.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							障害者スポーツ論	2後	2	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅰ	1後	1	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅱ	1後	1	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅲ	2後	2	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							スポーツ政策論	2前	2	1		
							スポーツと政治	2後	2	1		
							国際交流論	2後	2	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							障害概論（実習を含む）	2前	2	1		
							地域スポーツ経営論	3前	2	1		
2	専	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士（学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平24.4)	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
							広告論	2後	2	1		
							映画・映像論	2前	2	1		
							日本文化表現活動	1後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
3	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士（学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平16.7)	5日
							心理学	1前	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
4	専	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士（文学）		宗教学概論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平20.4)	5日
							文学Ⅱ	1後	2	1		
							身体と文化	1前	2	1		
							スポーツ史	1前	2	1		
							日本伝統の身体表現	2前	2	1		
							日本文化論	2後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							公務員演習Ⅰ(1)(2)	2後	4	1		
							公務員演習Ⅱ(1)(2)	3前	4	1		
							公務員演習Ⅲ(1)(2)	3後	4	1		

5	専	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜平成30年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							生理学	1後	2	1		
							生活習慣病論	1後	2	1		
							健康管理とスポーツ医学	3前	2	1		
							健康医学入門	1前	2	1		
							運動療法演習	3前	2	1		
6	専	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士（文学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平29.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							現代社会とスポーツ	1前	2	1		
							文化と政策	2後	2	1		
							環境と人間	2後	2	1		
7	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							スポーツ施設・用具論	1後	2	1		
							スポーツマーケティング論	2前	2	1		
							NPOマネジメント	2前	2	1		
							スポーツマネジメント論	2前	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
8	専	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士（体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ	2後	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							学部キャリアセミナーⅡ	3前	2	2		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							バレーボール	1前・後	1	2		
							アウトドア実習Ⅰ	1前	2	1		
							アウトドア実習Ⅱ	1後	2	1		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
9	専	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 (平7.4)	5日
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
10	専	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士（学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							評価測定学（実習を含む）	3前	2	1		
							ホスピタリティ論	2後	2	1		
							社会福祉概論	1後	2	1		
							健康運動現場実習	3前	1	1		
11	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	2	1		

12	兼担	教授 （学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学修士		柔道 武道指導法・コーチング論	1前 3前	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平7.4）	5日
13	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 ダンス ダンス指導法・コーチング論 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 3後 1後 2前 2前	2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平30.4）	5日
14	兼担	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ科学）		機能解剖学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
15	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士（経営学）		統計入門 栄養学 評価測定学（実習を含む）	1後 2前 3前	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
16	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士（運動生理学）		トレーニング論（実習を含む） 運動生理学	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
17	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学 健康教育学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
18	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 （平5.4）	5日
19	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅤ 英語コミュニケーションⅥ	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	3 3 1 1	法学部 教授 （平14.9）	5日
20	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 （平17.4）	5日
21	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士（法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 （平16.4）	5日
22	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士（心理学）		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
23	兼担	教授	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜平成21年4月＞		体育学士		リハビリテーション論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
24	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境 自然科学	1・2前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
25	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前	4 2 1 1 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
26	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
27	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
28	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士（法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	法学部 教授 （平19.4）	5日

29	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		文学Ⅰ 社会貢献論 サービスラーニング実習Ⅰ サービスラーニング実習Ⅱ	1前 1後 1前 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
30	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際 保健科教育法	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平28.1)	5日
31	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
32	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士(心理学)		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
33	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士(理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
34	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
35	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士(スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 陸上競技指導法・コーチング論 評価測定学（実習を含む）	2後 3後 3前	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
36	兼担	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士(学術)		陸上競技	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平21.4)	5日
37	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作） スポーツ情報処理論	1後 1前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
38	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士(体育科学)		バスケットボール ゴール型球技指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
39	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士(教育学)		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 (平29.4)	5日
40	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士(体育学)		体育科教育法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
41	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士(教育学)		韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4 教育学 教育方法論 ICT活用スキルの理論と実際	1前 1後 2前 2後 1前 2後 3前	1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
42	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士(体育学)		柔道 運動処方論 武道指導法・コーチング論	1前 1後 3前	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平18.4)	5日

43	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ 剣道 武道指導法・コーチング論 アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 3前 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平26.4)	5日
44	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
45	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
46	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
47	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
48	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 (令和3.4)	5日
49	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士(体育学) 修士(教育学)		スポーツ教育学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
50	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士(武道・スポーツ)		ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
51	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士(教育学)		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
52	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士(法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 (平13.4)	5日
53	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士(教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士(教育学)		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
55	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士(体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
56	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士(文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	

57	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
58	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
59	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
60	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
61	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
62	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
63	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
64	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
65	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
66	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
67	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
68	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
69	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員試験講座 講師 (平20.10)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（学校安全を含む）	1前 1前	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	

72	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
73	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
74	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 (令4.4)	
75	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
76	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
77	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
78	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
79	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ (体操：体つくり運動、集団行動)	1 前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
80	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論 地域社会とスポーツ メディアと社会	1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
81	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
82	兼任	講師	トウジマ　ヒデオ 東島　日出夫 ＜令和元年8月＞		修士 (法学)		労働と法 労働安全衛生と法	1前 1後	2 2	1 1	日本年金機構 (平20.4)	
83	兼任	講師	ツボイ　ケンイチ 坪井　賢一 ＜平成25年4月＞		学士 (経済学)		文化と経済	2前	2	1	ダイヤモンド社取締役兼論説委員 (平29.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
86	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
87	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜平成25年4月＞		体育学 修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 (平3.4)	
88	兼任	講師	モギ　ヒロコ 茂木　宏子 ＜令2年4月＞		修士 (教育学)		スポーツジャーナリズム論	1後	2	1	フリージャーナリスト (昭61.4)	
89	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ベースボール型球技指導法・コーチング論	3前	2	2	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	

90	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 （体育学）		エアロビクス（実習を含む） 体つくり運動指導法 ストレッチング論（実習を含む）	3前 3後 1後	1 2 2	2 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平22.4）	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。